

令和2年度

川崎市立小学校

学習状況調査

報告書

川崎市教育委員会・川崎市立小学校校長会

はじめに

川崎市教育委員会
教育長 小田嶋 満

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月まで臨時休業となり、6月より学校が再開されたものの、制限の多い教育活動にせざるを得ない状況となりました。このような中、本調査が実施されたことに感謝するとともに、明らかとなった子どもの学習状況等は、大変貴重な資料であると考えております。

本年度より新学習指導要領が全面実施となり「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力をバランスよく育成し、知・徳・体にわたる「生きる力」を育成することが求められております。そのためには、“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、これからの時代に求められる資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」を実現することが必要となってきます。各学校では、育成を目指す資質・能力を明らかにし、学習状況等の実態を把握し、学習指導上の課題を把握しながら指導の改善につなげていくことが求められています。

さて、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、文部科学省では「GIGA スクール構想」における整備を加速することで、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用により全ての子どもたちの学びを保障できる環境を早急に実現するように示しました。本市においては、未来社会の創り手を育むかわさきの新しい教育「かわさき GIGA スクール構想」を掲げて取り組みを進めております。1人1台分の端末・高速ネットワークが整備されることで、子どもたちの学びは劇的に変わります。

しかしながら、かわさき GIGA スクール構想でどんなに学びが変化しても、育成を目指す資質・能力が変わるわけではありません。本調査により明らかになった学習状況等を踏まえ、指導の改善を図り、これまでに積み上げてきた教育実践と最先端ICTのベストミックスを図ることにより、子どもたちの力を最大限に引き出せるように取り組んでいただきたいと存じます。

各学校におかれましては、本報告書を積極的に御活用いただき、学習状況を的確に把握・分析し、子どもたちにとって「どのような力が必要なのか」、「どのように指導の改善・充実を図っていくのか」について GIGA スクール構想を視野に入れながら、学校全体で考え、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進し、教育課程全体の改善に取り組んでいただきますようお願いいたします。

むすびに、川崎市学習状況調査の運営・実施に当たって御尽力くださいました「小学校学習状況調査研究会議」をはじめとする川崎市立小学校長会の皆様に、厚く御礼申し上げます。

学習状況調査の実施にあたって

川崎市立小学校長会
会長 佐藤 公孝

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う全国一斉臨時休業という、これまで誰もを経験したことのない緊急事態に見舞われ、本市においても6月からの学校再開となりました。各学校におかれましては、新しい生活様式を踏まえて様々な教育活動の工夫を凝らす中で、本調査の実施にご協力いただいたことに心から感謝申し上げます。

川崎市立小学校学習状況調査は、平成17年3月に策定された「かわさき教育プラン」に基づき、平成17年度より市立小学校5年生を対象に実施されています。本調査は、児童の学習状況等を調査することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにし、充実した授業づくりのためにその結果を活用することを目的の一つとしています。また、調査結果を自校の教育課程編成に生かし、確かな学力の向上のためのPDCAサイクルを機能させることは、本年度より全面実施となった新学習指導要領で求められている「カリキュラム・マネジメント」の充実につながります。

調査問題の作成につきましては、基礎的・基本的な事項についての定着状況を把握できるようにするとともに、過去の問題と関連した出題をすることによって、解答傾向の推移を把握できるようにしています。また、報告書では、各設問を分析、考察し、今後の指導にあたっての改善点等をまとめております。

今年度の状況における本調査で明らかになった学習状況等は、大変貴重な資料であるといえます。各学校におかれましては、本報告書を御活用いただきながら、各学校が「育成を目指す資質・能力」を明確にし、社会と連携・協働してその実現に取り組む「社会に開かれた教育課程」を編成、実施し、教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」に努めていただきますようお願いいたします。

最後に、問題の作成及び結果の分析に取り組まれた小学校国語教育研究会並びに算数教育研究会の皆様へ、厚くお礼申し上げます。また、ご尽力いただきました川崎市教育委員会・川崎市総合教育センター並びに本市小学校教育研究会の皆様へ深く感謝申し上げます。

目次

I	調査の概要	
1.	調査の目的	5
2.	調査の内容	5
3.	調査の対象	5
4.	調査実施日及び調査対象教科・人数	5
	(1) 調査実施日	5
	(2) 調査対象教科・人数	5
II	調査結果の概要	
1.	国語	6
	(1) 作問にあたって	6
	(2) 領域ごとの結果	6
	(3) 出題・観点等一覧	7
	(4) 大問ごとの分析と考察	8
	(5) 今後の指導にあたって	22
2.	算数	24
	(1) 作問にあたって	24
	(2) 領域ごとの結果	24
	(3) 出題・観点等一覧	25
	(4) 大問ごとの分析と考察	26
	(5) 今後の指導にあたって	50
3.	生活や学習についてのアンケート	55
	調査の概要	55
	調査結果と分析	57
	単純集計	57
	クロス集計	77
	資料 調査結果集計表	87
III	資料編	98
	国語（問題用紙・聞き取り問題原稿・解答用紙）	
	算数（問題用紙・解答用紙）	
	生活や学習についてのアンケート（質問用紙）	

I 調査の概要

1. 調査の目的

全市的な規模で児童の学習状況を調査することにより、学習指導上の問題点及び改善点を明らかにする。その結果を、各学校においては、今度の学習指導法の改善や教育課程編成の工夫等、児童の基礎学力の向上に役立てる。

2. 調査の内容

○ 国語・算数

調査の目的に基づき、学習指導要領に定める第4学年までの内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当な項目について調査を実施した。

○ 学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

児童の学習や生活に対する意識等について明らかにするために、児童を対象とする意識調査を実施した。

3. 調査の対象

市内全市立小学校の第5学年の児童

4. 調査実施日及び調査対象教科・人数

(1) 調査実施日 令和2年7月6日（月）～10日（金）

(2) 調査対象教科・人数 小学校第5学年

国語	11,843人
算数	11,851人
生活や学習についてのアンケート	11,872人

II 調査結果の概要

2. 国 語

(1) 作問にあたって

- ① 本調査の目的に鑑み、主に4年生までの国語科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について定着状況の把握に資する出題となるように努めた。
- ② 国語科の学習指導要領においては、各学年の目標及び内容などが2学年ずつまとめて示されている。したがって本調査では主に、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項の中から出題している。
- ③ 国語科の内容は〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕からなっている。しかし、本調査の作問にあたっては、前学年までに含まれる指導事項の中から出題するため、平成20年告示の学習指導要領における内容をもととした。また、調査結果の分類も平成20年告示の学習指導要領によって示している。ただし、(3)「出題・観点等一覧」の「学習指導要領」の欄や(4)「大問ごとの分析と考察」、(5)の「今後の指導にあたって」においては、これからの授業改善等に活用するため、平成29年告示の学習指導要領との関連を記載したり、その内容を踏まえて考察したりした。

児童の学習状況をなるべく広い範囲において把握していくために、それぞれの内容から出題することとしたが、本調査によって測定できる資質・能力は、特定の一部であることを踏まえて調査結果を活用していきたい。

- ④ 〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して行うことを基本としている。しかしながら、本調査では学習の状況を把握するため、大問2及び大問3において、特定の事項を取り上げて出題している。

(2) 領域ごとの結果

領域	該当する問題番号	正答率(%)
① 話すこと・聞くこと	[大問1](1)(2)(3)(4)	82.3
② 書くこと	[大問6](1)(2) [大問7]1・2	66.3
③ 読むこと	[大問4](1)(2)(3)(4)(5) [大問5](1)(2)(3)(4)①②③	78.1
④ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	[大問2]①②③④⑤⑥⑦⑧ [大問3](1)(2)(3)(4)①②(5)(6)	76.6

(3) 出題・観点等一覧

教科平均正答率 76.5

出題・観点等一覧

国語

通し番号	大問番号	小問番号	解答形式	正答	話す聞く能力	書く能力	観点	問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	平均正答率 市全体
1	(1)	☆	選択	(選択式一番号 記述式一書業)	◎		言語について の知識・ 理解・技能	問題の内容 取る	話すこと・聞く こと	話の中心に気をつけて、発表を聞き取ることができる。	〔思判表〕A(1)エ	78.6
2	(2)	☆			◎					話の中心に気をつけて、発表を聞き取ることができる。	〔思判表〕A(1)エ	83.2
3	(3)	☆			◎					話の中心に気をつけて聞き、話し方の工夫を聞き取ることができる。	〔思判表〕A(1)エ	89.9
4	(4)	☆			◎					話の中心に気をつけて聞き、話し方の工夫を聞き取ることができる。	〔思判表〕A(1)エ	77.6
5	(1)	☆	運転		◎		◎	漢字を書く		第三学年配当漢字を書くことができる。	〔知技〕(1)エ	73.8
6	(2)	☆	湖		◎		◎	漢字を書く		第三学年配当漢字を書くことができる。	〔知技〕(1)エ	72.2
7	(3)	☆	泳いだ		◎		◎	漢字を書く		第三学年配当漢字を書くことができる。	〔知技〕(1)エ	40.8
8	(4)	☆	えいよう		◎		◎	漢字を読む	言葉の特徴 や使い方	第四学年配当漢字を読むことができる。	〔知技〕(1)エ	94.9
9	(5)	☆	いわ		◎		◎	漢字を読む		第四学年配当漢字を読むことができる。	〔知技〕(1)エ	81.1
10	(6)	☆	つつ		◎		◎	漢字を読む		第四学年配当漢字を読むことができる。	〔知技〕(1)エ	92.9
11	(7)	☆	洋服		◎		◎	漢字を書く		第三学年配当漢字を書くことができる。	〔知技〕(1)エ	88.6
12	(8)	☆	けんこう		◎		◎	漢字を読む		第四学年配当漢字を読むことができる。	〔知技〕(1)エ	96.2
13	(1)	☆		3	◎		◎			接続語を理解している。	〔知技〕(1)カ	87.3
14	(2)	☆		2	◎		◎			主題について理解している。	〔知技〕(1)カ	88.6
15	(3)	☆	おもしろい		◎		◎			国語辞典を利用して調べることができる。	〔知技〕(2)イ	82.0
16	(4)	①	えのぐ		◎		◎	言葉の学習		ローマ字で書かれた身近な単語を読み取ることができる。	〔知技〕(1)ウ	86.0
17	(5)	②		4	◎		◎			身近な単語をローマ字で書くことができる。	〔知技〕(1)ウ	59.2
18	(6)	☆		1	◎		◎			ことわざを適切に使うことができる。	〔知技〕(3)イ	74.0
19	(7)	☆		3	◎		◎			伝えたい気持ちを適切に言葉で表すことができる。	〔知技〕(3)イ	90.9
20	(1)	☆		3	◎		◎			叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取ることができる。	〔思判表〕C(1)イ	92.0
21	(2)	☆		1	◎		◎			場面の移り変わりに注意して、動作の主体をとらえることができる。	〔思判表〕C(1)イ	73.9
22	(3)	☆		2	◎		◎	物語の内容を読み取る		叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取り、首飾することができる。	〔思判表〕C(1)イ	80.6
23	(4)	☆		4	◎		◎			叙述をもとに登場人物の性格を読み取ることができる。	〔思判表〕C(1)エ	90.2
24	(5)	☆		2	◎		◎			叙述をもとに登場人物の気持ちの変化を読み取ることができる。	〔思判表〕C(1)エ	82.8
25	(1)	☆		3	◎		◎			指示語の内容をとらえて文章を読むことができる。	〔思判表〕C(1)ア	92.3
26	(2)	☆		2	◎		◎			文と文の意味のつながりを理解して文章を読み取ることができる。	〔思判表〕C(1)ア	71.4
27	(3)	☆		【3】	◎		◎			段落相互の関係に注意して文章を読み取ることができる。	〔思判表〕C(1)ア	55.0
28	(4)	①	からだ		◎		◎	説明文の内容を読み取る		文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を要約することができる。	〔思判表〕C(1)ウ	77.8
29	(4)	②	かくれることができる		◎		◎			文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を要約することができる。	〔思判表〕C(1)ウ	76.1
30	(4)	③	たくさんの動物		◎		◎			文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を要約することができる。	〔思判表〕C(1)ウ	67.2
31	(1)	☆		3	◎		◎	文章を推敲する		文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりできる。	〔思判表〕B(1)エ	87.0
32	(2)	☆		3	◎		◎	手紙の後付けを書く		手紙の後付けを書くことができる。	〔思判表〕B(2)イ	39.0
33	1	☆	A・Bのどちらかを選択している		◎		◎			経験したことや想像したことなどから書くことを選ぶことができる。	〔思判表〕B(1)ア	87.6
34	2	☆	理由がわかるように、自分の考えを具体的に書いている		◎		◎	作文		自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書くことができる。	〔思判表〕B(1)ウ	51.4

※いずれも3・4年

※解答形式について…問題が「選択問題」、「記述問題」のどちらであるかを☆で表しています。

(4) 大問ごとの分析と考察

大問 1

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
1	1	(1)		選択	○ 1	1	0	78.6
					2	1	9.7	
					3	2	3.0	
					4	3	7.4	
					上記以外の解答	8	0.3	
					無解答	9	1.0	
					2	(2)		選択
1	1	8.2						
2	2	3.0						
3	3	4.0						
上記以外の解答	8	0.4						
無解答	9	1.1						
3	(3)		選択	○ 3	3			
1				1	3.0			
2				2	2.3			
4				3	3.3			
上記以外の解答				8	0.2			
無解答				9	1.3			
4				(4)		選択	○ 1	1
2	1	13.1						
3	2	4.8						
4	3	3.0						
上記以外の解答	8	0.2						
無解答	9	1.4						

[2] 出題のねらい

学習指導要領における〔思考力、判断力、表現力等〕のA話すこと・聞くことの指導事項は、以下のように構成されている。

- 話題の設定、情報の収集、内容の検討（聞くことは話題の設定、情報の収集）
- 構成の検討、考えの形成（話すこと）
- 表現、共有（話すこと）
- 構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）
- 話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）

第3学年及び第4学年の内容A（1）「エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。」（聞くこと）に関連した出題となっている。

この問題は、「パティシエ」について調べたことを発表したり、聞き手からの質問に答えたりする場面を想定した問題である。発表の内容ばかりに注目してしまうことがないように、本編が始まる前に「聞くポイント」をナレーターから伝えている。目的に応じて、話し手が伝えたいことや発表の工夫について、自分の考えをもちながら聞く能力を問うこととした。

(1) は、話し手が伝えたいことに気を付けて、発表を聞き取ることができたかを問うものである。発表者が取材した際に大切だと感じたことを的確に聞き取り、引用する際の言葉を聞き取ることができたかを問うている。

(2) も、話し手が伝えたいことに気を付けて、発表を聞き取ることができたかを問うものである。発表者が取材を通して考えたことを聞き取ることができたかを問うている。

(3) は、話し手が伝えたいことに気を付けて聞き、話し方の工夫を聞き取ることができたかを問うものである。発表者が調べた内容を整理し、「一つめは～」「二つめは～」とナンバリングをして話していることを「発表の工夫」と捉えることができたかを問うている。

(4) も、話し手が伝えたいことに気を付けて聞き、話し方の工夫を聞き取ることができたかを問うものである。質問者とのやり取りを取り上げた問題であるが、「ほかに質問はありますか」という言葉を聞き、情報の付け足しにあたることに気付くことができたかを問うている。

[3] 解説

「話すこと・聞くこと」の平均正答率は、82.3%であり、(1)は正答率が78.6%、(2)は83.2%、(3)は89.9%、(4)は77.6%であった。

(1) は、話の中心に気を付けて、発表を聞き取ることができたかを問うものである。正答率は、78.6%と概ね良好であった。正答率がやや高かった理由としては、「一つめは、ケーキを買ってくれるお客さんとのふれあいを大切にすることです。」と述べられていることで、具体的な内容を話す前に聞く準備ができたことが考えられる。また、取材で聞いた話について、「～だそうです。」と引用して述べるときの言葉を的確に聞き取ることができたと考えられる。

(2) も、話の中心に気を付けて、発表を聞き取ることができたかを問うものである。正答率は83.2%と概ね良好であった。正答率がやや高い理由として、「佐久間さんのように～」という発表の最後の言葉を聞き取ることができたことが考えられる。また、パティシエに対する自分の考えがわかる「なりたいたいと思いました」という言葉に注目して聞くことができたとも考えられる。

(3) は、話の中心に気を付けて聞き、話し方の工夫を聞き取ることができたかを問うものである。正答率は89.9%と良好であった。発表者は「一つめは～、二つめは～」と調べたことを整理して話している。正答率が高い理由として、聞き手が考えるよりよい話し方として、「ナンバリング」が意識されていたことが考えられる。「ナンバリング」が使われている文章は、2年生の教科書でも取り上げられており、捉えやすい工夫だったと考えられる。ただ、「話し方の工夫」は「ナンバリング」だけではなく、いくつもある。そのため、誰に何のために伝えるのかを明確にし、聞き手に分かりやすくするということを常に意識した学習をすることが大切である。

(4) も、話の中心に気を付けて聞き、話し方の工夫を聞き取ることができたかを問うものである。正答率は77.6%と概ね良好であった。質問者とのやり取りを取り上げた問題であるが、正答率がやや高い理由として、やり取りの中のどこを聞き取ればよいのかを意識して聞くことができたと考えられる。また、発表者が「ほかに質問はありますか」という言葉で質問をうながしており、このことが情報の付け足しにつながっていると考えられることが必要であった。

話し手が伝えたいことに気を付けて聞くために、言葉を意識することが大切である。普段の学習の際にも、どのような言葉が使われているかに注意することで、話し手が伝えたいことを聞く練習になると考えられる。また、話し手としての力の育成に向けては、常に相手意識、目的意識をもたせるようにし、相手のことを考えた話し手になれるよう、様々な伝え方を日常の活動でも取り上げていくことが大切である。

大問 2

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
5	2	①		記述	○ 運転	0		73.8
					「運」だけが○だった場合	1		8.2
					「転」だけが○だった場合	2		7.1
					上記以外の解答	8		4.1
					無解答	9		6.9
6	2	②		記述	○ 湖	0		72.2
					上記以外の解答	8		21.5
					無解答	9		6.3
7	2	③		記述	○ 泳いだ	0		40.8
					「泳」は書けているが、送り仮名が未記入、または誤り	1		30.5
					上記以外の解答	8		18.8
					無解答	9		9.9
8	2	④		記述	○ えいよう	0		94.9
					上記以外の解答	8		2.7
					無解答	9		2.4
9	2	⑤		記述	○ いわ	0		81.1
					送り仮名の重複	1		1.9
					上記以外の解答	8		15.3
					無解答	9		1.7
10	2	⑥		記述	○ つつ	0		92.9
					送り仮名の重複	1		1.7
					上記以外の解答	8		2.8
					無解答	9		2.5
11	2	⑦		記述	○ 洋服	0		68.6
					「洋」だけが○だった場合	1		5.4
					「服」だけが○だった場合	2		10.9
					上記以外の解答	8		6.4
					無解答	9		8.6
12	2	⑧		記述	○ けんこう	0		96.2
					上記以外の解答	8		1.6
					無解答	9		2.2

[2] 出題のねらい

学習指導要領における漢字に関する事項は、「第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。」と示されている。

「読み」については第4学年まで、「書き」については第3学年までに配当された漢字の範囲から出題した。また、今年度も日常生活の中で使うことを意識できるように、文章の中からの出題とした。

①運転（ウンテン）、⑦洋服（ヨウフク）は、音読みの熟語を書く力、②湖（みずうみ）は、送り仮名のない訓読みの漢字を書く力、③泳（およ）は、送り仮名のある訓読みの漢字を書く力、④栄養（エイヨウ）、⑧健康（ケンコウ）は、音読みの熟語を読む力、⑤祝（いわ）、⑥包（つつ）は、送り仮名のある訓読みの漢字を読む力を問うている。送り仮名の有無も含め、音読み・訓読みのバランスを考慮して出題した。

[3] 解説

「読み」は、④94.9%、⑤81.1%、⑥92.9%、⑧96.2%で、平均正答率は91.3%と良好であった。その要因としては、出題された語句は日常生活の中で触れているものが多く、想起しやすいことが挙げられる。また、「栄養」や「健康」等は、学習の中で触れたり、テレビニュース等で使われたりすることの多い語句であることも関係していると考えられる。

「書き」については、①73.8%、②72.2%、③40.8%、⑦68.6%で、平均正答率は63.9%であった。漢字の習得の際、点画の長短や方向、接し方や交わり方、正しい字形等について、理解が不十分であることがうかがえる。③の「泳いだ」については、40.8%という正答率であった。「泳」は書けているが送り仮名が未記入または誤っている誤答が30.5%であった。漢字は覚えているが、送り仮名についての正確な知識の定着がなされていないことが考えられる。

学習指導要領の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、漢字を「文や文章の中で使うこと」が示されており、日常的に文や文章の中で適切に使えるようにする指導の工夫が大切である。漢字の学習の場面にとどまらず、それ以外の学習や生活の場面で日常的に漢字を使うことを意識させ、送り仮名の表記を含めた定着を図りたい。

指導においては、漢字を用いて書くことで文章が読みやすくなるなど、漢字を使用するよさを実感させ、書く機会を増やし、語彙力を高めることも重要である。また、漢字の由来や特質について理解したり、日常生活の中での使い方を調べたりする学習等を通して、児童の興味・関心を高めながら語彙の拡充を図ることも大切である。

その他、字形を正しく整えていくことや各々の漢字の読み方を理解することとともに、文脈に沿って適切に使う力や、漢字や熟語のもつ意味を理解して自分の表現に取り入れる力も育成していきたい。

大問 3

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
13		(1)		選択	○ 3		0	87.3
					1		1	2.7
					2		2	0.3
					4		3	0.5
					上記以外の解答		8	7.9
					無解答		9	1.3
					14		(2)	
					1		1	15.1
					3		2	3.0
					4		3	6.7
					上記以外の解答		8	4.3
					無解答		9	2.3
15		(3)		記述	○ おもしろい		0	82.0
					上記以外の解答		8	8.6
					無解答		9	9.4
16	3		①	記述	○ えのぐ		0	66.0
					絵の具 エノグ		1	0.6
					上記以外の解答		8	12.6
					無解答		9	20.8
17		(4)	②	選択	○ 4		0	59.2
					1		1	10.6
					2		2	6.5
					3		3	18.7
					上記以外の解答		8	0.4
					無解答		9	4.6
18		(5)		選択	○ 1		0	74.0
					2		1	2.4
					3		2	11.9
					4		3	7.5
					上記以外の解答		8	0.6
					無解答		9	3.7
					19		(6)	
1		1	0.7					
2		2	2.9					
4		3	1.3					
上記以外の解答		8	0.6					
無解答		9	3.6					

[2] 出題のねらい

学習指導要領の〔知識及び技能〕のうち、(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」の、主語と述語の関係、接続する語句の役割について理解すること(カ)や、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと(ウ)、(2)「情報の扱い方に関する事項」の、辞書や事典の使い方を理解し使うこと(イ)、(3)「我が国の言語文化に関する事項」の、長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと(イ)に関連した出題である。

(1)は、接続語の役割を理解できているかを問う問題である。文と文との関係を考えて接続語を使うことができるかを問うている。

(2)は、主語を問う問題である。昨年までの調査からも主語と述語の関係を正しく捉えられてい

ない児童が多いことが明らかになっており、今回も引き続き出題した。

(3)は、国語辞典を利用して調べる場面に関する問題である。国語辞典を利用する能力や態度を育て、習慣をつけることは、第3学年及び第4学年で学習する内容である。国語辞典を利用して文中の言葉を調べることを想定し、調べたい言葉を適切な形に変えることができるかを問うている。

(4)は、日常使われている簡単な単語について、ローマ字を読むことや書くことができるかを問う問題である。

(5)は、ことわざの意味を知り、日常生活で活用することができるかを問う問題である。

(6)は、伝えたい気持ちを適切に言葉で表すことができるかを問う問題である。

[3] 解説

(1)は、接続語の役割を問う問題である。正答率は87.3%と良好であった。正答率が高かった理由としては、一つ目の文の「予定よりも早く遊園地に着いた」に対して、「一時間もならぶことになってしまいました。」という予想される結果とは異なる結果が記されていることを児童が捉えていること、また、助詞の「が」や「しかし」が逆説を示すことを児童が理解していることが考えられる。児童の日常の話し言葉で「しかし」を使う機会はあまりないと思われるが、説明的な文章等の教材文の中では「しかし」という語句が用いられており、その文章の内容を捉えていく中で語彙として獲得し、定着していると考えられる。接続語は、文章の論理的な関係を構築する上で大切な役割を果たすものである。今後も全ての領域の学習で、文や段落相互の関係を端的に示す手がかりとなる接続語について丁寧に指導していきたい。様々な機会を捉え、文脈に沿って接続語の役割を理解し使っていく学習を、工夫して行うことが大切である。

(2)は、主語・述語の関係を問う問題である。正答率は68.6%であった。昨年度と比較すると正答率は上がってきているものの、誤答の中では「すぐに」を選んだ児童が15.1%いたことから、主語は文頭にくると思っている児童がまだ多いことが分かる。「主語と述語の関係」は文の骨格をなし、文章や話を明確にするための基礎となる。低学年では、「何がどうした」の考え方から、「主語」にあたるものがどのような行動や様子をしているのかに着目できるようにし、また、述語の表す行動や様子に対して何が主体であるかを考えながら、主語を捉えさせたい。このような「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、そのみを取り立てて指導することだけでは定着が難しい。中学年や高学年になっても、国語の各領域での学習や日常の場面の中で、主語と述語の関係を意識させ、繰り返し丁寧に確認していくことが必要である。また、主語と述語の関係に加え、修飾と被修飾との関係を捉えることも身に付け、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」等の文の構成について、基本的な理解ができるように指導の工夫を図っていきたい。

(3)は、国語辞典を利用して、言葉の意味を調べる活動を想定した問題である。正答率は82.0%と概ね良好であった。その要因としては、出題の「おもしろい」という言葉は児童が日常的によく使う言葉であり、見出し語の形にも馴染みが深かったからだと考えられる。無解答が9.4%である理由としては、出てきた語を「見出し語」の形に置き換えられないことや、国語辞典の活用が十分に日常化していないことが考えられる。技能として身に付けた辞書の使い方を、繰り返し継続的に活用することで、定着させていくことが必要である。第3学年及び第4学年は、辞書を活用する能力や態度、習慣の基礎を育てる時期である。国語の授業だけでなく、他教科等の学習や日常生活でも辞書を手元

II 調査結果の概要

に置き、必要な時にはいつでも使うよう指導していくことが大切である。

(4)は、ローマ字で読むことや書くことが定着しているかを問う問題である。正答率は①66.0%、②59.2%で、平均正答率は62.6%であった。①の「えのぐ」という語は、児童にとっては読みやすかったと考えられるが、無解答が20.8%であった。要因として、学習した時には理解していても、その後、活用する機会が少ないために定着が図れなかったことが考えられる。また、②のローマ字を書くことについては「しゅ」を「siyu」とした誤答が18.7%であり、拗音の書き方が十分に定着していないと捉えられる。ローマ字表記のある案内板やパンフレット、コンピュータを使う機会の増加等、ローマ字は児童の生活により身近なものになってきているが、日頃からローマ字を書く機会がないと定着は難しい。調べ学習でパソコンを使ってローマ字入力をする等、語や文、文章を作る学習を設定して繰り返し取り組むことも重要である。様々な学習や生活の場面でローマ字を使うようにし、定着を図っていききたい。

(5)は、ことわざの意味を正しく理解しているかを問う問題である。正答率は74.0%であった。選択肢はいずれも教科書にあることわざから出題しているので、誤答の理由としては、そのことわざを聞いたことはあっても意味を知らなかったり、取り違えたりしているということが考えられる。ことわざをつかった文を書いて意味や使い方を交流したり、ことわざの意味を辞書で調べたりする等の活動を取り入れていきたい。ことわざや慣用句の意味を知り、先人の知恵や教訓、機知に触れるとともに、実際の言語生活で用いることができるようにしていくことが、言語生活を豊かにする上で大切である。

(6)は、伝えたい気持ちを適切に言葉で表すことができるかを問う問題である。正答率は、90.9%で良好であった。「頭をひねる」という言い方を日常生活の中でよく耳にしていたり、「クイズがむずかしい」という気持ちと「頭をひねる」という言い方が体感として想像できたりしたことが要因であると考えられる。授業における語彙指導の更なる充実を図るとともに、日常の取組や教師が用いる言葉等も含め、豊かな言語環境としての教室づくりを意識していききたい。

大問 4

[1] 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問					
20	4	(1)	選択	○ 3	0	92.0		
				1	1	1.6		
				2	2	2.1		
				4	3	2.3		
				上記以外の解答	8	0.3		
				無解答	9	1.7		
				21	(2)	選択	○ 1	0
2	1	19.8						
3	2	2.1						
4	3	1.8						
上記以外の解答	8	0.7						
無解答	9	1.7						
22	(3)	選択	○ 2				0	80.6
			1	1	10.7			
			3	2	2.2			
			4	3	4.2			
			上記以外の解答	8	0.3			
			無解答	9	2.0			
			23	(4)	選択	○ 4	0	90.2
1	1	1.2						
2	2	3.2						
3	3	2.7						
上記以外の解答	8	0.3						
無解答	9	2.4						
24	(5)	選択				○ 2	0	82.8
			1	1	5.6			
			3	2	5.4			
			4	3	3.4			
			上記以外の解答	8	0.2			
			無解答	9	2.6			

[2] 出題のねらい

文学的な文章では、低学年の「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」という指導事項を受けて、「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」が求められている。これらを踏まえ、物語の内容や、登場人物の様子や気持ちを読み取ることができるかを問う問題を設定した。

- (1) は、叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取る問題である。
- (2) は、場面の移り変わりに注意して、述語に対しての主体を捉える問題である。
- (3) は、叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取り、音読の仕方を問う問題である。
- (4) は、叙述をもとに登場人物の性格を読み取る問題である。
- (5) は、叙述をもとに登場人物の気持ちの変化を読み取る問題である。

[3] 解説

(1) は、叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取る問題である。正答率は92.0%と昨年度に引き続き良好であった。登場人物の行動や会話に即しながら、登場人物同士の関係や物語の上での役割等を考え、人物の気持ちを捉えることができていた。

(2) は、場面の移り変わりに注意し、述語に対しての主体を捉える問題である。正答率は73.9%であった。誤答の中では、選択肢2の「広瀬くん」を選んだ児童が19.8%で最も多かった。要因として、直前の「広瀬くんはサト先生に突然、読み聞かせを頼まれ、あわてて、読む

II 調査結果の概要

本をさがしにやってきたのだろう。」や直後の「広瀬くんは本当に困りきった様子だった」という記述から「うまく説明できるかどうか不安」に感じていることの主体を適切に捉えることができなかったことが考えられる。一つの叙述だけに着目するのではなく、場面の移り変わりと結び付けて具体的に読み取る力をつけていきたい。そのためにも、それぞれの登場人物の境遇や状況を把握し、物語全体に描かれた、行動や会話に関わる複数の叙述を結びつけて読むことが重要である。そして、読む際には常に動作等の主体が誰なのかを考えながら読み取る習慣をつけたい。さらに、読み取ったことを記述したり交流したりする際にも、意識的に登場人物の名前を付けて記述したり発言したりすることができるように指導することが大切である。

(3)は、叙述をもとに登場人物の様子や気持ちを読み取り、音読の仕方を問う問題である。正答率は80.6%と昨年度に比べて正答率が約20ポイント上昇し、おおむね良好であった。誤答の中では、選択肢1の「読み聞かせについて話すのが楽しくて、うれしそうに読む。」を選んだ児童が10.7%で最も多かった。要因としては、(2)同様、「わたし」が「広瀬くん」にうまく説明できるかどうか不安を感じていることを適切に捉えられなかったことが考えられる。登場人物のせりふには、そのときだけではなく、その言葉に至るまでの気持ちが含まれている場合が多い。そのため一つの叙述だけを対象とするのではなく、物語全体を見通して複数の叙述を基に行動や気持ち等を捉える必要がある。また、感想交流を行う際には、どの叙述に着目したのかを明確にすることが大切である。

(4)は、叙述をもとに登場人物の性格を読み取る問題である。正答率は90.2%と良好であった。登場人物の関係と、話合いの内容がどの叙述に基づいているのかを合わせて考え、読むことができていた。物語の感想を述べ合う際、「どの叙述からそう思ったのか」ということや「相手の言いたいことはどういうことなのか」ということを意識しながら聞き、必要に応じて問い返ししながら自分の考えを広げたり深めたりすることができるように指導することが大切である。

(5)は、叙述をもとに登場人物の気持ちの変化を読み取る問題である。正答率は82.8%と概ね良好であった。誤答の中では選択肢1を選んだ児童が5.6%で最も多く、続いて選択肢3を選んだ児童が5.4%、選択肢4を選んだ児童が3.4%と誤答にばらつきがみられた。このように誤答の中でばらつきがみられたのは、登場人物の会話等から、人物の状況やそれに伴う気持ちの変化を場面と場面とを関連付けながら読むことができていなかったためと考えられる。場面の移り変わりとともに描かれる登場人物の気持ちが、どのように変化しているのかを具体的に思い描くことができるよう、指導の工夫を図っていくことが大切である。

大問 5

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
25	5	(1)		選択	○ 3		0	92.3
					1		1	2.8
					2		2	1.0
					4		3	1.4
					上記以外の解答		8	0.4
					無解答		9	2.2
26	(2)		選択	○ 2		0	71.4	
				1		1	16.9	
				3		2	2.6	
				4		3	5.6	
				上記以外の解答		8	0.5	
				無解答		9	3.0	
27	(3)		選択	○ 3		0	55.0	
				1		1	3.4	
				2		2	15.6	
				4		3	17.6	
				上記以外の解答		8	0.6	
				無解答		9	7.9	
28	(4)	①	記述	○ からだ		0	77.8	
				上記以外の解答		8	11.3	
				無解答		9	10.9	
29	②	記述	○	【解答例】 ・かかれることができる ・かくれられる ・じょうずにかかれることができる		0	76.1	
				◎「かかれる」という要素が入っていること。 ※誤字・脱字は問わない。 ※敬体で書いたものも許容する。 ※句点をつけているものも許容する。				
			行くことができる		1	2.2		
			すきまにかくれられる		2	2.0		
			上記以外の解答		8	6.6		
			無解答		9	13.1		
30	③	記述	○ たくさんの動物		0	67.2		
			上記以外の解答		8	14.6		
			無解答		9	18.2		

[2] 出題のねらい

大問5は、説明文に書かれていることを目的に応じて読み、中心となる語や文を捉えて、文章の内容や段落相互の関係を理解する力を問う問題である。中心を捉えるために、接続語や指示語、文末表現等に注意しながら読むこと、文や段落相互の関係を理解して、内容や要点を的確に把握することについて、その定着度を測れるよう出題した。

[3] 解説

(1)は、指示語が示す内容を捉えているかを問う問題である。正答率は92.3%で良好であった。文と文とのつながりを考えながら読むことや、指示語が指す内容を適切に読み取ることができていると考えられる。引き続き、文相互の関係を意識するとともに、指示語が示す内容を考えながら文章を読んでいくような指導の工夫をしていきたい。

(2)は、文と文との意味のつながりを理解して読み取ることができるかを問う問題である。正答

II 調査結果の概要

率 71.4%であった。この問題では、2つ前の段落に「からだ小さいことには、よいことと、わるいことがあるようです。」と書かれている。次の段落には、からだ小さいことのわるいことが書かれているため、前の段落の内容から、空欄の後の文が「からだ小さいことのよいこと」について書かれていることを読み取り、逆接の接続語を入れなければならない。誤答は選択肢1を選んだ児童が多く、要因としては段落の内容の大体を読み取れていないことや、接続語の意味を理解していないことが考えられる。文相互の関係や段落の内容を捉えたり、接続語の働きについて考えたりしながら、文章の内容を理解していくような指導の工夫が必要である。

(3)は、段落相互の関係を捉えることができるかを問う問題である。正答率は55.0%であった。誤答としては、選択肢【2】【3】を選んだ児童が多かった。要因として、段落の内容の大体を読み取ることができておらず、段落相互の関係が読み取れなかったことが考えられる。また、接続語の意味の理解が不十分なために、抜き出されている文がどの段落につながるかを捉えられていないことも考えられる。本文中のそれぞれの段落や、抜き出された段落が何について書かれているのかを正確に読み取るとともに、段落相互の関係を理解して、全体の内容を把握したり必要な情報を的確に見つけたりできるように指導する必要がある。

(4)は、目的に応じ、①文章の要点や細かい点に注意しながら読むことができるかを問う問題、②文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を要約することができるかを問う問題、③中心となる語や文を捉えて文章を読むことができるかを問う問題である。正答率は①77.8%②76.1%③67.2%であった。

説明文を学習する際、各段落を短くまとめたり全文を要約したりするような学習においては、叙述を基に内容の大体を理解し、考えとそれを支える理由や事例との関係等を把握したり、文章の中の重要な語や文、中心となる語や文に着目したりするような指導が必要である。またそれとともに、文章全体の構成を捉えて要旨を把握できるよう、要点の捉え方や要約の指導を工夫していくことが大切である。①、②、③の平均無解答率が14.1%であったことから、文章全体を正しく読み取って要約することに苦手意識をもつ児童が少なくないと考えられる。説明的な文章や要約の学習においては、学習効果や児童の学習意欲を高められるように、要点や段落の構成等が明確な文章や児童が興味をもちそうな題材を扱った文章等、教材の工夫も大切である。

大問 6

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
31	6	(1)		選択	○ 3		0	87.0
					1		1	1.6
					2		2	2.7
					4		3	2.6
					上記以外の解答		8	0.2
					無解答		9	5.9
					○ 3		0	39.0
32	(2)			選択	○ 3		0	39.0
					1		1	22.5
					2		2	31.1
					上記以外の解答		8	0.3
					無解答		9	7.1

[2] 出題のねらい

学習指導要領における第3学年及び第4学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の目標には、「筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。」とある。これを受けて、「書くこと」の領域における「構成の検討 イ」では、「書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。」となっている。

また、言語活動例に「行事の案内やお礼の文章を書くなど、伝えたいことを手紙に書く活動。」が例示されている。ここでは、実用的な文章を書く力の定着度を把握する意図で、お礼の手紙の書き方や後付けにおける署名と宛て名の位置関係を問うている。

(1) は、手紙の文章を推敲し、ふさわしい言葉に直すことを問う問題である。

(2) は、後付けにおける日付や署名、宛て名の位置関係を問う問題である。

[3] 解説

大問6は、お礼の手紙の書き方や、後付けにおける署名と宛て名の位置関係といった基本的な形式を理解しているかを問う問題である。

(1) は、手紙の文章を推敲し、ふさわしい言葉に直す問題である。正答率は87.0%と良好であり、相手を意識し、どのような言葉遣いにすればよいのかを考えることができていた。

(2) は、後付けにおける日付や署名、宛て名の位置関係を問う問題である。今年度は、3つの位置関係をまとめて選択する形式で出題し、正答率は39.0%であった。誤答としては、日付を最後に書く選択肢が31.1%もみられた。昨年度に引き続き、今年度も決して高い正答率ではなかったが、その要因として、日常生活の中で子どもたちが手紙やはがきを書く経験が少ないことや、書く機会があっても意識せずに書いているために、これらの位置関係を誤って覚えているということが考えられる。

国語科の学習で、後付けにおける署名や宛て名の位置関係といった基本的な形式を学習した後、国語科に限らず、他教科等で関わったゲストティーチャーやボランティアの方たちへの礼状や依頼状、招待状等を書く機会を捉え、相手意識を明確にもって手紙を書くことを指導していきたい。また、手紙を書く際、日付、署名、宛て名等を入れた用紙を用意するのではなく、手紙を出す相手を意識し、相手を敬う意味でも署名と宛て名の位置関係が存在していることを考えさせるなど、児童自身が実際に考えて書くことで正しい位置関係を定着させていくことが大切である。

大問 7

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
33		1		選択	○	A・Bのどちらかの記号を書いている。	0	87.6
						上記以外の解答	8	1.9
						無解答	9	10.5
34	7	2		論述	○	・ AとBの取り組みからつながる内容を書いている。 ・ その取り組みをすると図書館の利用者がふえると思う理由がわかるように、自分の考えを具体的に書いている。 ・ 「なぜなら、」につながるように書いている。 ・ 30字以上、50字以内で書いている。	0	51.4
						自分の考えを書いているが、その取り組みをすると図書館の利用者がふえると思う理由がわかる具体的な考えになっていない。	1	6.1
						自分の考えを書いていない。	2	0.9
						「なぜなら、」にスムーズに接続していない。	3	9.6
						30字未満で書いている。	4	2.9
						51字以上で書いている。	5	2.2
						上記以外の解答	8	13.8
						無解答	9	13.1

[2] 出題のねらい

経験したことや想像したことなどから書くことを決めること、そして自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書くことについて出題している。

図書委員会で学校の図書室をもっと利用してもらうための取組を考える中から、行くと良いと思う取組を1つ選び、「なぜなら」という接続語に続けて理由を具体的に記述するよう設定した。また、学校の図書室という児童になじみのある場所に設定することで具体的な理由につながることを意識して出題した。

[3] 解説

2の記述における正答率は、51.4%であった。この問題は、図書委員が学校の図書室をもっと利用してもらうための取組を考えている場面を設定している。また、書く条件を示し、採点基準としている。

①では、2つの取組から1つを選ぶことになっており、正答率は87.6%と良好であった。今年度は、2つから選択することに限定した形であったが、無解答率は10.5%だった。その要因として、「書くこと」や記述の問題に苦手意識や抵抗感があり、取り組む意欲をもてない児童がいることが考えられる。書いた文章が生活の中で生かされたり、相手から感想がかえってきたりする等、「書いてよかった」と思える場を設定していくことや、目的に応じて自分の考えを書く活動を積み重ねて書き慣れていくことについて、引き続き指導の工夫をしていくことが必要である。

②の条件は、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書くことであった。誤答の傾向として、「なぜなら、」という書き出しにスムーズに接続していない解答が9.6%、利用者が増えると思われる具体的な理由が書けていない解答が6.1%であった。これらのことから、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書くことに課題があると考えられる。

③の条件は、定められた文字数でまとめることである。指定の文字数に満たない解答が2.9%、指定の文字数以上に書いている解答は2.2%であった。この要因として、自分の考えを明確にして伝え

るための言葉を知らないことや、適切に言葉を使えず条件に即して書くことができていないことなどが考えられる。授業で学習のふり返りを書くときに考えと理由を具体的に書かせたり、文字数等の条件がある中で書く活動を日常的に取り入れたりしていきたい。

2の記述における無解答率は13.1%であり、1と同様、文章を書くのに慣れていないことや、苦手としていることが考えられる。各教科等の学習で様々なことを調べたり、観察したりする場面では、国語科の学習を生かして報告文や意見文等を書く活動を設定する等、理由との関係を明確にしながら分かったことや自分の考えを書くということを引き続き重視していきたい。また、目的に応じて自分の考えを適切にまとめて書き表せるよう、前後の文脈や指示された字数に即して書くというような条件を設定する等、指導の工夫を積み重ねていきたい。

(5) 今後の指導にあたって 《思考力, 判断力, 表現力等》

○話すこと・聞くこと【大問1】

学習指導要領における中学年の「話すこと・聞くこと」の内容では、「聞くこと」について「話し手が伝えたいこと」の中心や「自分が聞きたいこと」の中心を示している。

話し手が伝えたいこと、自分が聞きたいことについては、(1)(2)の平均正答率が80.9%で概ね良好であったことから、言葉にしっかり着目して聞き、要点に気をつけて聞く力が定着していることが考えられる。また、話し方や話の組立まで意識して聞くことで、話の内容を正確に理解して聞くことができているといえる。

話し方の工夫を聞き取ることについては、平均正答率が83.8%であった。この結果から、わかりやすく話すための工夫についてよく意識して聞くことができていると捉えられる。その要因としては、わかりやすい話し方を工夫するという、話し手としての学習の内容が身に付いていることが考えられる。

話し手としての学習が聞き手としての力の向上にもつながるため、今後も話すことに関して、誰に何のために伝えるのかを明確にし、聞き手にわかりやすい話し方をするために、日常から相手意識、目的意識をもたせるようにしたい。また、逆に聞き手としての学習を生かし、話し手として、相手のことを考えられるように様々な伝え方や言葉を日常の活動で習得していくことも大切である。

○書くこと【大問6・7】

「手紙の基本的な形式」を問う問題と、「与えられた条件のもと、自分の考えを記述する」ことを問う問題を出題した。

手紙を書く際の後付けにおける日付と宛名の位置関係を理解しているかを問う問題の正答率は、39.0%と昨年度と同様に低い数値であった。これは、日常生活では基本的な形式を意識せずに手紙を書いていることが要因と考えられる。そこで、手紙の形式を学習する際に、自分の名前と相手の名前の位置関係に理由があることを理解させたり、「お礼の手紙」や「招待状」等、手紙の基本的な形式で書く場面を意図的に教師が設定し、繰り返し書き方を学習したりしていく必要がある。

経験したことや想像したことから書くことを決め、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書くことができるかどうかを問う問題では、平均正答率は69.5%であり、書くことへの苦手意識が見られる。

書く意欲を高めるには、伝える、報告する、説明する、依頼する、案内する等、生活と密接に結びつけることで必要感をもたせることが必要である。しっかりと目的意識を明確にすることで、書く力の向上を図りたい。また、無解答の割合が少なくないことから、書くことに対する意欲が低い児童や、書くことを苦手とする児童がいることが分かる。文章の書き出しの指導をすること等、苦手意識の軽減につながったり、「少しでも書けた」という実感をもてたりするような指導の工夫を図ることが大切である。さらに、書いたものが生活で生かされたり、感想や返事が返ってきたりするような場面を設定すると「書いてよかった」という充実感を味わうことができ、書く事への意欲へとつながる。

○読むこと【大問4・5】

「読むこと」については、文学的な文章、説明的な文章のいずれにおいても、目的に応じて内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を育てていきたい。

文学的な文章の出題では、平均正答率は83.9%であった。場面の移り変わりや結び付け、登場人

物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像するためには、複数の場面の叙述を結び付けながら読んでいく必要がある。物語を読む際には、言葉や叙述に立ち止まりながらも、その一場面や一部分に捉われずに作品の全体像をつかみながら読める力を育てていきたい。

説明的な文章の出題では、平均正答率は73.3%であった。中心を捉えるためには、接続語、指示語、文末表現等に注意しながら、文相互の関係や段落相互の関係を理解し、内容や要点を的確に把握することが必要である。また、文章全体を正しく読み取って要約することに苦手意識をもつ児童が多いことも考えられる。要点や段落の構成等が読み取りやすい短い文章や、キーワードを見つけやすい文章ではじめに練習するなど、学習の効果を高めたり説明的な文章や要約への苦手意識をなくしたりしていく指導の工夫が必要である。

授業では、文学的な文章、説明的な文章のいずれにおいても目的意識、課題意識を明確にし、児童が主体的に読むことのできる学習場面を設定することが大切である。また、読みを深める際に着目した叙述とその理由を友達と交流することで、自分の読みを確かめたり、文章中の言葉の働きに気付いたりすることもできる。よって今後も、多くの文章を読むという読書の量的な向上と、多くの種類の本等を読んで読書分野を広げるという質的な向上の両方を目指していきたい。

《知識及び技能》【大問2・3】

漢字の「書き」については、今年度も漢字や送り仮名が正しく書けていない児童や、無解答の児童が少なくなかった。日常的に国語辞典・漢字辞典で分からない漢字を調べる習慣を身に付けることが大切である。また、書写の学習を通して、漢字の意味や特質について理解したり、日常生活の中でどのように使われているかを調べたりすることもできる。定着に向けては、漢字を使うことを習慣化し、学んだ漢字が日常の場面で使えることを実感して、他教科等の授業でも既習の漢字を積極的に使うように指導することが大切である。

主語や述語の問題における正答率は68.6%だった。主語と述語の理解は、国語の学習の基本であるため、今後も低学年から「主・述」の関係を意識できるようにし、すべての学年で意図的、継続的に指導していきたい。

ローマ字を使った読みについては、平均正答率が62.6%であった。生活の中で見かけるローマ字を探したり、日常で使われている簡単な単語について扱ったりして、生活と結び付けた読み書きの指導を継続的に行い、定着を図ることが大切である。

◎全体を通して

学習指導要領における国語科の教科目標には、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」とある。児童が言葉による見方・考え方を働かせながら学習することが重要であり、その基盤となる知識・技能や、語彙を身に付ける必要もある。他教科等の学習や読書等と関連させ、出会った言葉の意味を辞書で調べたり、言葉から感じたり想像したりする機会をもち、語彙を充実させるようにしていきたい。また、身に付けた力が、日常で「生きてはたらく力」となっていくように指導していきたい。そのため、次の単元や他教科等の学習、生活場面において活用していくことが大切である。

最後に、この調査は指導に生かすことを目的としているものであり、各学校、各学級において児童の学習状況を捉え、成果や課題を整理すること、各大問の「出題のねらい」や「解説」を参考に、明日からの国語科の授業改善に生かしていくことが望まれる。

II 調査結果の概要

2. 算 数

(1) 作問にあたって

- ① 川崎市全体における第5学年の学習状況を把握するため、より客観的なデータが得られるように作問を行った。したがって、出題範囲を第4学年までとし、基礎・基本の定着及び活用の様子を見ることができ問題を作成した。また、過去の問題と関連したものも継続して出題することによって、解答傾向の推移も把握できるように配慮した。
- ② 学習指導要領において、第4学年以上の算数科は「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4領域で構成されている。そこで、幅広い範囲において学習状況を把握していくために、4領域の項目についてすべて網羅するように出題した。
- ③ 主たる評価観点を考えた上で問題を作成したが、「主体的に学習に取り組む態度」については、ペーパーテストでみることは難しいと考え、評価の観点としては取り上げないことにした。他の「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点については網羅するようにした。
- ④ 本調査は、児童の学習の実態状況を把握するとともに、各校の教育課程や指導法の検証・改善に生かすことなどをねらいとして行われるものである。したがって、作問にあたっては、解答類型を分析し、調査後どのような点に気を付けて指導していけばよいのかが分かるようにした。
- ⑤ 本調査は、正答率の低い問題を継続的に出題し、授業改善に役立てる意図があることに加え、最近の傾向として、全国調査を参考に説明の根拠を求める問題も出題している。そのため、平成 28 年度以降の調査の結果は前年度より難易度が高くなっており、結果として全体的に正答率が平成 27 年度よりも低くなっている。したがって、各学校においては、経年変化よりも、例えば短答式と記述式の正答率の違いといった点に注目し、分析してほしいと考えている。
- ⑥ 昨年度3月の臨時休業に伴い、一部の学校で未習の学習があった。大問2(6)(7)、大問4(3)については今年度参考値となっている。

(2) 領域ごとの結果

領域		該当する問題番号	正答率(%)
A	数と計算	[大問1](1) ㉓ ㉔ ㉕ (2) ㉖ ㉗ [大問2](1)(2)(3)(4)(5)(6)(7) [大問3] [大問4](1)(2)(3) [大問6] [大問7]	66.8
B	図形	[大問8](1)(2) [大問9](1)(2) [大問10] [大問11](1)(2) [大問12](1)(2) [大問13]	54.6
C	変化と関係	[大問5](1)(2) [大問14](1)(2)	52.4
D	データの活用	[大問15](1)(2)	72.2

(3) 出題・観点等一覧

算数		出題・観点等一覧										教科平均正答率 61.8	
通し番号	大問番号	小問番号	解答形式	正答	数学的な考え方	観点	知識・理解	問題の内容	領域	出題のねらい	学習指導要領	平均正答率 市全体	
1		④	☆	850			◎	小数のたし算・ひき算	A 数と計算	小数のたし算の仕組みを、整数のたし算をもとにして考えることができる。 小数のたし算の仕組みを、整数のたし算をもとにして考えることができる。		74.3	
2	1	①	☆	23			◎	小数のたし算・ひき算	A 数と計算	小数のたし算の仕組みを、整数のたし算をもとにして考えることができる。	4年A(4)ア(イ)	91.8	
3		⑤	☆	873			◎	小数のしくみ		小数のたし算の仕組みを、整数のたし算をもとにして考えることができる。		70.8	
4		②	☆	0.44		○	◎	小数のしくみ		数直線上の小数を読み取ることができる。		75.9	
5		③	☆	0.506		○	◎	小数のしくみ		数直線上の小数を読み取ることができる。		61.6	
6	(1)		☆	6.85		◎	◎	小数のたし算・ひき算		小数第二位までの加法ができる。	4年A(4)ア(ウ)	76.2	
7	(2)		☆	48.15		◎	◎	小数と整数のかけ算		小数第二位までの減法ができる。		58.9	
8			☆	34.8		◎	◎	小数と整数のかけ算・わり算		小数×(1けた)の乗法ができる。	4年A(4)ア(エ)	64.4	
9	(4)		☆	3.25		◎	◎	算・わり算		(整数)÷(整数)のわり算も除法ができる。	4年A(6)ア(ア)	64.1	
10	2	(5)	☆	32		◎	◎	式と計算	A 数と計算	四則混合計算ができる。		78.1	
11	(6)		☆	$6\frac{2}{7}$ または $\frac{44}{7}$		◎	◎	分数のたし算・ひき算		帯分数を含む同分母分数の加法ができる。	4年A(6)ア(イ)	71.7	
12	(7)		☆	$2\frac{2}{3}$ または $\frac{8}{3}$		◎	◎	分数のたし算・ひき算		帯分数を含む同分母分数の減法ができる。	4年A(6)ア(イ)	66.4	
13	3		☆	6(本できて、)2.8(cmある。)		◎	○	小数と整数のかけ算・わり算	A 数と計算	(小数)÷(1けた)の余りのある除法の適用問題ができる。	4年A(4)ア(エ)	47.7	
14	(1)		☆	29		◎	◎	分数と帯分数のかけ算・わり算	A 数と計算	分数が単位分数のいくつかで表せることがわかる。		63.0	
15	(2)		☆	$1\frac{1}{5}$ または $\frac{6}{5}$		◎	◎	分数の大きさ	A 数と計算	テープ図に示された分数を読み取ることができる。	4年A(5)	50.5	
16	(3)		☆	$\frac{12}{5}(-)2\frac{1}{5}(-)2\frac{9}{5}(-)1\frac{3}{5}(-)1\frac{3}{5}$ (仮分数を帯分数、帯分数や整数を仮分数にしても、並び順が違ってはいれば正解とする。)		◎	◎	分数の大きさ	A 数と計算	分数の大小がわかり、仮分数・帯分数・整数を大小順に並べることができる。		65.2	
17	(1)	☆	☆	70…イ、140…ウ、□…オ (完答)		◎	○	くらべ方	C 変化と関係	基にする量と倍の関係を図に表すことができる。	4年C(2)	26.8	
18	(2)		☆	きゅうりは(140÷70=2で)2倍の値上がりで、キャベツは(300÷200=1.5で)1.5倍の値上がりだから、きゅうりのほうがより値上がりがりしたと考えよ。		◎	◎	割合		割合を用いた比べ方を理解し、正しく説明することができる。		29.4	
19	6		☆	100		○	◎	式と計算	A 数と計算	計算のまじりを理解し、切り上げの計算をすることができる。	4年A(7)	53.4	
20	7		☆	①500+200+300 ②1000(完答 正答は一例)		○	◎	がい数	A 数と計算	180°よりも大きい角のおよその大きさを推定することができる。	4年A(2)	51.2	
21	(1)		☆	3		◎	◎	角	B 図形	180°よりも大きい角を分度器を用いて求めることができる。	4年B(5)	88.1	
22	(2)		☆	230(度)		◎	◎	角	B 図形	180°よりも大きい角を分度器を用いて求めることができる。	4年B(5)	49.2	
23	(1)		☆	$3 \times 4 (=12)$ または $4 \times 3 (=12)$		○	◎	面積	B 図形	長方形の面積を求めることができる。	4年B(4)ア(ア)、(イ)	63.8	
24	(2)		☆	2		○	◎	面積	B 図形	面積の大きさについての感覚を身につけている。	4年B(4)ア(ア)	27.0	
25	10		☆	1		◎	○	垂直・平行と四角形	B 図形	平行四辺形の作図の仕方や性質をもとに考えることができる。	4年B(1)ア(イ)	59.9	
26	(1)		☆	ア、ウ、エ、オ(順不同、完答)		◎	◎	垂直・平行と四角形	B 図形	向かい合った角の大きさの性質がわかる。	4年B(1)ア(イ)	68.2	
27	(2)		☆	ア、ウ(順不同、完答)		○	◎	垂直・平行と四角形	B 図形	四角形の対角線の性質がわかる。	4年B(1)ア(イ)	36.7	
28	(1)		☆	2		◎	◎	立体	B 図形	立方体の展開図がわかる。	4年B(2)ア、イ	60.1	
29	(2)		☆	辺アオ、辺イカ、辺ウキ、辺エク(順不同、完答) (辺の表記の無いものも正解とする。)			◎	立体	B 図形	立方体の面に垂直な辺がわかる。		52.7	
30	13		☆	採点用正答用紙参照		◎	○	面積	B 図形	複合図形の面積を求める式の意味を理解し、図に示すことができる。	4年B(4)ア(イ)、イ	60.7	
31	(1)		☆	24(二)		◎	○	変り方	C 変化と関係	数量の関係を読み、調べることができる。	4年C(1)	81.1	
32	(2)		☆	$O \times 4 (= \Delta)$		◎	○	変り方	C 変化と関係	ともなう変わる二つの数量の関係を式に表すことができる。	4年D(1)ア(ア)、イ	72.3	
33	(1)		☆	4は、(1週間に)枚数を打ぼくをくした人の数を表しています。		◎	○	整理のしかた	D データの活用	2次元表を理解し、値を説明することができる。		82.2	
34	(2)		☆	1、4(順不同、完答)		◎	○	整理のしかた	D データの活用	表から傾向を読み取るることができる。		62.3	

※解答形式について…問題が「選択肢問題」、「記述問題」のいずれであるかを表しています。

(4) 大問ごとの分析と考察

大問 1

[2] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
1	1	(1)	㉠	短答	○ 850		0	74.3
					85		1	16.8
					8500		2	0.1
					上記以外の解答		8	6.7
					無解答		9	2.0
2	1	(1)	㉡	短答	○ 23		0	91.8
					230		1	0.6
					上記以外の解答		8	5.8
					無解答		9	1.8
					3	1	(1)	㉢
8.73		1	5.5					
87.3		2	0.3					
108		3	7.5					
上記以外の解答		8	12.5					
無解答		9	3.4					
4	2	(2)	㉣	短答	○ 0.44		0	75.9
					0.8		1	2.0
					0.48		2	0.6
					上記以外の解答		8	16.1
					無解答		9	5.4
5	2	(2)	㉤	短答	○ 0.506		0	61.6
					0.56		1	15.8
					0.61		2	0.1
					0.511		3	2.0
					上記以外の解答		8	14.9
					無解答		9	5.7

[2] 出題のねらい

大問1は、「数と計算」領域の「小数の仕組み」に関する問題で、計算の基本的な知識・技能が身に付いているかをみるために出題している。

(1)は、「8.5 + 0.23 の計算の仕方を、0.01 をもとにして考える問題」で、位の違う数値でも 0.01 を何こ集めた数なのかが分かれば解くことができる問題である。小数が「○○のいくつ分」で数が構成されていることを理解しているかをみるために設定した。

(2)は、数直線上の示された数(1目盛りが 0.001 のとき)を読み取ることができるかどうかをみるために設定した。昨年度も同様の問題を出題している。

[3] 解説

(1)は、「8.5 + 0.23 の計算の仕方を、0.01 をもとにして考える問題」で、小問㉠の「足される数の 8.5 は 0.01 を何こ集めた数かを考える問題」では、正答率が 74.3%であった。小問㉡の「足す数の 0.23 は 0.01 を何こ集めた数かを考える問題」では、正答率が 91.8%であった。小数第 2位に数があるかないかで正答率に 17.5%の違いがあった。昨年度の「7.5 は 0.01 を何こ集めた数かを考える問題」の正答率は 73.6%で、「0.32 は 0.01 を何こ集めた数かを考える問題」の正答率は 91.0%だった。昨年度も今年度同様 17%近くの正答率の差があった。このことから数の相対的な大きさについての理解が十分でないことが分かる。よって、小問㉢の正答率が

70.8%と、小問⑥に近い正答率であると考えられる。

小数は、整数と同じように十進位取り記数法をもとにしているため、ある位の右の位は $1/10$ の大きさを単位にしており、ある位の左の位は 10 倍の大きさを単位にしている。このことを理解するとともに、小数の計算も整数と同じ考え方でできることに気付くようにしていくことが大切である。また、小数の仕組みを確認しながら数を読ませていく指導や「8.5 は1が8 こと 0.1 が5こ」「8.5 は 0.1 が 85 こ」などのように、数の相対的な大きさについて理解を深めていくことが大切である。

(2)数直線上の⑤にあてはまる数を求めるという問題では、⑤の正答率が 75.9%、⑥の正答率が 61.6%であった。昨年度は⑤と同様の問題の正答率が 78.7%、⑥と同様の問題の正答率が 63.4%だった。⑥の正答率が低い理由として、空位のある小数の読み取りが難しいことが考えられる。

今後は、数の相対的な大きさについて理解を深めていくことが大切である。相対的な大きさは、ある位の単位に着目してそのいくつ分とみる見方である。このような見方を養っておくことは、小数の意味についての理解を深めるだけでなく、小数の乗法や除法の計算の仕方を考えるときに役立つ。また、「1をいくつと 0.1 をいくつ集めた数」「〇〇より 0.1 小さい数」といった数の加法的な見方と減法的な見方など、多様な見方ができるように、系統的に指導することが大切である。

大問 2

[2] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
6	2	(1)	短答	○	6.85		0	76.2
					685		1	0.3
					4.51		2	8.4
					45.1		3	0.4
					451		4	0.3
					上記以外の解答		8	13.5
					無回答		9	0.9
					49.15		0	58.9
					4.915		1	0.8
7	(2)	短答		17.2		2	3.2	
				1.72		3	8.1	
				172		4	0.5	
				56.25		5	1.3	
				8.82 または 88.2		6	0.4	
				51.25		7	0.2	
				上記以外の解答		8	24.4	
				無回答		9	2.3	
				49.15		0	58.9	
8	(3)	短答	○	34.8		0	81.4	
				348		1	3.2	
				32.8		2	0.4	
				328		3	0.0	
				上記以外の解答		8	13.2	
9	(4)	短答		無回答		9	1.7	
			○	3.25		0	64.1	
				325		1	13.9	
				3あまり2		2	2.1	
				上記以外の解答		8	13.7	
10	(5)	短答		無回答		9	6.3	
			○	32		0	78.1	
				720		1	12.5	
				上記以外の解答		8	6.7	
11	(6) ※	短答		無回答		9	2.7	
			○	$6\frac{2}{7}$ または $\frac{44}{7}$		0	71.7	
				$5\frac{9}{7}$		1	18.7	
				$5\frac{9}{14}$		2	0.1	
				上記以外の解答		8	6.7	
12	(7) ※	短答		無回答		9	2.8	
			○	$2\frac{2}{3}$ または $\frac{8}{3}$		0	66.4	
				$3\frac{1}{3}$		1	6.6	
				3		2	1.3	
				6		3	1.6	
				$9\frac{2}{3}$ または $\frac{29}{3}$		4	0.0	
				上記以外の解答		8	19.7	
	無回答		9	4.4				

※参考値です。

[2] 出題のねらい

大問2は、第4学年で学習する計算問題をまとめて出題している。いずれも「数と計算」領域の問題となっており、数量についての知識・技能をみる問題である。

(1)は、小数第2位までの小数の加法の問題で、被加数を小数第2位までの小数、加数を小数第1位までの小数にすることで、位取りを意識して計算できているかをみるために設定した。

(2)は、小数第2位までの小数の減法の問題である。被減数は小数第1位までの小数、減数は小数第2位までの小数にして、位取りを意識して計算できているかをみるために設定した。

(3)は、小数×整数＝小数となる問題で、被乗数の小数点を意識して、積の小数点の処理ができているかをみるために設定した。

(4)は、わり進みの除法の問題で、わり進む場合の除法ができているかをみるために設定した。

(5)は、四則混合の問題で、四則計算の順番について加減乗除が混合している場合は、乗除から先に計算できているかをみるために設定した。

(6)は、帯分数を含む同分母分数の加法の問題で、同分母分数の加法の仕方に加え、分数部分が仮分数の形になったときの、帯分数の整数部分の処理ができているかをみるために設定した。

(7)は、帯分数を含む同分母分数の減法の問題で、同分母分数の減法の仕方に加え、分数同士の減法ができない場合は、整数の1を分数にして処理することができているかをみるために設定した。

[3] 解説

(1) $4.25 + 2.6$ の正答率は 76.2% だった。昨年度の $2.74 + 3.2$ の正答率は 80.8% だった。例年、80% 前後の正答率である。小数を右にそろえて「4.51」という解答も 8.4% いることから、今後もどのような数値であっても位の単位が同じものを(位をそろえて)計算する習慣を身に付けるよう指導していくことが大切である。

(2) $52.7 - 3.55$ の正答率は 58.9% だった。昨年度の $31.6 - 2.04$ の正答率は 60.5% だった。例年、60% 前後の正答率である。学習指導要領では、小数点をそろえて位ごとに計算するなど、小数の仕組みの理解の上に行うようにすると示されていることから、(1)の問題と同様、位の単位を意識し位をそろえて計算できるように引き続き指導していくことが必要である。

(3) 8.7×4 の正答率は 81.4% だった。昨年度の 2.8×3 の正答率は 87.5% だった。引き続き位の単位と小数点を意識して、積の小数点の処理の仕方を指導していくことが必要である。

(4) $26 \div 8$ の正答率は 64.1% であった。解答類型以外の解答が 13.7% いることから、わり進みの計算の仕方の意味を、図などをもとにして理解させながら、処理技能の定着を図る必要がある。

(5) $86 - 6 \times 9$ の正答率は 78.1% だった。四則混合計算では、乗法、除法を先に計算することは概ね理解できていることが分かる。加法・減法より乗法・除法を先に計算するという四則混合計算のきまりについての指導が充実していると考えられる。また、「 $86 - 6 = 80$

$80 \times 9 = 720$ 」と、左から順に計算してしまった誤答が 12.5% 見られることから、今後も継続して、四則混合計算のきまりにしたがって計算できるように、指導を積み重ねていくことが大切である。

(6) 帯分数を含む同分母分数の加法「 2 と $4/7 + 3$ と $5/7$ 」の正答率は 71.7% であった。昨年度の同様の問題の正答率は 72.9%、一昨年度の正答率は 68.2% と例年 70% 前後である。5と $9/7$ と答えた児童が 18.7% いることから、帯分数は整数と真分数の和から成り立つ数ということを理解させていく必要がある。

(7) 帯分数を含む同分母分数の減法「 4 と $1/3 - 1$ と $2/3$ 」の正答率は 66.4% であった。昨年度の正答率は 69.5% である。今後は「単位分数のいくつ分」という指導を充実させるとともに、帯分数を含む同分母分数同士の減法で、分数同士の減法ができない場合は、整数の1を分数にして計

II 調査結果の概要

算することを、数直線やリットルますなどの図を用いて理解させながら、処理技能の定着を図る必要がある。

大問 3

[4] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
13	3			短答	○	6(本できて、) 2.8(cmあまる。)	0	47.7
						6(本できて、) 28(cmあまる。)	1	2.4
						6.7(本できて、) △△(cmあまる。) ※残りの内容は問わない(空欄を含む)	2	4.0
						67(本できて、) △△(cmあまる。) ※残りの内容は問わない(空欄を含む)	3	4.4
						6(本できて、) 0.7(cmあまる。)	4	11.4
						6(本できて、) 7(cmあまる。)	5	5.8
						上記以外の解答	8	16.0
						無回答	9	8.3

[5] 出題のねらい

大問3は、「数と計算」領域の「小数と整数のわり算」の文章問題である。わり切れる場合、わり進む場合、あまりを出す場合など、問題場面の把握、立式、計算、解といった一連の思考につながりが見られるか確認するために設定した。

[3] 解説

**「答えはどれくらいになるかな?」「この答えは合っているかな?」
答えが出たら終わりではなく、問題場面に合っているか確かめる習慣を!**

文章を読んで、 $26.8 \div 4$ の包含除の場面を捉え、処理するこの問題は、正答率が47.7%であり、昨年度の正答率は56.2%であった。児童の誤答をみると、「6本できて、28cmあまる」と解答した児童は2.4%で昨年度と同程度である。それに比べ、「6.7本できて△△cmあまる」「67本できて△△cmあまる」「6本できて0.7cmあまる」「6本できて7cmあまる」などの、わり進めて計算している児童は25.6%いる。つまり、問題場面の意味を十分に捉えないまま、わり進む場合とあまりを出す場合を考えずに、除法ではとりあえずわり切れるまでわっている児童が多くいると考えられる。

「小数と整数のわり算」の問題場面には、わり進む(わり切れず商を概数で求める場合も含む)場面(等分除)とあまりを出す場面(包含除)とがある。場面の意味をとらえ、何の位まで計算すればよいのかを考えることを大切にされた指導を行う必要がある。その指導法として、例えば、問題場面を半具体物や図を用いて表現する活動が考えられる。図や操作活動を重視することで、等分除の場面と包含除の場面の違いが捉え易くなるだけでなく、単位を意識しながら、商とあまりの関係も明確になる。そのような経験を重ねることで、わり進めるべき場面なのか、商は整数まで求めあまりを出す場面なのかの判断を、児童ができるようにしていくことが大切である。

また、問題を読んだときに「答えがどれくらいになりそうか」「どんな数になりそうか」と見積もることや、「出てきた答えが本当に問題場面と結びついているのか」をふり返ることの必要性を、改めて指導していくことが大切である。

さらに、小数÷整数の筆算の仕方の習得も不十分であると言える。継続して小数÷整数の技能の習得を図る必要がある。

大問 4

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
14		(1)		短答	○	29	0	63.0
						2	1	2.4
						32	2	6.3
						3	3	4.2
						上記以外の解答	8	19.7
						無回答	9	4.5
					15		(2)	
	$\frac{6}{10}$ または $\frac{3}{5}$	1	13.1					
	$\frac{1}{5}$	2	0.7					
	小数で解答しているもの	3	13.0					
	上記以外の解答	8	17.3					
	無回答	9	5.4					
16	4	(3)	※	短答				
						類型0以外で $\frac{12}{5}$ を最も大きいとしているもの	1	9.1
						$2\frac{1}{5}$ を最も大きいとしているもの	2	7.7
						2 を最も大きいとしているもの	3	7.1
						$1\frac{3}{5}$ を最も大きいとしているもの	4	2.2
						$\frac{9}{5}$ を最も大きいとしているもの	5	0.5
						上記以外の解答	8	5.8
						無回答	9	2.3

※参考値です。

[2] 出題のねらい

大問4は、「数と計算」領域の「分数」に関する問題で、分数の基礎的・基本的な理解ができているかをみることを目的として設定した。

(1)は、分数が単位分数のいくつ分で表されていることが分かっているかどうかをみるために設定した。

(2)は、テープ図に表された分数を読み取る問題である。量としての分数の理解の定着をみるために設定した。

(3)は、分数と整数を大きい順に並べる問題である。整数一つ、仮分数二つ、帯分数二つを扱い、帯分数が仮分数のどちらかにそろえて比較する必要性が生まれるような問題を設定した。

[3] 解説

(1)は、「3と $\frac{2}{9}$ は、 $\frac{1}{9}$ を□こ集めた数です。」と□に当てはまる数を問う問題である。正答率は63.0%であった。過去に真分数だけで考える「 $\frac{7}{9}$ は、 $\frac{1}{9}$ を何こ集めた数ですか。」という問題を提示したところ、95.9%と高い傾向であった。このこととあわせて考えると、単純に真分数のいくつ分という見方はできていても、整数が真分数のいくつ分であるかという点での理解が不足していることが分かる。今後も、「単位分数が○こ集まるといくつになるか」「整数や分数が単位分数のいくつ分か」など、さまざまな角度から分数を考察する問題に触れる機会を増やし、分数や整数を単位分数のいくつ分であるかと考える見方を育てていく必要がある。

(2)は、テープ図に示された大きさを「1と $\frac{1}{5}$ (または $\frac{6}{5}$)」と分数で表す問題である。正答率は50.5%であった。また、見た目から「 $\frac{6}{10}$ ($\frac{3}{5}$)」と答えた児童は昨年度と同程度の13.1%であったが、小数で解答している児童は13.0%であった。テープ図が10等分されていることから、0.6と解答した児童が多くいたことが予想される。長さ(m)を分数で表す場合、「1mを○等分したうちのいくつ分で表す」という量分数の意味がしっかり押さえられていないことが分かる。(1)と同様に、常に単位分数に目を向けるような指導が必要である。「1を○等分したうちの一つが単位分数であること」「単位分数がいくつ集まって整数になるのか」を意識させるために、数直線を用いる際には、整数部分が「1」で終わりではなく、その先にも続いていくことを理解させるような提示の仕方を工夫する必要がある。

(3)「2と $\frac{1}{5}$ 、 $\frac{9}{5}$ 、1と $\frac{3}{5}$ 、2、 $\frac{12}{5}$ 」を大きい順に並べるという問題である。整数、帯分数、仮分数の三つの数の大小比較を問う問題で、今年度は65.2%であった。授業で、表し方の異なる分数同士をどのようにして比べればよいかを児童に考えさせたり、どのように直すと比べやすいかを検討したりする活動を取り入れた指導の成果が表れてきているといえる。引き続き、形式的に比較の仕方を定着させるだけでなく、相対的に分数を捉えたり、ある分数をいろいろな形で表したりする活動を重視することが大切である。

大問 5

[4] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)		
No.	大問	中間						小問	
17	5	(1)	選択	○	70にイ, 140にウ, □にオを解答しているもの	0	26.8		
				○	70にウ, 140にイ, □にオを解答しているもの	1	0.1		
				○	70にア, 140にイ, □にエを解答しているもの	2	4.4		
				○	70にイ, 140にオ, □にウを解答しているもの	3	0.2		
				○	70にイ, 140にア, □にエを解答しているもの	4	0.3		
				○	70にイ, 140にエ, □にアを解答しているもの	5	0.0		
				○	70にウ, 140にア, □にエを解答しているもの	6	0.0		
				○	70にウ, 140にエ, □にアを解答しているもの	7	0.0		
				○	上記以外の解答	8	55.8		
			無回答	9	12.5				
18	5	(2)	記述	【大問5(2) 採点基準】 (正答の条件) 次の①, ②の全てを正しく書いている。 ①きゅうりは2倍の値上がりであることを説明している。 ②キャベツは1.5倍の値上がりであることを説明している。 (正答例) きゅうりは(, 140÷70=2で)2倍の値上がりで, キャベツは(, 300÷200=1.5で)1.5倍の値上がりだから(, きゅうりのほうが値上がりしたと考えました)。 ※()は不問					
				○	①, ②の全てを正しく書いている。	0	29.4		
				○	①のみ正しく書いている。	1	24.2		
				○	②のみ正しく書いている。	2	0.4		
				○	キャベツが300円, きゅうりが140円で キャベツの方がねだんが高い。	3	0.1		
				○	キャベツは100円値上がりして, きゅうりは70円値上がりしている。	4	4.8		
				○	上記以外の解答	8	16.5		
				○	無回答	9	24.6		

[2] 出題のねらい

大問5は、「変化と関係」領域で、昨年度は、比較量と割合から基準量を求める除法の場面を取り上げ、数直線に適切な数値を入れる問題であった。今年度は、比較量と基準量から割合を求める除法の場면을数直線に表したり、その根拠を記述したりする問題に変更した。

(1)は問題文から数量関係を読み取り、基準量を1とみたととき、割合と比較量を数直線に表せるかをみる問題である。昨年度はAとBの1組を比べる問題だったのに対し、今年度はAとB、CとDという2組の数量の関係を、割合を用いて比べる問題である。このような見方は児童にとって初めての経験になる。

(2)は、昨年度、比較量、割合から基準量を求める除法の場면을正しく立式できるかをみる問題であった。今年度は、2組の数量の値上がりの根拠を記述にして問う問題である。この問題では、値上がりを差ではなく割合を用いて比べるということをもとに、値上がりの判断について根拠を明確にして表現できるかをみるために設定した。

[3] 解説

(1)の正答率は26.8%であり、今年度は基準量と比較量から割合を求める問題とした。昨年度は、比較量と割合から基準量を求める問題であった。

割合、比較量、基準量が何なのか、また数量関係を数直線に表すと、数値をどこにかけばよいのか分からない児童が多数いたと考えられる。

また、昨年度はAとBの1組を比べる問題だったのに対し、今年度はAとB、CとD(問題文はきゅうりとキャベツ)という2組の数量を比べる場面であったため、何と何を比べてよいのか、つかめなかった児童も

いたと考えられる。今年度は、他にも予想される解答以外の解答が 55.8%という数字になった。子どもがどのような解答をしたのか今後、詳細に分析し追求していく必要がある。

このことから授業の中で、立式の根拠を考える際に数直線に数量の関係を整理したり、数直線で表された場面を読み取ったりする活動を大切にされた指導を継続していくことが大切である。

(2)の正答率は 29.4%であり、この問題も低い数値となっている。この問題は、値上がりの根拠を差ではなく割合を用いて比べることを記述で書く問題である。解答を見ると、差でみている児童が 4.8%とそれほど高くはない。つまり、多くの児童は、値上がりを割合で見ようとしていることが分かる。

ただ、きゅうりとキャベツの値上がりを比べる際、二つの割合を比較しなければならない。正答は「きゅうりは2倍値上がりした。キャベツは1.5倍の値上がりだから、きゅうりの方が値上がりした。」である。しかし、「きゅうりのほうが2倍値上がりした。」ときゅうりの値上がりだけを書いてキャベツの値上がりを書いていない児童が 24.2%いた。また、「きゅうりは2倍だからキャベツより値上がりした」など、割合を比較する際の根拠が足りない解答もみられた。これらの誤答から、値上がりの判断はできているものの説明に必要な条件を捉えられていない児童が多いことが分かる。

このことから今後も授業では、二つの数量関係をテープ図や数直線に表して捉えたり、判断の根拠を説明したりする活動をよりいっそう大切にしていきたい。

なお、学習指導要領では、具体物、言葉、数、式、図、数直線を用いて表したり考えたり説明したりする活動を通して指導することが掲げられている。低学年から、具体物や半具体物を1列に並べたり、図に表したりするなどの活動を充実させることが大切である。第2学年のかけ算の学習や、第3学年のわり算の学習でも、数直線を意識したテープ図が教科書などで明示されている。具体から徐々に、より抽象化されたテープ図や数直線を読み取ったり、かいたりする力を育てていきたい。引き続き、低学年より課題場面から立式して計算処理をするだけでなく、テープ図や数直線などで数量関係をまとめるような授業展開が必要である。

大問 6

[4] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
19	6			短答	○	100	0	50.9
					○	(87+13)	1	2.5
						2400	2	3.2
						87 または 13	3	6.6
						1131 または 27144	4	1.9
						2101 または 50424	5	5.0
						3219 または 77256	6	1.2
						87+13	7	0.7
						上記以外の解答	8	17.3
						無回答	9	10.7

[2] 出題のねらい

大問6は、「数と計算」領域で、加減乗除に関する計算のきまりを理解し、分配法則を用いて、工夫して計算できるかをみるために設定した。

[3] 解説

正答率は 53.4%であった。昨年度は 42.6%である。計算のきまり(分配法則)の意味や使い方を丁寧に指導してきた結果が出てきているといえるが、まだ十分な正答率とは言い難い。数値が変わっても計算のきまりが使えるように、分配法則が表す意味についても理解し、二つのかけ算を一つの式にまとめたり、逆に一つの式から二つのかけ算を見出したりしていく経験を重ねる必要がある。

指導においては、加減乗除に関して成り立つ性質を使いたくなるような課題設定が大切である。これを使うと計算が簡単にできるという経験を積み重ね、加減乗除に関して成り立つ性質のよさを感じることができれば、計算の仕方を自ら工夫しようとする態度が育つと考えられる。

分配法則については、3年の「かけ算のきまり」や4年の「式と計算」だけでなく、3年「かけ算の筆算」や4年「小数と整数のかけ算、わり算」などでも意図的に取り上げることができる。様々な場面で繰り返し学習することで理解の充実を図ることが大切である。

大問 7

[4] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
20	7			短答	○	①500+200+300と解答しているもの ②1000と解答しているもの	0	41.4
						①500+200+300と解答しているもの ②1000以外を解答しているもの(無解答を含む)	1	1.9
						①470+200+250と解答しているもの ②920と解答しているもの	2	5.4
						①470+200+250と解答しているもの ②920以外を解答しているもの(無解答を含む)	3	0.6
						①類型番号0~3以外の組み合わせで、462を470または500に、198を200に、246を250または300に切り上げた式を解答しているもの ②和が式と一致しているもの	4	4.3
						①類型番号0~3以外の組み合わせで、462を470または500に、198を200に、246を250または300に切り上げた式を解答しているもの ②和が式と一致していないもの(無解答を含む)	5	0.4
						462+198+246と解答しているもの	6	0.7
						500+200+200と解答しているもの	7	33.2
						上記以外の解答	8	8.8
無回答	9	3.2						

[5] 出題のねらい

大問7は、買い物の場面を取り上げ、1000円で買い物ができるかどうかを判断するために、切り上げて計算する日常場面を想定した問題である。今年度で3年目の出題となる。切り上げの意味やそのやり方を理解しているかを確認したり、目的に合った数の処理の仕方を考えたりすることができるかみるために設定した。出題にあたっては、四捨五入の例を示し、三つの品物の代金のおよその代金を提示している。その後、日常生活の場面に合うよう代金を切り上げる問題を出題した。

[3] 解説

正答率は51.2%であった。昨年度は58.9%だった。誤答をみると、切り上げの問題にも関わらず、「500+200+200」と四捨五入をしているものが33.2%であった。四捨五入の仕方は理解しているが、1000円で買い物できるかどうかを判断するという問題場面をイメージできず、切り上げの目的を捉えられていない児童が3割以上いたことが結果から分かる。

指導の面では「どの位までの概数にするのか」「四捨五入するのか、切り上げるのか」ということを、児童自らが判断する場面を意図的に作り、「なぜそうしたのか」を問い返す中で、場面にふさわしい端数の処理の仕方を検討する活動を取り入れていくことが大切である。

大問 8

[1] 解答類型別の出現率

No.	問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
	大問	中間	小問					
21	8	(1)	選択	○	3		0	68.1
					1		1	2.5
					2		2	20.6
					4		3	4.5
					上記以外の解答		8	1.5
					無回答		9	2.8
				22	(2)	短答	○	230
	130		1				35.5	
	50		2				2.8	
	310		3				1.6	
	上記以外の解答		8				6.7	
	無回答		9				4.3	

[2] 出題のねらい

大問8は、「図形」領域の「角の大きさ」に関する問題で、角の大きさを正しく測定することができるかどうかをみることを目的として設定した。

(1)は、180度より大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができるかどうかをみるために設定した。

(2)は、180度や360度を基に分度器を用いて、180度よりも大きい角の大きさを求めることができるかどうかをみるために設定した。

[3] 解説

(1)の正答率は68.1%であった。昨年度の正答率は76.0%であった。「角の開き方が1直線になると180度」であることや、一回転の角の大きさは90度四分とみる見方を基にして、角の大きさの見当をつけることの理解が不十分であった。角の大きさの見当をつけることは、測定の誤りを防ぐ上で大切である。また、直角を基にして、90度より大きいかどうかを判断するなど、角の大きさの見当をつけることで、角の大きさについての感覚を豊かにすることも大切である。

(2)の正答率は、49.2%であった。昨年度の正答率は58.2%であった。(1)で68.1%の児童が角の大きさの見当をつけることができているにもかかわらず、角の大きさを正確に測定することができていない児童が多いことが分かる。誤答では、「130度」と答えた児童が35.5%いた。原因は、分度器の目盛りを0度の線を基に時計回りに読んだものと考えられる。

指導にあたっては、分度器の仕組みを十分観察させ、身の回りのいろいろな角の大きさを測定する活動を行いたい。合同な図形や、拡大図と縮図などの関連する内容においても意図的に取り扱うことで、分度器を用いた角の大きさの測定や作図の技能の定着を図ることが大切である。

大問 9

[1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間					
23	9	(1)	短答	○	3×4(=12) または 4×3(=12)	0	63.8
					2×3×4(=24)	1	5.2
					2×3(=6)	2	0.0
					2×4(=8)	3	0.2
					3×4= (右辺が書かれていないもの)	4	2.6
					60を用いた式を解答しているもの	5	3.4
					上記以外の解答	8	13.8
					無回答	9	10.8
				24	(2)	選択	○
	1	1	4.3				
	3	2	49.6				
	4	3	14.1				
	上記以外の解答	8	0.3				
	無回答	9	4.6				

[2] 出題のねらい

大問9「図形」領域の「面積」について出題した。

(1)は、長方形の面積を求める問題である。面積の求め方が分かっているかをみる問題としているので、主たる観点は知識・技能である。

(2)は、数量から適切な面積のものを選ぶ問題である。これまでの児童の解答としては、実際のものの面積よりも数値をかなり小さく見積もってしまう傾向がみられている。そのため、問う視点を逆にしても同様の傾向がみられるかを検証できるように、昨年度までの「はがきの面積」の数値を問う形式を変更し、「約150 cm²の面積のもの」を選択肢から選ぶ問題を出題した。量感が身に付いているかをみるために設定した。

また、今年度は(1)、(2)の出題の順序を昨年度と入れ替えた。これは、(1)で解答することにより図から約12 cm²の面積をつかんだことを、児童が(2)のおよその面積を考える際に生かすことができるかをみるために設定した。

[3] 解説

**面積を求める指導だけで、終わっていませんか？
2辺の長さに見当を付けた上で求める経験を！**

(1)の正答率は63.8%で、昨年度は64.0%だった。面積を求める長方形を斜めに提示したり、求積に必要な数値を提示したことにより、長方形と判断できなかつたり必要な数値を選ぶことができなかつたりした児童がいたことが分かる。

児童は、生活経験の中から形が安定する視点で図形を判断する傾向がみられる。「四つの角が全て直角」という定義をもとに、提示された図形は長方形であると判断できるようにすることが大切である。また、長方形の面積は、「縦×横」で求められることから2辺の長さのみに着目すればよいことにも気づかせることが必要である。

(2)の正答率は27.0%で昨年度は21.4%だった。誤答をみると、「算数の教科書の表紙」を選んだ児童が49.6%もいた。数量から適切な面積を答える形式に変更したが、今回も児童は実際の面積よりも数値をかなり低く見積もる傾向がみられた。これは、実際の面積を求める際に、2辺の長さをかけ合わせることで面積が求められるという考えが活用できないこと、長さや面積についての量感がともなっていない

II 調査結果の概要

いことが分かる。

指導については、身の回りのものの面積を求めるといった活動を積極的に取り入れていくことが大切である。その際、2辺の長さについて見当をつけた上で測定させたり面積を求めたりするなど、「長さ」や「広さ」について、量の感覚を育てていくような活動をさらに展開していく必要がある。また、量の感覚を育成するには、数種類の大きさの長方形の中から 300 cm^2 の図形を選ぶといった活動も有効である。指定された大きさの図形を選ぶ際には、 300 cm^2 という面積から $10\text{cm} \times 30\text{cm}$ や $15\text{cm} \times 20\text{cm}$ の長方形をイメージするなど、面積を辺の長さに置き換えて考えられるようにしていきたい。

さらに、導き出した答えが本当に正しいのかを、根拠をもとに振り返る態度も普段から養っていかなくてはならない。例えば、(1)では 12 cm^2 の長方形が示されている。これを生かして約 12 個分と考えれば、算数の教科書では大きすぎることは容易に判断できるはずである。普段の授業の中でも、ただ問題演習をして答え合わせをするだけでなく、求めた答えが正しいか自ら確かめたいくなるような課題設定も必要である。

大問 10

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
25	10			選択	○	1	0	59.9
						2	1	16.2
						3	2	10.0
						4	3	5.6
						上記以外の解答	8	2.2
						無回答	9	6.1

[2] 出題のねらい

大問10は、「図形」の領域で、平行四辺形の作図の仕方を、性質をもとに考えることができるかどうかをみるために設定した。

[3] 解説

**形式的に作図の手順を指導していませんか？
手順と定義や性質を対応させながら作図を！**

今年度の正答率は 59.9%で、昨年度は 57.8%であった。誤答の傾向も昨年度と大きく変化はみられなかった。これにより、三角定規を二つ用いて平行線を作図しているのにも関わらず、辺の長さや角の大きさなど、異なった図形の構成要素に着目している児童が多くいたことが分かる。

指導にあたっては、用いる用具やその操作が図形のどのような性質をもとにしているかを児童に考えさせることが大切である。「向かい合った二組の辺が平行」という性質をもとに、三角定規を用いて平行線を利用して作図できることや、「向かい合っている辺の長さが等しい」という性質をもとにコンパスを使った作図ができることを関連づけていく必要がある。

第3学年では、二等辺三角形の「2辺の長さが等しい」という特徴を理解し、等しい長さを移すことができるコンパスを用いて、二等辺三角形の等しい2辺の作図をしている。今回の結果から、既習との期間が離れてしまい、コンパスは単に円を作図するだけでなく、等しい長さを測り取ったり移したりすることができる道具であることの定着が図れていない可能性が考えられる。その図形の性質を利用して、作図していることを繰り返し各学年で意識づけていくことで、統合的に理解を深めていくことが大切である。

大問 1 1

[1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間					
26	11	(1)	選択	○	ア, ウ, エ, オ(順不同, 完答)	0	68.2
					ア, ウ, エを含み, オを含まないもの	1	9.2
					ア, ウ, オを含み, エを含まないもの	2	1.4
					ア, エ, オを含み, ウを含まないもの	3	3.6
					ウ, エ, オを含み, アを含まないもの	4	0.5
					正答のうち2つのみを含むもの	5	9.3
					正答のうち1つのみを含むもの	6	2.3
					ア, イ, ウ, エ, オ	7	0.4
					上記以外の解答	8	0.5
					無回答	9	4.5
				27	(2)	選択	○
	アを含み, ウを含まないもの	1	14.3				
	ウを含み, アを含まないもの	2	7.2				
	ア, イ, ウと解答しているもの	3	0.1				
	ア, ウ, エと解答しているもの	4	17.6				
	ア, ウ, オと解答しているもの	5	1.8				
	ア, ウ, エ, オ	6	7.1				
	上記以外の解答	8	7.2				
	無回答	9	7.9				

[2] 出題のねらい

大問11は、「図形」領域の「いろいろな四角形」について出題した。

(1)は、「向かい合った角の大きさが等しいすべての四角形」を選ぶ問題で、図形についての知識・技能をみるために設定した。

(2)は、「2本の対角線が垂直に交わる四角形」を選ぶ問題で、図形についての知識・技能をみるために設定した。

[3] 解説

(1)の正答率は68.2%であった。昨年度の正答率は71.1%であった。誤答では、平行四辺形を選択していない児童が9.2%、ひし形を選択していない児童が3.6%であり、この傾向も昨年度と同様である。

(2)の正答率は36.7%で、昨年度の正答率は41.2%であった。ひし形を選ばなかった解答に加えて、長方形を含んでしまった解答も多くみられた。長方形の角が直角であるため、対角線も直角に交わると考えている児童がいると予想される。これも、昨年度までと同様の傾向である。

指導にあたっては、一つ一つの図形の性質をただ学習するのではなく、例えば平行な辺が何組あるか、向かい合う角の大きさが等しいか、といった多面的な視点からそれぞれの四角形を捉え直し統合的に見るのが肝要である。また、対角線という視点から図形の特徴を捉えるのは4年生の学習が初めてである。辺や角だけでなく、対角線にも着目して分類整理できるようにすることが大切である。今年度も図形を提示しているため、線をかき加えれば対角線が垂直に交わるかを確認することができた問題である。自ら線をかき加えて判断していこうとする態度や、自分の解答が妥当かどうかをふり返る姿勢を育てる必要がある。

大問 1 2

[1] 解答類型別の出現率

問題番号				解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	中間	小問					
28		(1)		選択	○	2	0	60.1
						1	1	4.3
						3	2	1.5
						4	3	3.0
						5	4	20.9
						上記以外の解答	8	4.9
						無回答	9	5.3
					29	12	(2)	
○	辺アオ, 辺イカ, 辺ウキ, 辺エク (順不同, 完答)	0	52.7					
	辺オカ, 辺カキ, 辺キク, 辺オク	1	3.6					
	辺アイ, 辺イウ, 辺ウエ, 辺アエ	2	3.0					
	辺イカ, 辺ウキのみを解答しているもの	3	0.0					
	辺イカ, 辺ウキ, 辺エクのみを解答しているもの	4	0.1					
	辺の表記を間違えているもの	5	16.9					
	上記以外の解答	8	12.7					
	無回答	9	11.0					

[2] 出題のねらい

大問12は、「図形」領域の「立方体」について出題した。

(1)は、立方体の正しい展開図を選ぶ問題で、図形についての知識・技能をみるために設定した。例年、十字型で面を一つ増やして7面にした誤答を直感的に選んでいる児童が多くみられるため、今年度も十字型の誤答の展開図を5番目の選択肢にして傾向をみた。

(2)は、昨年度までの立方体の中で一辺に対して垂直な面を選ぶ問題から、一つの面に垂直な辺を選択する問題に変更した。学習の傾向として、ある面に対して垂直な辺を答える方が児童の理解が高いのではないかと考え、それを検証するために設定した。

[3] 解説

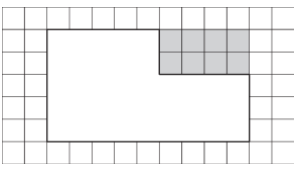
(1)の正答率は60.1%で、昨年度の正答率は63.3%であった。今年度も十字型の誤答の展開図を5番目の選択肢にしてみたが20.9%、約5人に1人の児童が十字型を選択した。指導にあたっては、十字型だけでなく複数の展開図があることについて、多くの児童が体験を通して理解できるようにする必要がある。実際に展開図をかいて立方体を組み立てたり、一つの立体を開いていくつかの展開図にしたりする活動が大切である。また、立方体や直方体が六つの面で構成されていることを、展開図と関連付けながら理解を深めるような手立ても重要である。

(2)は、立方体の底面に垂直な辺をすべて選ぶ問題で、正答率は52.7%であった。昨年度は一辺に垂直な面をすべて答える問題で、正答率は12.8%であった。このことから、面に対して辺が垂直に交わっている関係を捉えることの方が児童にとって容易であることが分かる。

立体の辺や面の位置関係については、立体を観察したり、構成したり、分解したりするなどの数学的活動を通して理解できるように指導することが大切である。面に対して垂直な辺だけでなく、辺に対して垂直な面など、様々な視点で立体をみつめていくことも重要である。また、児童の実態によっては、辺と面の垂直、平行の意味についてそれだけを取り出してスモールステップで指導していくことも考えられる。

大問 1 3

[1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)																																									
No.	大問	小問																																														
30	13				【大問13 採点基準】*複数の類型に該当する解答については、上位の類型に分類する。 (正答の条件) ①該当する部分に正しく色をぬっている。 (正答例)		<table border="1"> <tr> <td rowspan="8">記述</td> <td>○</td> <td>①を満たしているもの</td> <td>0</td> <td></td> <td>60.7</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2×4の部分にぬっているが、場所が間違えているもの</td> <td>1</td> <td></td> <td>2.6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>図形の2×5の部分に色をぬっているもの</td> <td>2</td> <td></td> <td>6.8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①以外の部分をぬっているもの</td> <td>3</td> <td></td> <td>10.7</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①を含め全体をぬっているもの</td> <td>4</td> <td></td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>①を表す補助線がかかっているが、色をぬっていないもの</td> <td>5</td> <td></td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>上記以外の解答</td> <td>8</td> <td></td> <td>6.2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>無回答</td> <td>9</td> <td></td> <td>11.1</td> </tr> </table>	記述	○	①を満たしているもの	0		60.7		2×4の部分にぬっているが、場所が間違えているもの	1		2.6		図形の2×5の部分に色をぬっているもの	2		6.8		①以外の部分をぬっているもの	3		10.7		①を含め全体をぬっているもの	4		0.4		①を表す補助線がかかっているが、色をぬっていないもの	5		1.5		上記以外の解答	8		6.2		無回答	9		11.1
									記述	○	①を満たしているもの	0		60.7																																		
											2×4の部分にぬっているが、場所が間違えているもの	1		2.6																																		
											図形の2×5の部分に色をぬっているもの	2		6.8																																		
											①以外の部分をぬっているもの	3		10.7																																		
											①を含め全体をぬっているもの	4		0.4																																		
											①を表す補助線がかかっているが、色をぬっていないもの	5		1.5																																		
											上記以外の解答	8		6.2																																		
										無回答	9		11.1																																			

**手順の説明で終わっていませんか？
式と図をつなげる活動を大切に**

[2] 出題のねらい

大問13は、「図形」領域から「複合図形の面積」を求める問題を出題した。主たる観点は思考・判断・表現である。昨年度までは、図形の一部を動かすことによって公式で求められる図形に変形(等積変形)する方法を扱い、その面積の求め方を説明する問題を出題していた。今年度は、複合図形を二つの長方形に分けて求めている式とその式が表す部分に色を付けている例を提示した。その例を参考にして、大きな長方形から、実際にはない部分の面積を引いて求めている式を出し、実際にはない長方形を求める式は図のどの部分にあたるかを問う問題に変更した。

変更の理由としては、面積を求めるだけでなく式が何を表しているのかを考える力が身に付いているか、実際にはない長方形を見出すことができるかをみるために設定した。

[3] 解説

実際にはない長方形の部分に正しく色をぬっている児童は、60.7%だった。昨年度の文章で説明する問題では 34.0%だったことから、説明する文章を考えることには難しさを感じていても、式を読み取り、図のどこにあたるかを考え、図などで表現する力はついていることがうかがえる。また、これまでの図や式を読み取って説明したり、自分の考えを図や式で説明したりする活動を多く取り入れ、答えを求める過程を大切に授業を行ってきた成果が出てきているといえる。図や式から考え方を読み取り、言葉で説明するなど、学習指導要領で大切にされている思考力・判断力・表現力等による課題解決は今後も重視される。引き続き、日常の授業で、友達の考えを読み取ったり、それを自分の言葉で説明したりする活動を充実させていく必要がある。その際には、図から式を考える活動とともに、式を読み取り、「この2×

4が表しているのは図でいうとこの部分で…」というような説明を児童がする場面も積極的に取り入れたい。学習指導要領では、面積の公式を作り出すことが求められている。公式をそれらが表すものを理解して使うためにも今後もこのような問題のような活動を充実させる必要がある。

大問 1 4

[1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)
No.	大問	小問					
31		(1)	短答	○	24(こ)	0	81.1
					36(こ)	1	0.6
					28(こ)	2	1.3
					上記以外の解答	8	8.1
					無回答	9	9
32	14	(2)	短答	○	$\bigcirc \times 4 (= \Delta)$	0	48.1
				○	$4 \times \bigcirc (= \Delta)$	1	24.1
				○	$\bigcirc + \bigcirc + \bigcirc + \bigcirc (= \Delta)$	2	0
					$\bigcirc + 4 (= \Delta)$	3	1.2
					$\bigcirc \times \bigcirc (= \Delta)$	4	0.5
					4×6	5	0.4
					4×6以外で○を使用していないもの	6	2.8
					上記以外の解答	8	9.6
					無回答	9	13.2

[2] 出題のねらい

大問14は、「変化と関係」領域の「変わり方」を取り上げた。図や表から数量の関係を読み、調べる問題である。昨年度と同様に、おはじきを並べて正方形を作る場面で、正方形の大きさ(○番目)とおはじきの数(△こ)の二つの数量の関係を調べる活動を扱った。変わり方がイメージしやすいように図に示し、解決の手だてとして正方形の大きさとおはじきの数をそれぞれ○、△とした途中までの表を示し、問題文にも「おはじきの数は4こ、8こ、12こ…とふえていきます」と明記した。

(1)は、正方形の一辺の長さから周りの長さを求める(調べる)問題で、主として思考・判断・表現をみるために設定した。

(2)は、ともなって変わる二つの数量の関係を式に表す問題で、主として思考・判断・表現をみるために設定した。「関係を式に表す」だけではさまざまな形での正答が存在し、子どもたちが混乱することも考えられるため、関係式の一部を表す問題形式とした。

[3] 解説

(1)の正答率は81.1%であった。昨年度の正答率は82.9%であった。昨年度と同様に、ともなって変わる二つの数量の関係を捉え、具体的な数値を求めることについては概ね理解できているといえる。今後も、様々な場面を通して、ともなって変わる二つの数量を表に表したり、式に表したりして明らかにしていく活動を大切にしたい。

(2)は、ともなって変わる二つの数量の関係を式に表す問題である。正答率は72.3%だった。昨年度の正答率は60.5%であった。ともなって変わる二つの数量関係を式に表したり、式を読み取り数量の関係を説明したりする学習を大切に行ってきた成果だといえる。

変わり方のきまりを見つけるには、表を縦に見て、「正方形の大きさとおはじきの数にはいつもどんな関係が成り立つのか」など、その規則性を発見しようとする態度が大切になる。それには、表の中だけでは考えられない極端な場合を考える場面を設定することが有効である。「表をずっと書き続けるのは大変」と児童が感じてこそ、規則性を見だし、式化する必要性を感じるからであ

る。今後も問題解決の過程を大切にしながら式に表す目的や有効性を感じられる学習展開を継続していきたい。

大問 1 5

[1] 解答類型別の出現率

問題番号			解答形式	正答	解答類型	類型番号	出現率(%)	
No.	大問	中間						小問
33	15	(1)	記述	【大問15(1) 採点基準】 場所とけがの種類の両方が、正しく記述されていないものは誤答とする。				
				○	4は、校庭で打ぼくをした人の数を表しています。 (4が明記されていなくても可。同意文可)	0		82.2
					「校庭でけがをした人の数です。」など、 けがの種類について記されていない。	1		0.6
					「打ぼくをした人の数です。」など、 場所について記されていない。	2		2.0
					類型0で、場所やけがの種類に誤りがあるもの。	3		0.1
					上記以外の解答	8		5.4
					無回答	9		9.8
34	(2)	選択	○	1, 4 (順不同, 完答)	0		62.3	
				1のみを解答しているもの	1		8.1	
				4のみを解答しているもの	2		3.9	
				解答に2を含んでいるもの	3		12.1	
				解答に3を含んでいるもの	4		2.9	
				上記以外の解答	8		0.4	
				無回答	9		10.3	

[2] 出題のねらい

(1)は、二次元表の中の数値が表していることを読み取る問題、(2)は、表を読み取り、そこから分かるものを選択する問題で、二次元表についての知識・技能や、二次元表を読み取り、その結果を考察する思考力や判断力をみるために設定した。

[3] 解説

(1)は二次元表の中の数値が表している二つの観点を読み取る問題である。正答率は82.2%であった。昨年度の正答率は54.7%であった。これは、資料を二次元表に分類整理したり、二次元表から情報を読み取ったりする際に、二次元表の二つの観点を考え、各欄の意味を明確にすることを大切にした学習を積み重ねた成果であるといえる。今後も二次元表の表す意味を捉えさせる活動を充分に行いたい。また、各欄の意味を理解できるように、「縦の項目」と「横の項目」の意味を話し合い、確認する活動も行っていくとよい。

(2)は、表を読み取り、そこから分かることを選択する問題で、今年度新たに出題した。正答率は、62.3%だった。二次元表から分かることを読み取ることは概ね理解しているといえるが、解答に2、3を含む答え方をしている児童が約15%いる。2、3の解答は表から考えられることではあるが、読み取れることではない。指導の際には、読み取れることと考えられることを整理して学習を進める必要がある。学習指導要領では、「データの活用」を中心とした領域が新設され、5年生では、「多面的に捉え考察すること」、6年生では、「問題の結論について判断するとともに、その妥当性について批判的に考察すること」が重視されている。指導にあたっては、表やグラフから読み取れることを考えたり、話し合ったりすることが必要である。グラフや表を作って終わるのではなく、作る目的を確認し、問題の解決にかなうものかなどを考察していきたい。

無解答率について

今年度、小問ごとにみた全 34 問の平均無解答率は 6.5% (昨年度 6.5%) であり、領域別で見ると、「数と計算」が 4.1% (昨年度 4.2%)、「図形」が 6.8% (昨年度「量と測定」9.1%「図形」が 5.9%)、「変化と関係」が 14.8%、「データの活用」が 10.1% (昨年度「数量関係」12.0%) だった。今年度は領域が変わり、単純な比較は難しいが、昨年度とほぼ同程度だった。

特に高かった問題は、大問 5 (2) 割合を用いた比べ方を記述する問題 24.6%、大問 1 4 (2) 表から二つの数量の関係を式にする問題 13.2%、大問 5 (1) 割合、比較量、基準量を数直線に表す問題 12.5%、大問 1 3 複合図形の面積を求める式の意味を理解し、図に表す問題 11.1%、大問 9 (1) 長方形の面積を求める問題 10.8% だった。

理由や求め方を文章で説明する問題、表やグラフから数量の関係を筋道立てて考える問題で、無解答率が高かった。見通しをもつことができなかったもの、時間がなくて答えられなかったもの、はじめから「できない」とあきらめてしまったものなど、さまざまな理由が考えられる。各校においては、児童の実態を把握するとともに、問題解決型の授業をさらに充実させ、既習の考えをもとにしたり、図に表したり、具体的な場面や数値に置き換えたりすることが、答えに近づくための手立てになると子どもたちが実感することを通して、無解答を減らしていくように努めていく必要がある。

(5) 今後の指導にあたって

◎全体を通して

今回の学習指導要領の改訂で「数学的な見方・考え方」については「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道立てて考え、統合的・発展的に考えること」と示された。

算数科で大切なことは、この「数学的な見方・考え方」を働かせながら、知識及び技能を習得したり、習得した知識及び技能を活用して探求したりしていくことである。

今年度の学習状況調査の算数科における平均正答率は 61.8%であった。昨年度の平均正答率 62.2%と比べると 0.4 ポイント落ちたがほぼ同等の値を維持している。また、領域別に平均正答率をみると、「数と計算」は 66.8%、「図形」は 54.6%、「変化と関係」は 52.4%、「データの活用」は 72.2%であった。まだまだ「数学的な見方・考え方」が身につけているとは言えない。

では、どのようにして授業を改善し、「数学的な見方・考え方」を育てていくのか。ポイントを以下にまとめる。

<数学的な見方・考え方を育む授業づくりのポイント>

- 1 問題場면을把握して、解決の方法や解答の見通しをもつ。
- 2 学習したことを用いて筋道立てて考え、言葉・数・式・図・表・グラフなどで表現する。
- 3 自分の解決方法や解答が、問題場面に合っているかを振り返る。
- 4 友達の考え（式、図など）を読み取る。
- 5 自分や友達の考えから相違点を見つけたり、整理したりして、考えと考えを結び付ける。
- 6 友達と一緒に創り上げる。
(より単純に、より簡単に、より正確に、より便利に、より美しく)
- 7 どのように考えることが大切だったか振り返る。

数学的な見方・考え方を育むためには、教材研究だけでなく、子どもたち同士が友達の考えを読み取ったり、自分と友達の考えを比べたりすることのできるような場の設定や授業構成、教師の言葉かけが大切である。また、自分の解決までの道筋を振り返り、検証する姿勢も併せて育てていきたい。子どもたちの数学的な見方・考え方を育てるためにも、日々の授業で、何を指導し、どんな力を身につけさせたいのかというねらいを明確にもって指導にあたっていきたい。

本調査をもとに、授業改善に積極的に取り組まれることを期待している。

○数と計算【大問1・2・3・4・6・7】

「数と計算」は、整数、小数、分数などの数の意味と表し方、数の計算などによって構成されている領域で、平均正答率は66.8%であった。

四則計算では、小数同士の加法や、小数と整数の乗法は、高い正答率を示している。一方で、小数同士の減法や、整数同士のわり進む除法、帯分数同士のひき算は、十分な正答率を得られていない。小数同士の加法では、位取りを正しく行い正答を求められた児童が76.2%いたのに対して、小数同士の減法になると58.9%に減っている。処理技能の定着だけでなく、位取り表などを用いて「各位の数字が何を表すのか」「位ごとに計算する意味」といった十進位取り記数法をしっかりと押さえられるような指導が重要である。分数同士の計算も同様で、加法は正答率が高いが、減法は低い傾向が見られる。分数の意味である「単位分数のいくつ分」という見方をしっかりと身に付けさせることに加え、帯分数における整数部分と分数部分の関係も、数直線やテープ図、面積図などを使って理解させる必要がある。

また、小数と整数の除法の文章問題では、立式はできているものの、文章から「どこまでわり進めていくのか」を判断することが、毎年課題となっている。今年度は47.7%であった。引き続き、場面を把握するために図に表したり、実際に操作したりする活動を取り入れていくことが大切である。また、「問題と照らし合わせて答えを見直す力」を育てていく必要もある。その方法として「見積もる」「確かめの式」「問題場面に戻す」など、見直し・振り返りが考えられる。学習内容や子どもの実態にあわせて取り入れていくことが大切である。

分数では、帯分数を単位分数のいくつ分かで表す問題で、毎年7割にいかない結果となっていて、十分理解しているとは言いがたい。引き続き、「単位分数のいくつ分」という見方ができるように、分数の意味を丁寧に指導していく必要がある。また、テープ図に表された分数を読み取る問題は50.5%と低い正答率となっている。分数も整数と同様に、量を表す数として数直線やテープ図に表したり読み取ったりする力をつけていかなければならない。見た目から判断している誤答も多いことから、単位分数を常に意識した指導が必要である。「1を○等分したうちの一つ分」という単位分数の意味を押さえるために、「単位分数を○こ集めると」「単位分数のいくつ分」など、いろいろな視点で数を見る力を育てていくことが大切である。

計算のきまりに関する問題は、正答率が53.4%であった。計算のきまり（分配法則）の意味や使い方を丁寧に指導してきた成果が出てきているといえる。引き続き、計算のきまりの意味を理解し、二つのかけ算を一つの式にまとめたり、逆に一つの式から二つのかけ算を見いだしたりしていく経験を重ねる必要がある。また、計算のきまりを用いることのよさを感じられるような課題の設定が必要である。加えて、低学年の頃から一つの数を「○から1ひいた数」「△と□を合わせた数」というように多様な見方ができる力を育てていくことも重要である。

「買い物の場面での概算」の問題の正答率は51.2%だった。「どの位までの概数にするか」「この場面は、四捨五入がいいか、切り上げがいいか」など、目的に合った数の処理の仕方を考えることが大切になる。授業の中で、概数にする処理の仕方を見童自らが判断する場面や、それが適切であるかどうかを振り返る場面を取り入れていきたい。

「数と計算」の内容は、他の領域と深く関わりがあるので、重点を置いて指導していく必要がある。指導にあたっては、数の形式的な処理だけでなく、十進位取り記数法、0.1や単位分数のいくつ

II 調査結果の概要

分かなどの数の意味もきちんとおさえていくことが大切である。さらに、わり算や分数、倍とわり算などの指導では、図や数直線などを用いて実感をともなるとらえられるようにすることが大切である。

キーワード：図や数直線、十進位取り記数法、意味に着目、見通し・振り返り、単位分数

○図形【大問8・9・10・11・12・13】

「図形」は、量の概念、図形の構成・性質、角、面積・体積によって構成されている領域である。平均正答率は54.6%だった。

180度よりも大きな角の求め方については、今年度は、「だいたいどれくらいの大きさになるか」見積もること、分度器の目盛りを読んで角度の大きさを求めることを見る問題である。68.1%の児童が大きさを正しく見積もれたにも関わらず、180度以上の角度を分度器の目盛りを読み取って答えられた児童は49.2%だった。分度器の目盛りの読み方、180度以上の角度の測り方の理解に課題がある。分度器の仕組みを十分観察させ、身の回りのいろいろな角度（左側に開いている角や180度より大きい角など）を測る活動、角をかく活動を十分に行い、実感的な理解を図りたい。

長方形の面積を求める問題は、正答率は63.8%だった。長方形が斜めだったり、求積に必要なない数値が提示されていたことにより、長方形と判断できなかつたり、必要な数値を選ぶことができなかつたりした児童が多かったと考えられる。「四つの角がすべて直角」という定義をもとに図形を判断し、面積を求めるのは2辺の長さに着目すればよいことに気づけるよう、図形の見方を育てていきたい。

面積の量感に関する問題は、毎年課題が見られ、今年度も27.0%と、同様に低い正答率となっている。引き続き、実測したり体感したり比較したりするなど、量に対する感覚を日頃から育てていくことが大切である。また、量感を身につけるには、「長さ」から「広さ」だけでなく「広さ」から「長さ」という、自分がイメージできるものに戻って判断する力が必要である。例えば、面積を調べる活動において、「縦が△cm、横が□cmだから…」と根拠をもとに予想をさせることで、面積に対する見方を広げ、量感をつかめるようにする。また、求積するだけでなく、面積から実際の広さをイメージできるような活動を多く取り入れていく必要がある。

コンパスを用いた平行四辺形の作図の方法は、平行四辺形のどんな特徴を使っているのかを問う問題の正答率が59.9%であった。平成26年度の、実際に平行四辺形を作図する問題の正答率は74.5%と高かったことを踏まえると、図形の特徴を理解しないまま、形式的に作図の手順を指導してきたことが分かる。作図をする際には、図形のどのような特徴をもとにしているのか、なぜその方法で作図することができるのかを考えるように指導する必要がある。

いろいろな四角形から同じ特徴の四角形を選ぶ問題は、「向かい合った角の大きさがすべて等しい四角形」については68.2%の正答率で、例年概ね理解していることが分かる。しかし、「2本の対角線が垂直になっている四角形」については、正答率が36.7%と十分理解できているとはいえない。図形の特徴を調べるときに、角の大きさや辺の長さだけでなく、対角線に着目して分類整理していくことも大切にして授業を行っていきたい。

立方体の展開図の問題では、面に対して垂直な辺を考える問題の正答率が 52.7%（昨年度は辺に対して垂直な面を答える問題で 12.8%）であった。過去に面と面の関係、辺と辺の関係を問う問題を出題したときには、6割を超える正答率が得られたことを考えると、昨年度より正答率はあがったものの辺と面の関係の理解が不十分だと言える。立体の辺や面の位置関係については、立体を観察したり、構成したり、分解したりする活動を通して理解できるように指導することが大切である。

複合図形の面積を求める問題は、大きな長方形から、実際にはない部分の面積を引いて求める方法で、実際にはない長方形を求める式は図のどこの部分にあたるかを問う問題に今年度変更した。今年度の正答率は 60.7%であった。昨年度、文章で説明する問題では 34.0%だったことから説明する文章を考えることには難しさを感じていても、式を読み取り、図のどこにあたるか考え、図などで表現する力がついていることがうかがえる。与えられた図から式を立て面積を求めるだけでなく、普段の授業の中で友達の様式や図を読み取って、その意味や考え方を説明するなど、図と式を相互に結び付ける活動を今後も積極的に取り入れる必要がある。

図形の学習は、辺、頂点、角、面などの構成要素に着目して図形を分類し、各図形を定義し、理解を深めていくことが大切である。低学年の頃から、構成要素に着目し、いろいろな図形を弁別したり作図したりする活動を通して、図形に親しみ、豊かな感覚を育てる学習を取り入れなければならない。また、実際に長さや角度を測ることで、図形の特徴について実感をともなって理解できるような指導が重要である。

キーワード：図と式の相互関係、量感、操作、図形の構成要素、作図できる特徴、実測

○変化と関係【大問5・14】

「変化と関係」は、今年度から新設された領域で単位量当たりの大きさ、速さ、割合、比、比例によって構成される領域である。平均正答率は 52.4%だった。

倍とわり算では、昨年度、AとBの1組を比べる問題だったのに対し、今年度はAとB、CとDという2組の数量の関係について割合を用いて比べる問題に変更した。数量関係を数直線に表す問題では、今年度は基準量と比較量から割合を求める場面で正答率が 26.8%と低い結果になった。原因として、割合、比較量、基準量が何なのか、また数量関係を数直線に表すと、数値をどこにかけばよいのか分からない児童が多数いたことが分かる。また、昨年度はAとBの1組を比べる問題だったのに対し、今年度はAとB、CとDという2組の数量を比べる場面であったため、何と何を比べてよいのかつかめなかった児童もいたと考えられる。今年度、このような原因の他にも誤答がみられ、予想される解答以外の解答が 55.8%だった。児童がどのような解答をしたのか今後、詳細に分析し追求していく必要がある。

どちらがより値上がりしたかの根拠を記述で問う問題の正答率は 29.4%であり、この問題も低い正答率となっている。この問題は、どちらがより値上がりしたかの根拠を差ではなく割合を用いて比べることを記述で書く問題である。解答を見ると、差でみている児童が 4.8%とそれほど高くはないことが分かった。正答は「きゅうりは2倍の値上がりで、キャベツは1.5倍の値上がりだから、きゅ

II 調査結果の概要

うりの方が値上がりした。」であり、きゅうりとキャベツの値上がりを比べる際、二つの割合を比較しなければならない。しかし、「きゅうりが2倍値上がりした。」ときゅうりの値上がりについてだけを書いて、キャベツの値上がりについて書いていない児童が24.2%いたことが分かった。これらの誤答から、値上がりの判断はできているものの説明に必要な条件を捉えられていない児童が多いことが分かった。

今後も数直線やテープ図を立式の根拠や考え方の筋道を表すことに用いることができるよう、数量関係を図に表したり読み取ったりする指導を続けていく必要がある。また、自分の考えの根拠を説明する際に、何に着目したのかを明確にして説明できるような活動を大切にしていきたい。

ともなって変わる二つの数量の関係を記号を用いて式に表す問題は、毎年少しずつ正答率が上がってきている。図や表から数量の関係を読み取り調べる問題は81.1%、ともなって変わる二つの数量の関係を式に表す問題は72.3%であった。ともなって変わる二つの数量の関係を捉え、具体的な数値を求めることは概ね理解できていると言える。また、ともなって変わる二つの数量の関係を式に表す問題も結果から成果がうかがえる。今後も、表の続きを自分で作ってみたり、表を縦や横に見て規則性を発見したりしていこうとする態度を育てていく必要がある。

キーワード：立式の根拠、考えの根拠、数量関係を数直線に表したり、読み取ったりする

○データの活用【大問15】

「データの活用」は、今年度から新設された領域で測定値の平均、表、グラフで構成された領域である。平均正答率は72.3%であった。

二次元表の中の数値が表している二つの観点を読み取る問題では、正答率は82.2%であった。これは、資料を二次元表に分類整理したり、二次元表から情報を読み取ったりする際に、二次元表の二つの観点からみて、各欄の意味を明確にすることを大切にした学習を積み重ねた成果であるといえる。今後も二次元表の表す意味を捉えさせる活動を十分に行いたい。また、各欄の意味を理解できるように、「縦の項目」と「横の項目」の意味を話し合い、確認する活動も行っていくとよい。

表を読み取り、そこから分かるものを選択する問題で正答率は62.3%であった。二次元表についての知識・技能や、二次元表を読み取り、その結果を考察する思考力や判断力をみる問題として設定した。誤答から子どもたちは資料から読み取れることではなく、普段の生活場面を想像して問題を解いていることが分かる。指導にあたっては、表やグラフから読み取れることと考えられることを整理することが必要である。また、グラフや表を作って終わるのではなく、作る目的を明確にし、問題の解決にかなうものかななどを考察していきたい。

キーワード：表やグラフを読む、二次元表の意味、読み取れることと考えられることの整

3. 生活や学習についてのアンケート

調査の概要

1 調査の目的

川崎市の公立小学校に在籍する児童の生活や学習についての意識や実態を把握することにより、各学校における教育課程や指導方法等の改善に資するとともに、本市学校教育全体の充実に向けた基礎資料として活用する。

2 調査の設計

(1) 調査実施校及び対象者

市内公立小学校第5学年に在籍する全児童 *調査当日の欠席者を除く

(2) 調査校数及び回答者数

学校数：114校 回答者数：11,872名

(3) 調査実施日

令和2年7月6日（月）～10日（金）に川崎市学習状況調査の一環として、各教科の調査後に実施

(4) 調査方法

無記名の質問紙法調査による

(5) 調査内容及び設問数

児童の生活と学習に関する意識と実態についての調査 69問

(6) 設問の主な観点及び視点

	観 点	視 点
1	学校生活に対する意識	楽しさ
2	学習全般に対する意識	好感度、必要性、理由、相談相手
3	各教科等に対する意識	好感度、理解度、有用感
4	家庭学習の実態	学習時間、学習内容、通塾
5	家庭生活の実態	睡眠時間、朝食の摂取、学習の準備 テレビ・ビデオ・ゲーム等の視聴・実施時間、 携帯電話等の使用、1ヶ月の読書量、思いや考えの表現
6	自己肯定感、将来に関する意識等	自己肯定感、将来に関する意識、失敗を恐れず挑戦、 他者との協力・協働、郷土への愛着・貢献
7	各教科等に対する意識・実態	学習内容・方法に対する好感度や実施の程度 日常生活への活用や関連 等

3 調査結果の集計・分析にあたっての留意事項

(1) 単純集計及び分析

- ① 2の(6)にある「設問の観点」ごとに項立てを行い、分析を行った。
- ② 設問ごとに集計結果をグラフで表し、考察を加えた。
- ③ 一部の設問では昨年度・一昨年度の結果を併記して、経年比較分析を行った。

(2) クロス集計及び分析

いくつかの設問については、クロス集計という手法を用いて分析した。これは、設問Aでの選択肢ごとに設問Bの回答を集計することで、設問Aでの回答選択の違いを設問Bで説明する方法である。このことにより、設問Aと設問Bの二つの設問の間の関連や相関関係などを分析した。なお、クロス集計では、集計の都合上無回答者を除いて集計した。

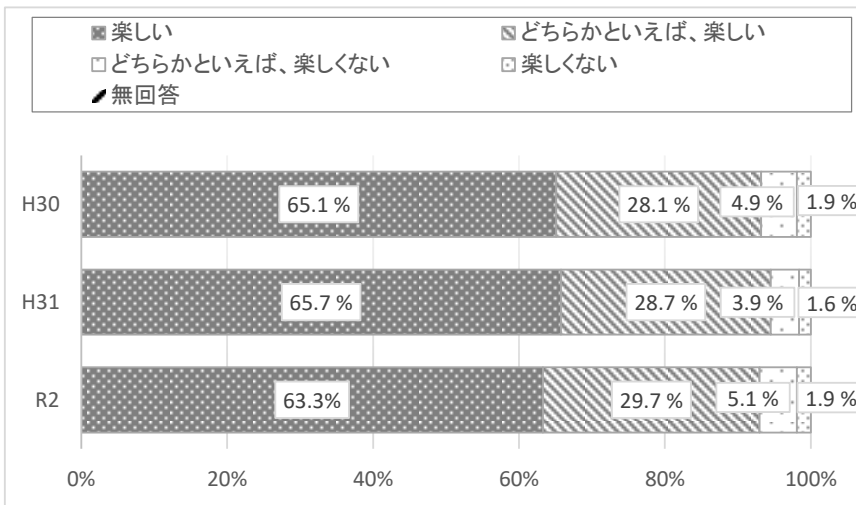
- (3) 各グラフには、見易さを考慮して調査結果の割合の数値を記入しきれていないものがある。単純集計については、「資料 調査結果集計表」の該当設問の数値でご確認願いたい。

調査結果と分析

単純集計

1 学校生活に対する意識

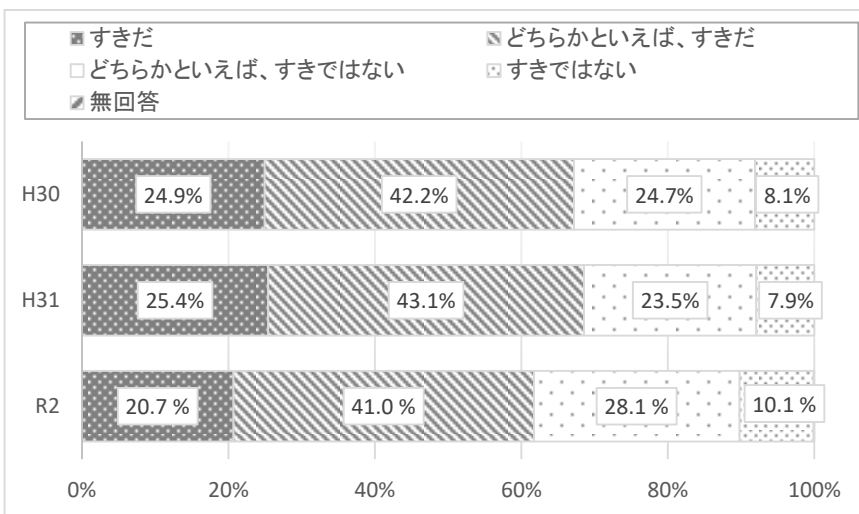
学校生活の楽しさ【問1】



○63.3%の児童が、学校生活は「楽しい」と回答しており、「どちらかといえば、楽しい」を合わせると93.0%である。
○「楽しい」と「どちらかといえば、楽しい」を合わせた回答は過去3年通して9割を超えている。

2 学習全般に対する意識

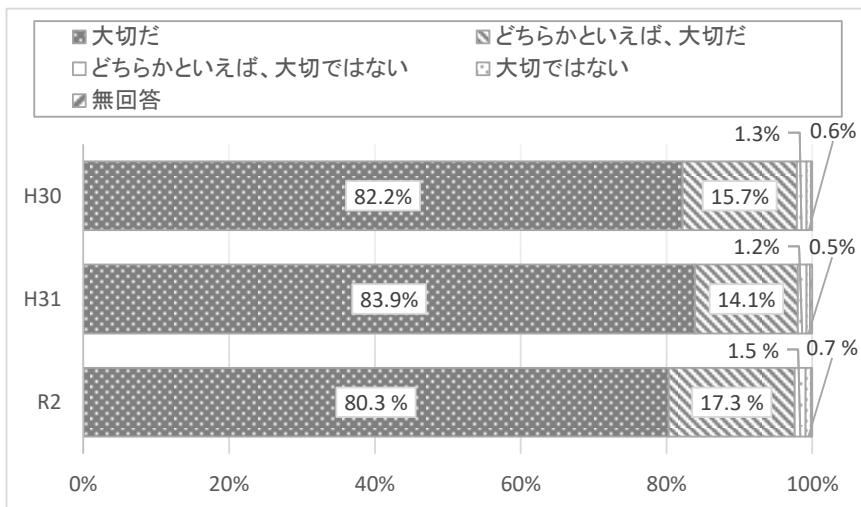
(1) 好感度【問2】



○20.7%の児童が、勉強は「すきだ」と回答しており、「どちらかといえば、すきだ」を合わせると61.7%である。

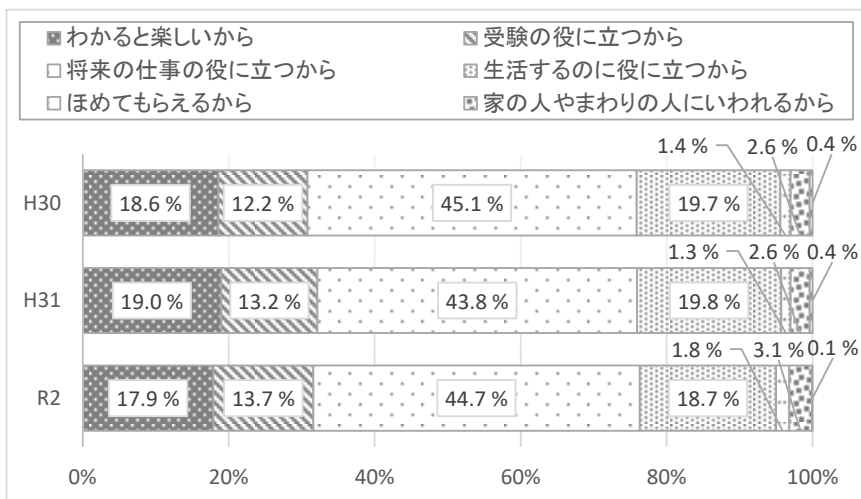
II 調査結果の概要

(2) 必要性【問3】



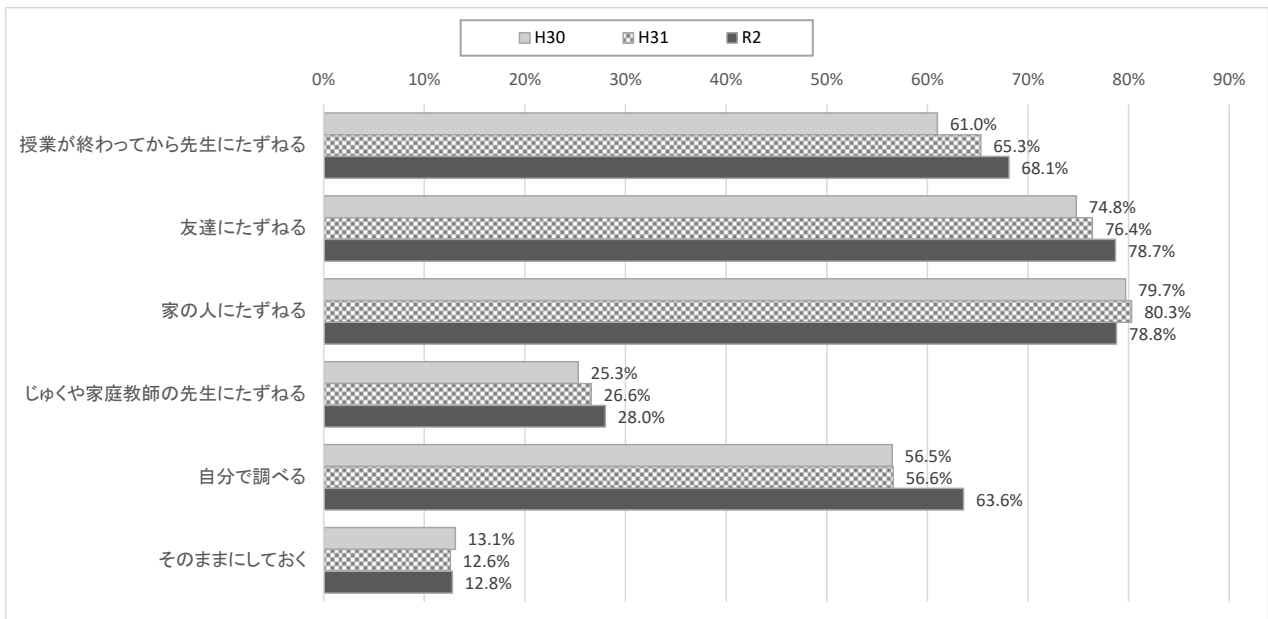
○80.3%の児童が、勉強は「大切だ」と回答しており、「どちらかといえば、大切だ」を合わせると97.6%である。

(3) 理由【問4】



○勉強する一番の理由として、「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」を合わせると63.4%である。

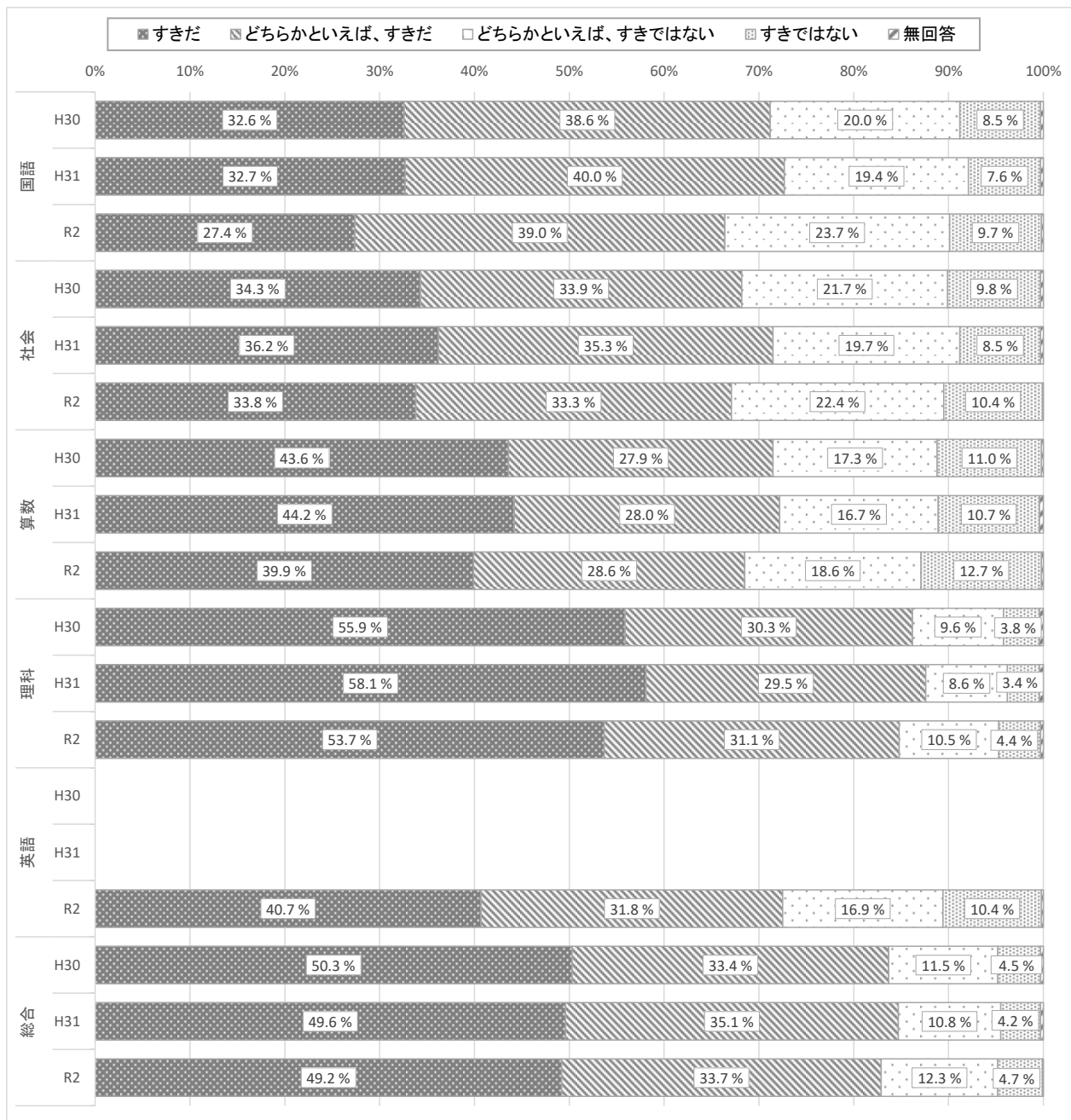
(4) 相談相手【問 28～33】



- 「授業の中で、わからないことがあったときに相談する相手」として、「家の人」を選んでいる児童が 78.8%と最も多く、「友達」の 78.7%が続いている。
- 「授業が終わってから先生にたずねる」「友達にたずねる」「じゅくや家庭教師の先生にたずねる」は 30・31 年度から微増した。「自分で調べる」は 31 年度から 7ポイント増加した。

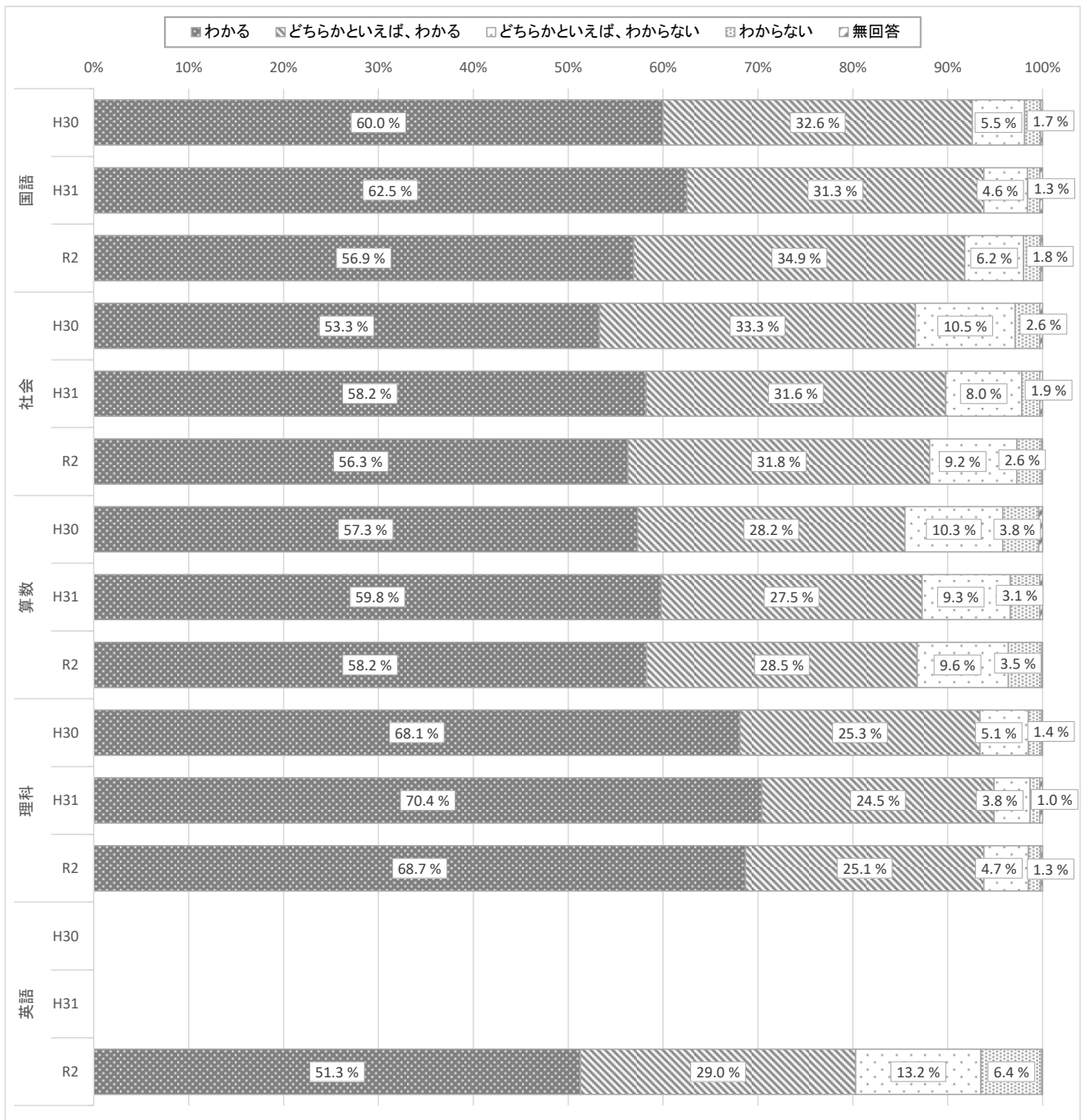
3 各教科等に対する意識

(1) 好感度【問5～10】



- 「好きだ」と「どちらかといえば、好きだ」と回答した児童は、「国語」66.4%、「社会」67.1%、「算数」68.5%、「理科」84.8%、「英語」72.5%、「総合的な学習の時間」82.9%である。
- 「好きだ」と回答した児童は、「国語」27.4%、「社会」33.8%、「算数」39.9%、「理科」53.7%、「英語」40.7%、「総合的な学習の時間」49.2%である。

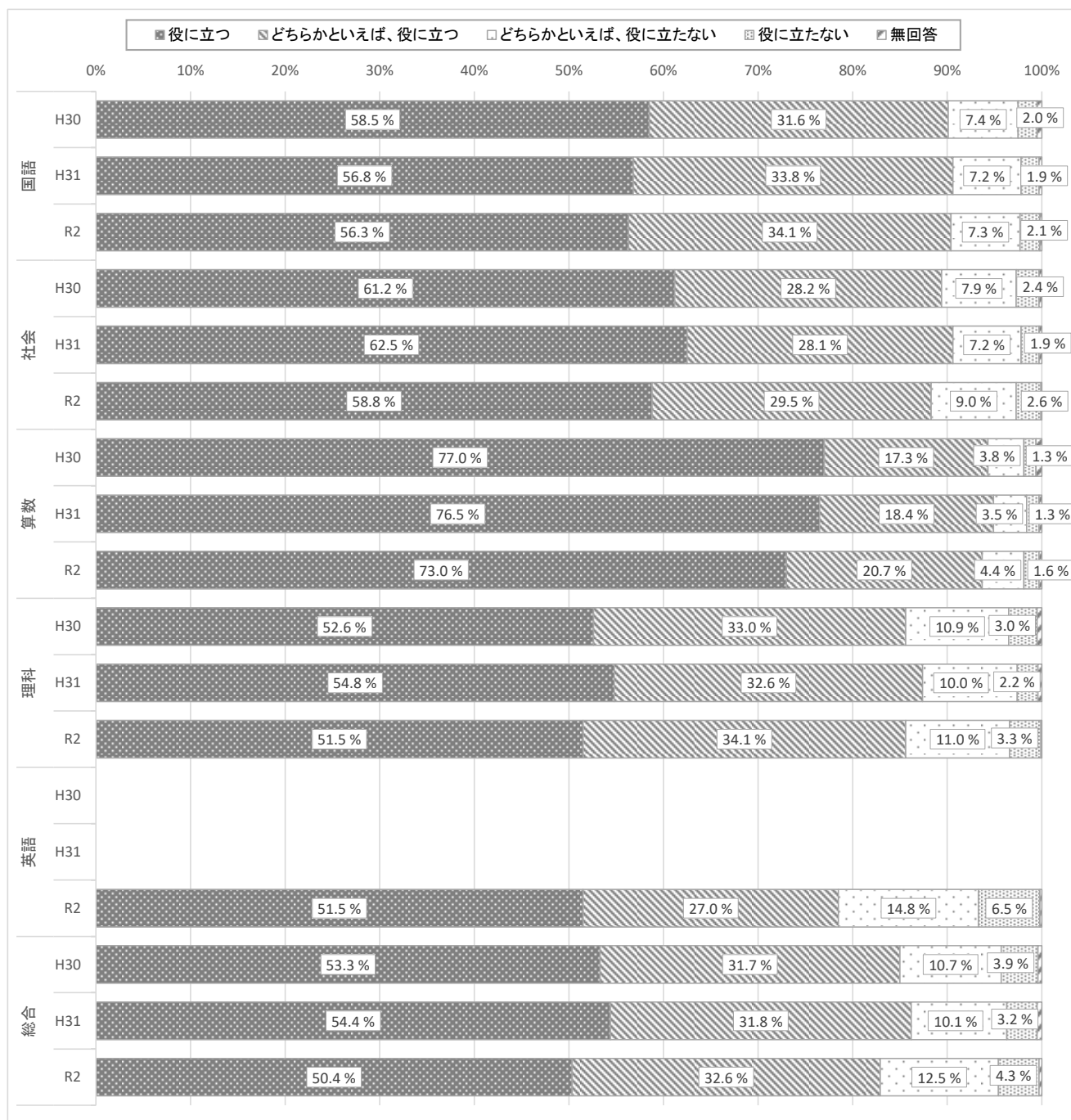
(2) 理解度【問11～15】



- 「わかる」と「どちらかといえば、わかる」と回答した児童は、「国語」91.8%、「社会」88.1%、「算数」86.7%、「理科」93.8%、「英語」80.3%である。
- 「わかる」と回答した児童は、「国語」56.9%、「社会」56.3%、「算数」58.2%、「理科」68.7%、「英語」51.3%である。

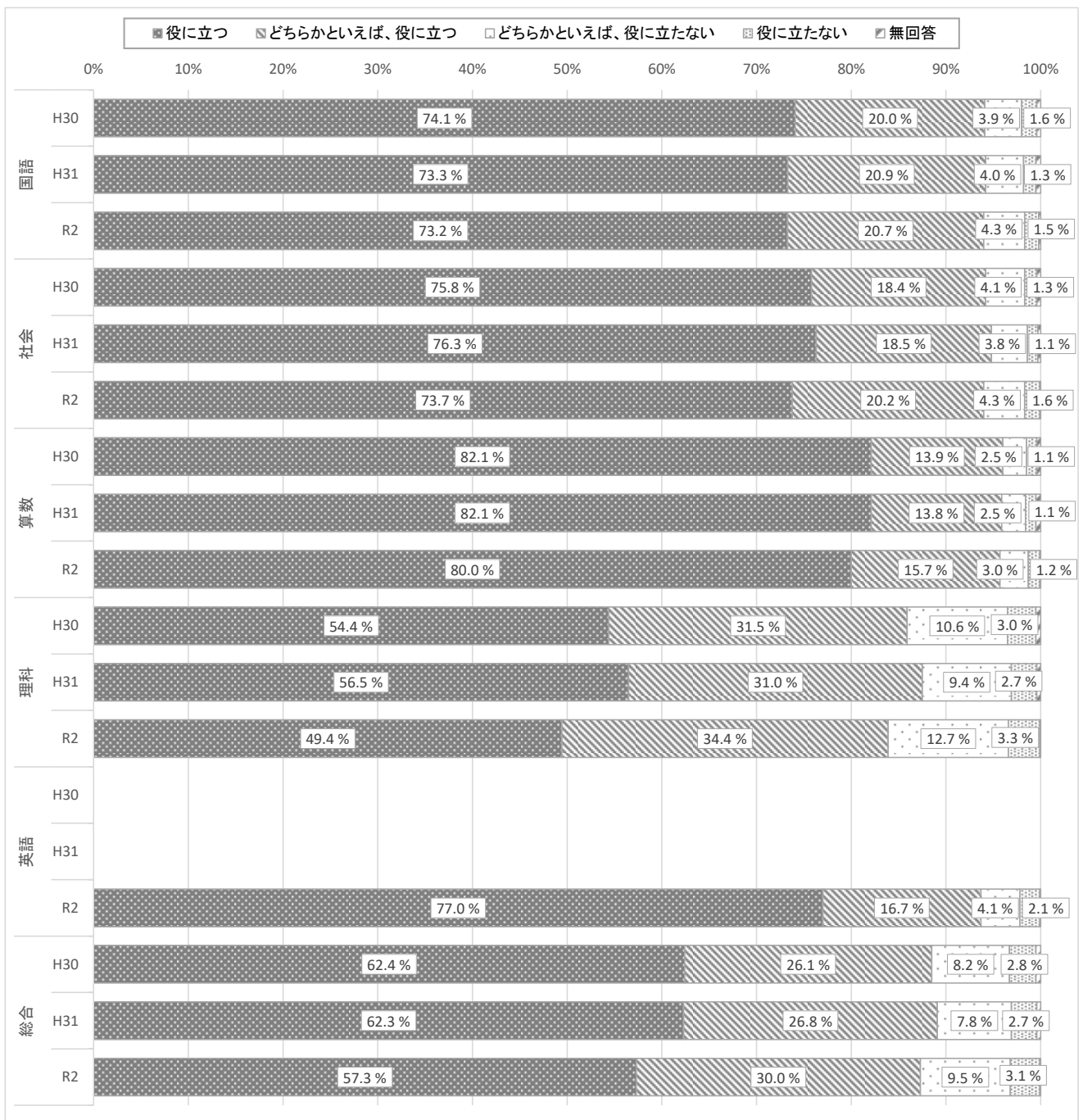
II 調査結果の概要

(3) 生活の中での有用感【問 16～21】



- 「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」と回答した児童は、「国語」90.4%、「社会」88.3%、「算数」93.7%、「理科」85.6%、「英語」78.5%、「総合的な学習の時間」83.0%である。
- 「役に立つ」と回答した児童は、「国語」56.3%、「社会」58.8%、「算数」73.0%、「理科」51.5%、「英語」51.5%、「総合的な学習の時間」50.4%である。

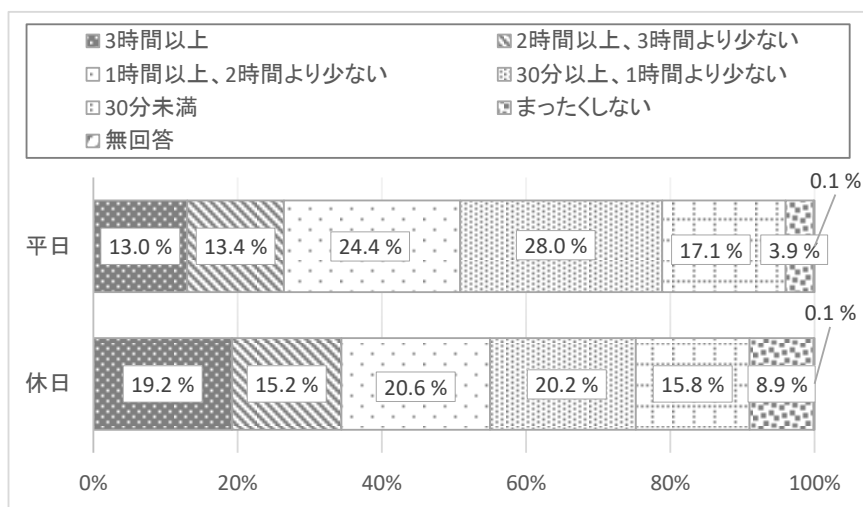
(4) 将来における有用感【問 22～27】



- 「役に立つ」と「どちらかといえば、役に立つ」と回答した児童は、「国語」93.9%、「社会」93.9%、「算数」95.7%、「理科」83.8%、「英語」93.7%、「総合的な学習の時間」87.3%である。
- 「役に立つ」と回答した児童は、「国語」73.2%、「社会」73.7%、「算数」80.0%、「理科」49.4%、「英語」77.0%、「総合的な学習の時間」57.3%である。

4 家庭学習の実態

(1) 学習時間【問 34～35】

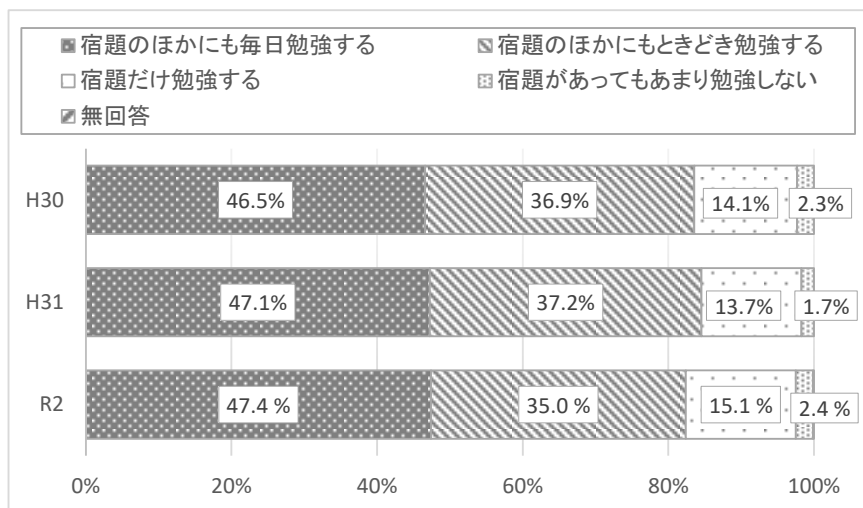


○平日は「30分以上、1時間より少ない」が28.0%で最も多く、次いで「1時間以上、2時間より少ない」が24.4%となっている。休日は「1時間以上、2時間より少ない」が20.6%でもっとも多く、次いで「30分以上、1時間より少ない」が20.2%となっている。

○「3時間以上」は平日が13.0%だが、休日は19.2%となっている。

○学習時間が1時間以上の層は平日が50.8%、休日が55.0%となっている。

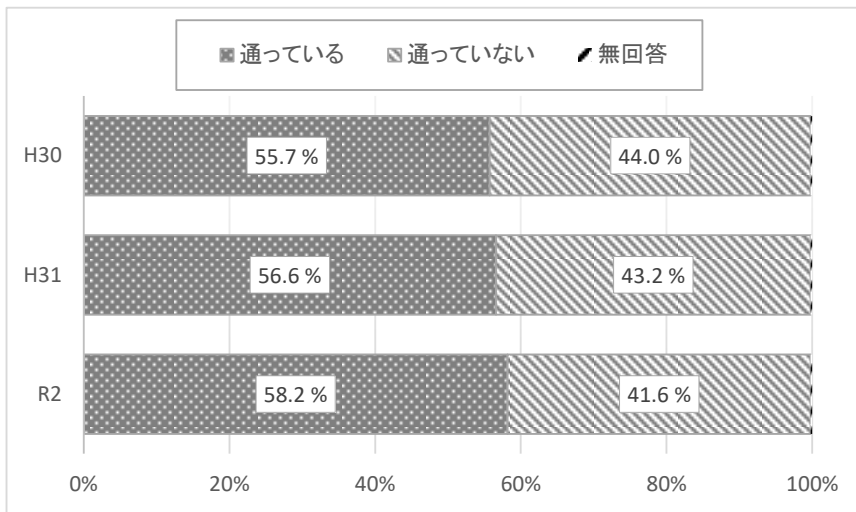
(2) 学習内容【問 36】



○「宿題のほかに毎日勉強する」が47.4%で最も多く、「宿題のほかにもときどき勉強する」が35.0%で続いている。

○「宿題があってもあまり勉強しない」と回答した児童は2.4%である。

(3) 通塾【問 37】

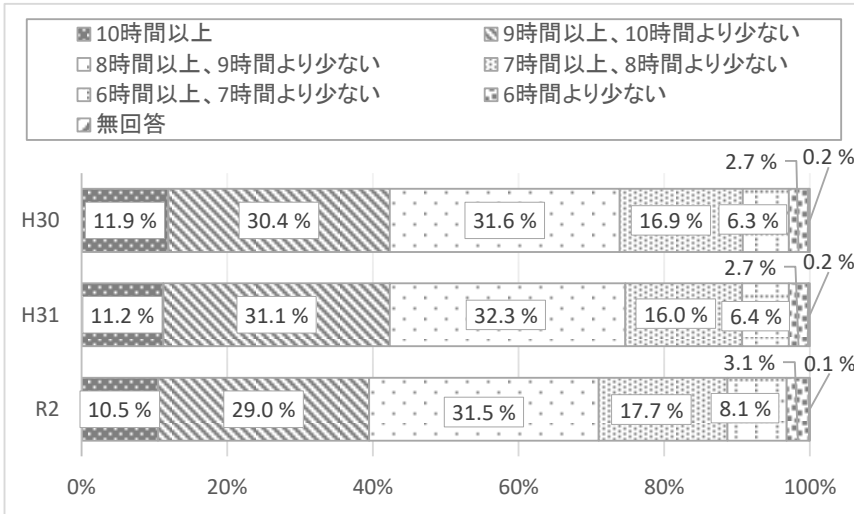


○学習塾に通っている児童は58.2%で、31年度と比較すると、1.6ポイント高くなっており、また30年度からの経年で3年連続して増加している。

II 調査結果の概要

5 家庭生活の実態

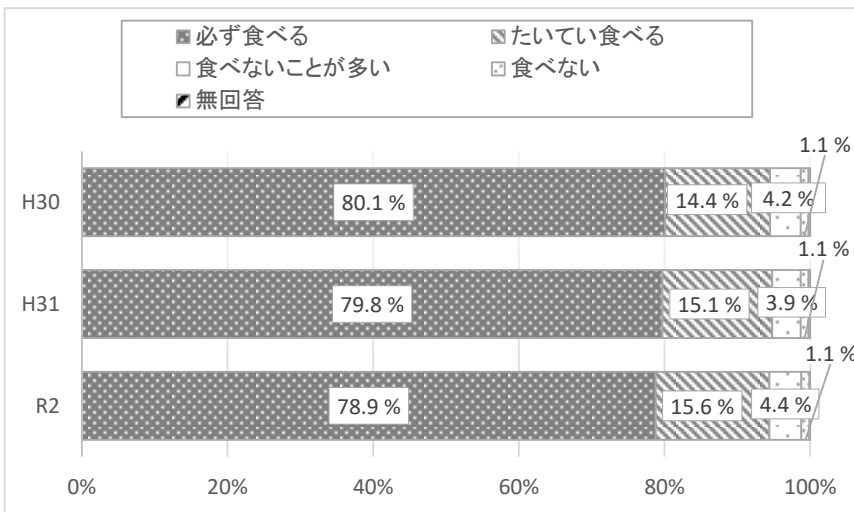
(1)睡眠時間【問 38】



○「8時間以上、9時間より少ない」(31.5%)、「9時間以上、10時間より少ない」(29.0%)という回答が多い。約71.0%の児童は、睡眠時間が8時間以上である。

○睡眠時間が7時間未満の児童の割合は11.2%である。

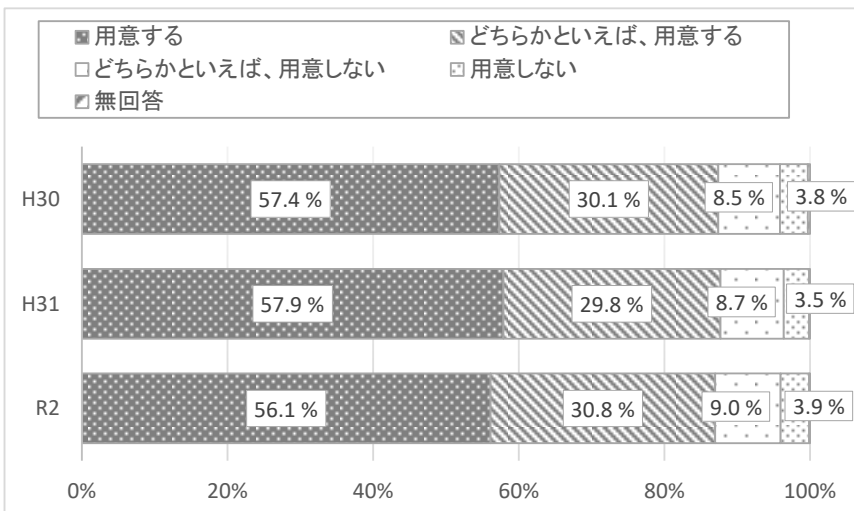
(2)朝食の摂取【問 39】



○「必ず食べる」と回答している児童の割合は78.9%であり、「たいてい食べる」を合わせると94.5%である。

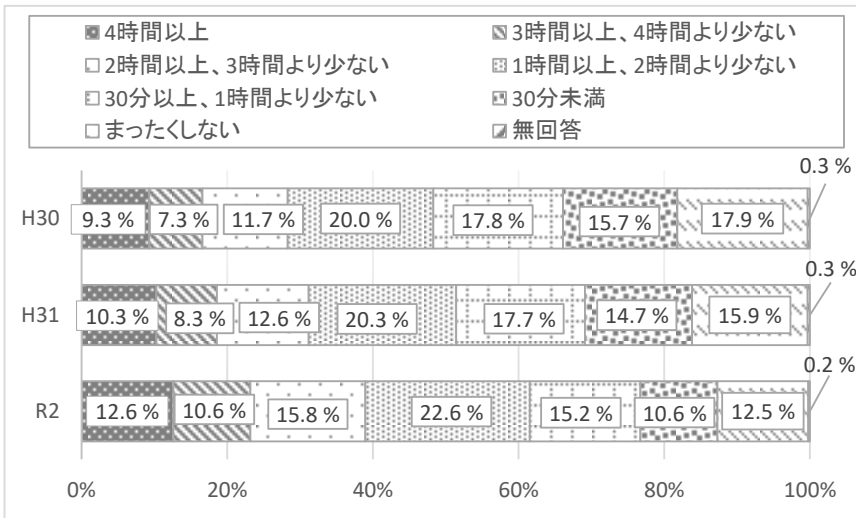
○「食べない」と回答した児童は1.1%である。

(3)学習の準備【問 40】



○学校に持っていくものを前日に「用意する」と回答した児童の割合は56.1%であり、「どちらかといえば、用意する」を合わせると、86.9%である。

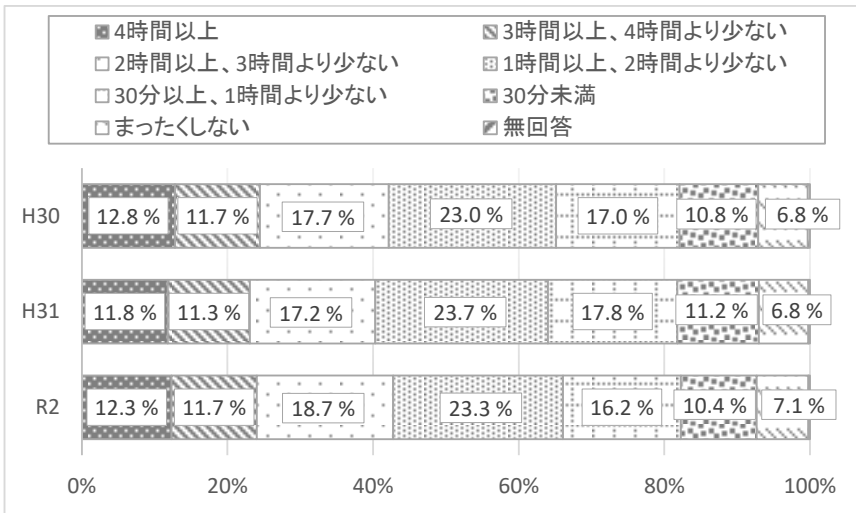
(4)テレビゲームの実施時間【問 41】



○実施時間が「1時間以上」の回答の合計は、61.6%である。31年度よりも10.1ポイント増加している。

○「3時間以上」の回答の合計は、23.2%である。

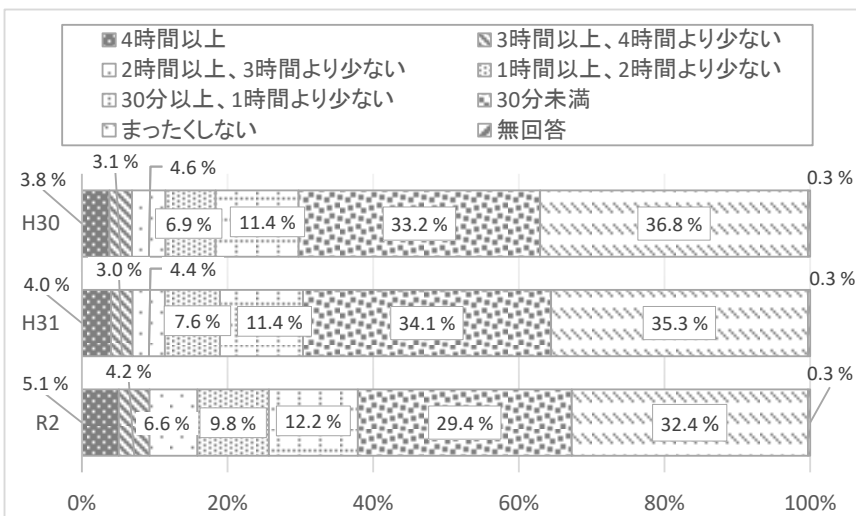
(5)テレビやビデオ・DVDの視聴時間【問 42】



○視聴時間が「1時間以上」の回答の合計は、66.0%である。31年度よりも2.0ポイント増加している。

○「3時間以上」の回答の合計は、24.0%である。

(6)携帯電話やスマートフォンの使用時間【問 43】

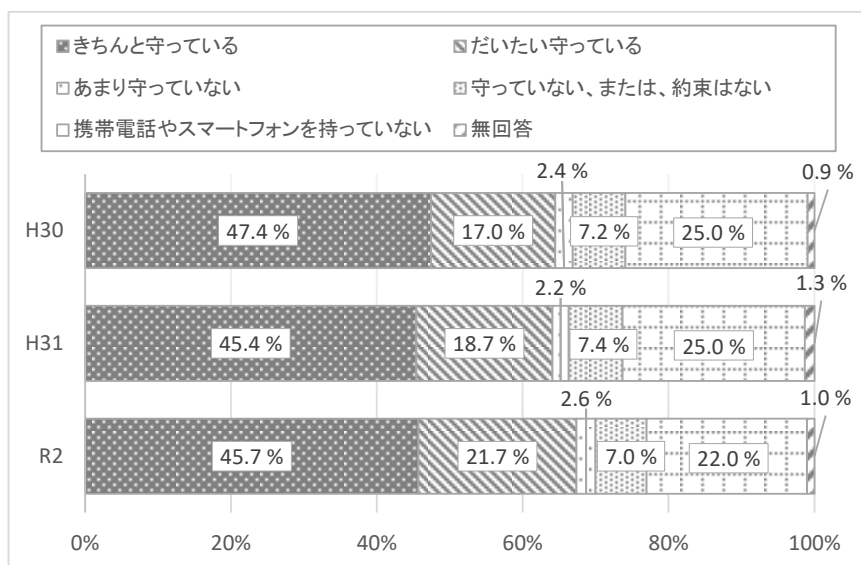


○使用時間が「1時間以上」の回答の合計は、25.7%である。

○「30分以上」の回答の合計は37.9%である。

II 調査結果の概要

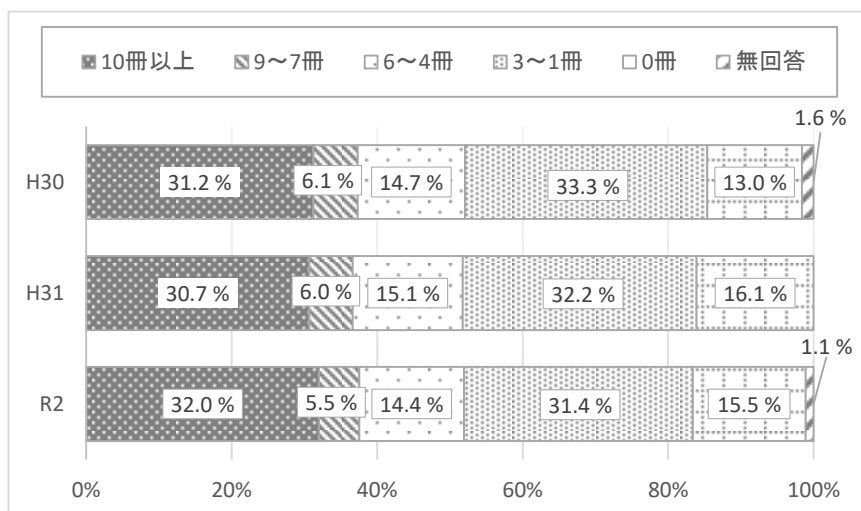
(7)携帯電話の使い方【問 44】



○携帯電話やスマートフォンを持っていない児童の割合は、22.0%である。

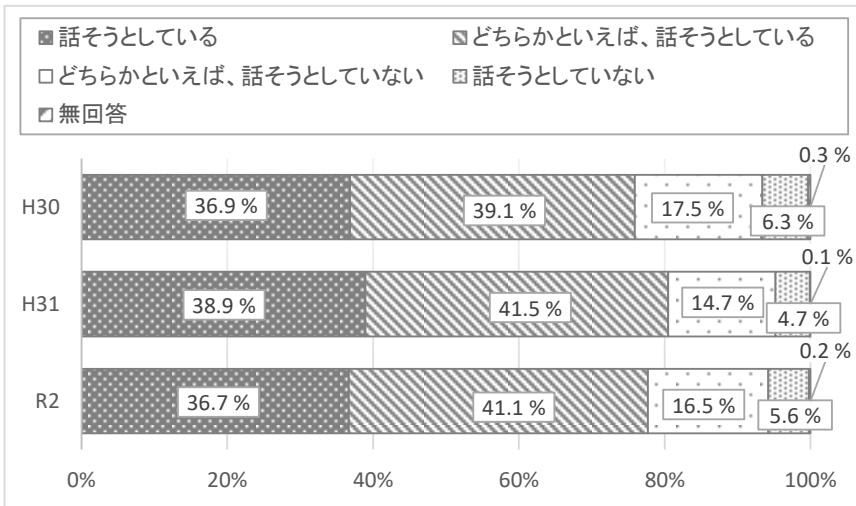
○「きちんと守っている」、「だいたい守っている」と回答した児童の割合は、67.4%で、31年度より3.3ポイント増加している。

(8)1ヶ月の読書量【問 45】



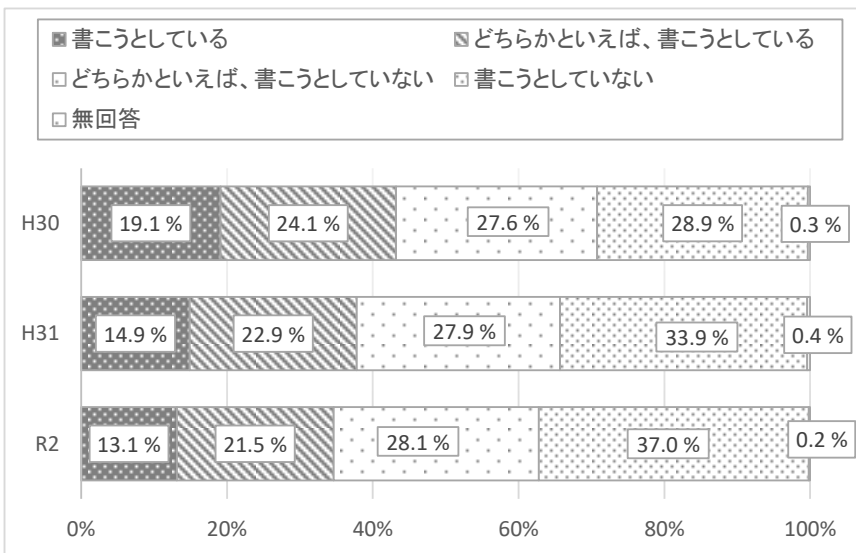
○「10冊」が32.0%で最も多く、「3~1冊」が31.4%、「6~4冊」が14.4%である。1冊も読まない児童の割合は15.5%である。

(9) 思いや考えを積極的に話そうとする【問 46】



○「話そうとしている」、「どちらかといえば、話そうとしている」と回答した児童の割合は、77.8%である。

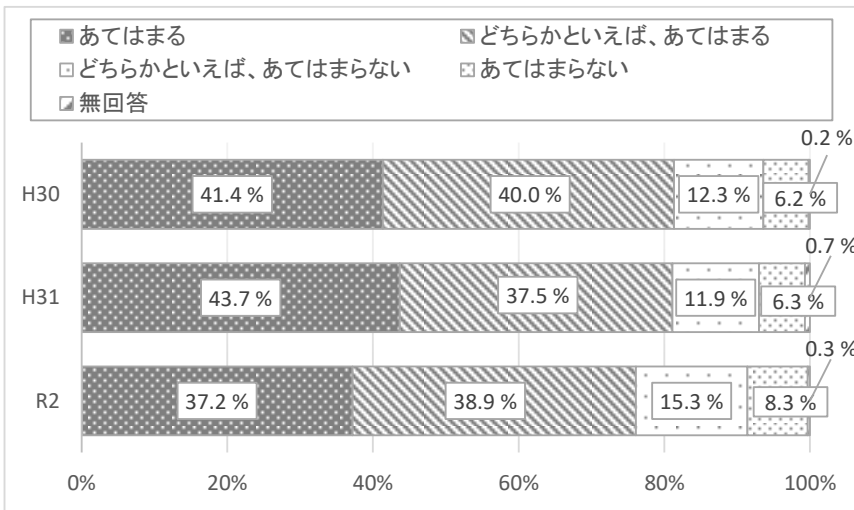
(10) 思いや考えを文章に書こうとする【問 47】



○「書こうとしている」、「どちらかといえば、書こうとしている」と回答した児童の割合は、34.6%である。

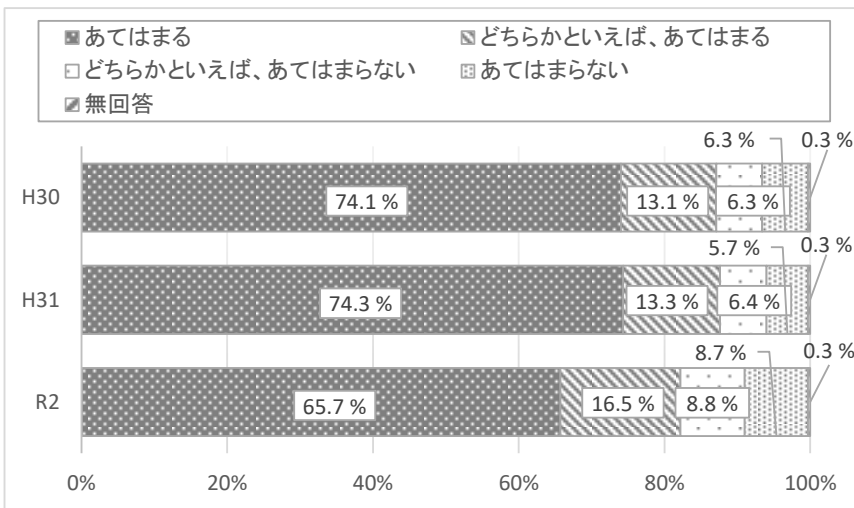
6 自己肯定感・将来に関する意識等

(1) 自分にはよいところがあると思う【問 48】



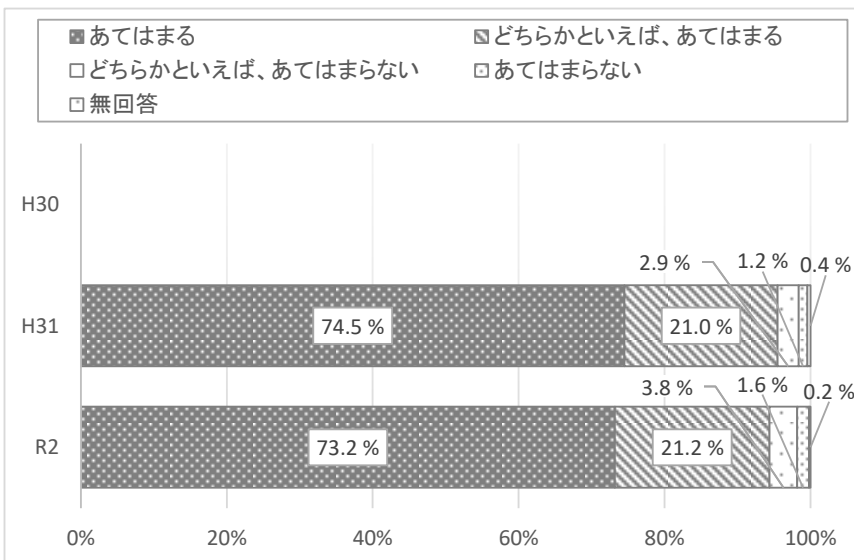
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、76.1%である。

(2) 将来の夢や目標を持っている【問 49】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は、82.2%である。

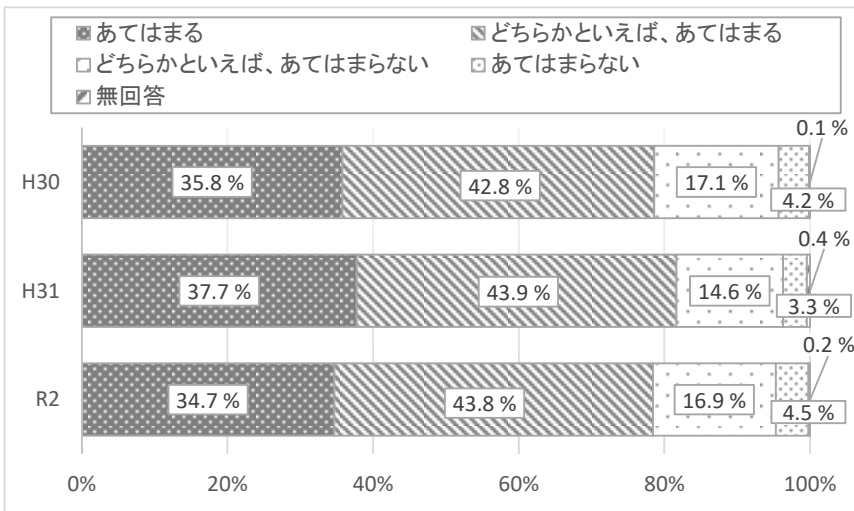
(3) 人の役に立つ人間になりたいと思う【問 50】



○31年度より新たに加えた質問である。

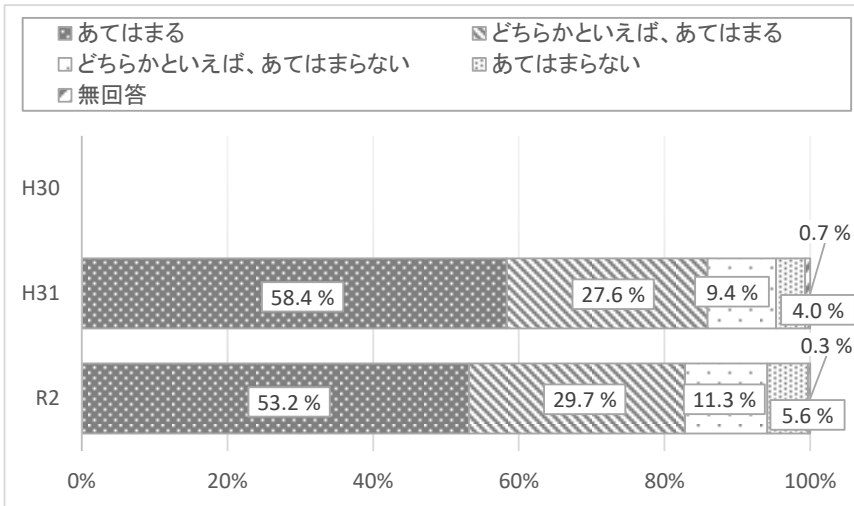
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は94.4%である。

(4) 失敗を恐れなくて挑戦している【問 51】



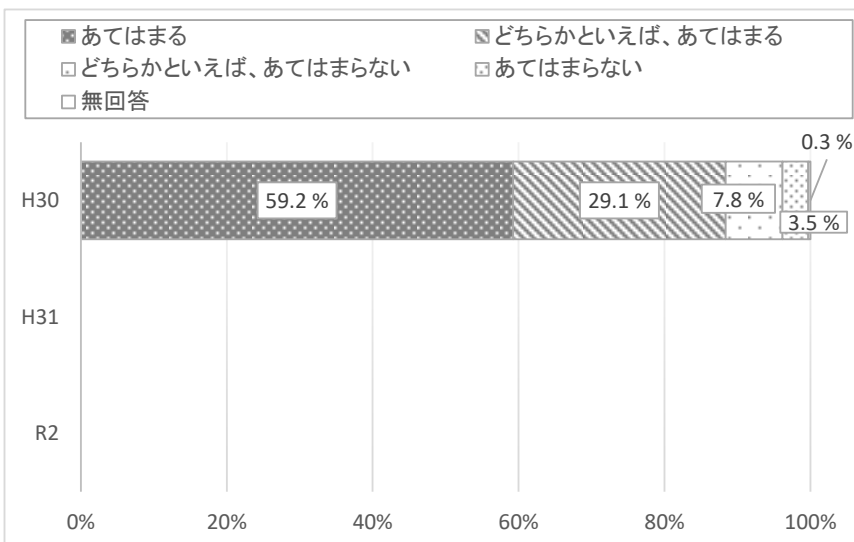
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は78.5%である。

(5) 協力して何かをやりとげ、うれしかったことがある【問 52】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は82.9%である。

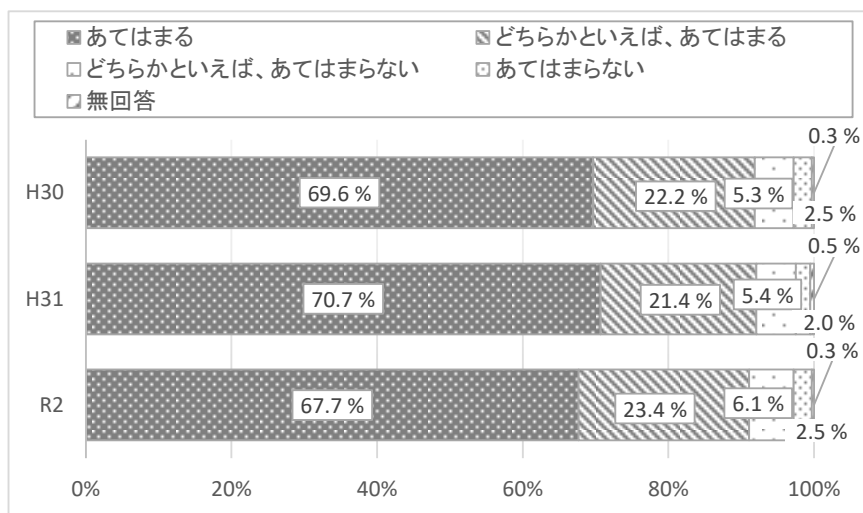
※友達と協力しながら活動したり勉強したりすることは好き ※H30年度



○30年度までは「友達と協力しながら、活動したり勉強したりすることは好きですか」という質問であった。「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童は、30年度は88.3%だった。

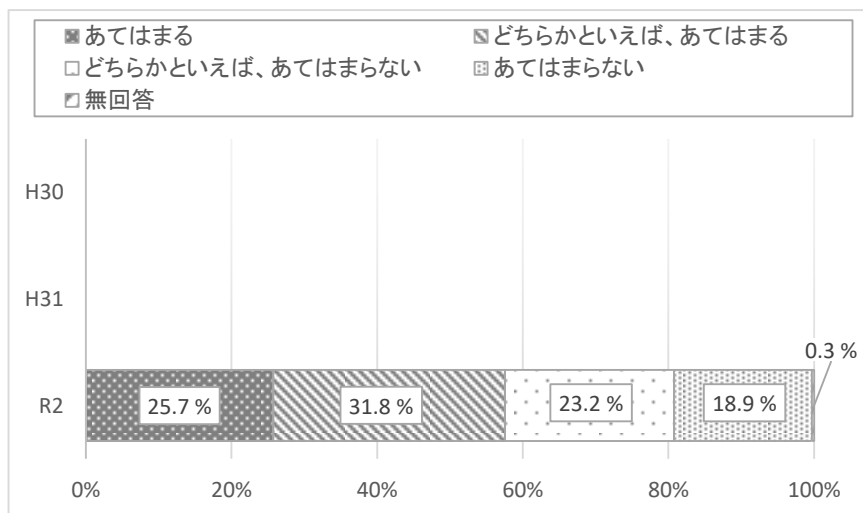
II 調査結果の概要

(6) 自分の町が好き【問 53】



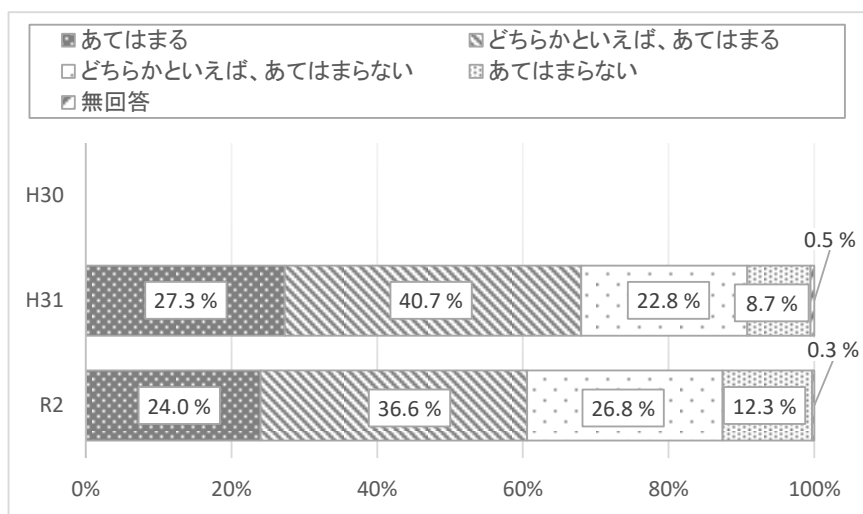
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は91.1%である。

(7) 今、住んでいる地域の行事に参加していますか。【問 54】



○令和2年度より新たに加えた質問である。

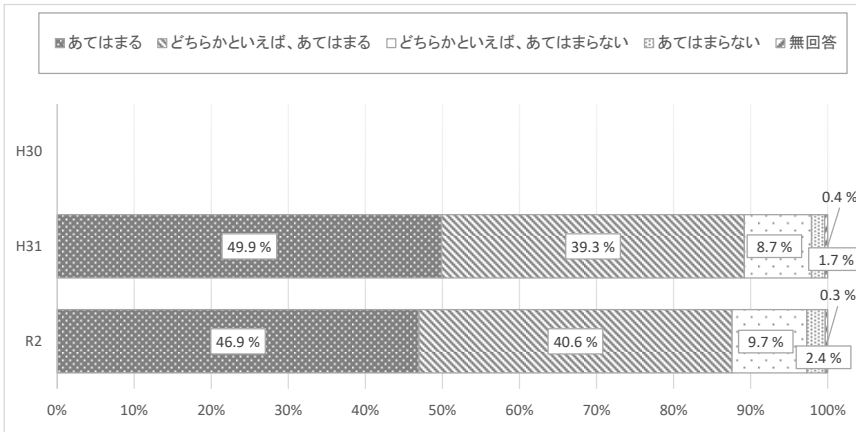
(8) 地域への貢献【問 55】



○31年度より新たに加えた質問である。

○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は60.6%である。

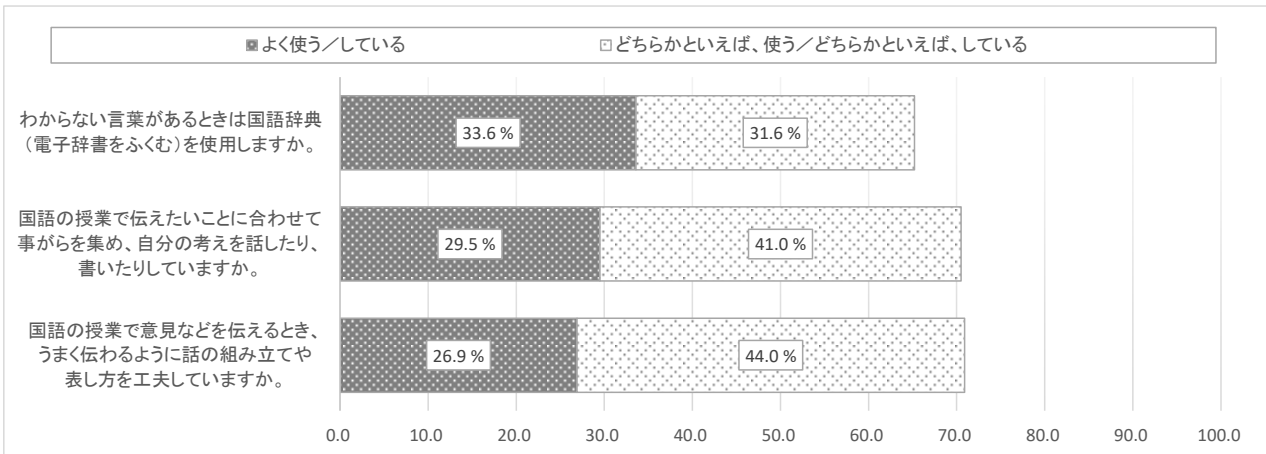
(9) 困っている人がいたら助ける【問 56】



○31 年度より新たに加えた質問である。
 ○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童の割合は 87.5%である。

7 各教科等に対する意識・実態

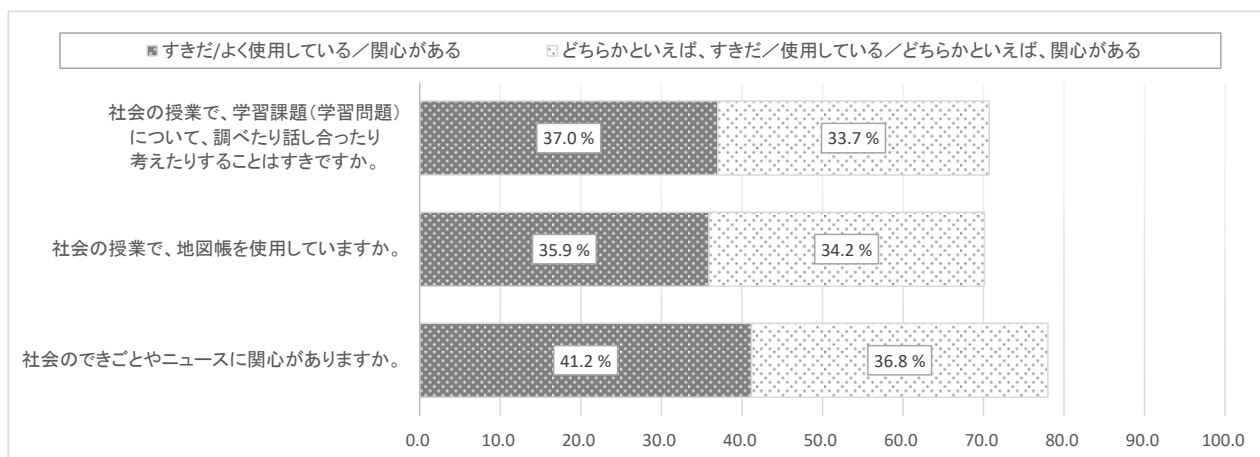
(1) 国語【問 57～59】



○国語辞典を使う児童は「どちらかといえば」を含めると 65.2%である。
 ○伝えたいことに合わせて事がらを集め、考えを話したり書いたりする児童は、「どちらかといえば」を含めると 70.5%である。
 ○意見などを伝えるとき、うまく伝わるように話の組み立てや表し方を工夫している児童は、「どちらかといえば」を含めると、70.9%である。

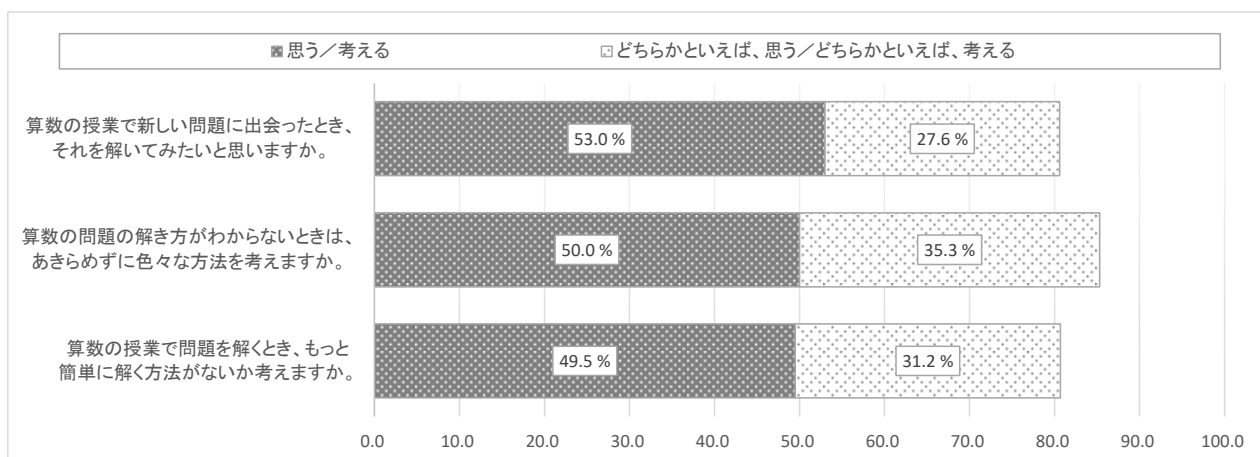
II 調査結果の概要

(2) 社会【問 60～62】



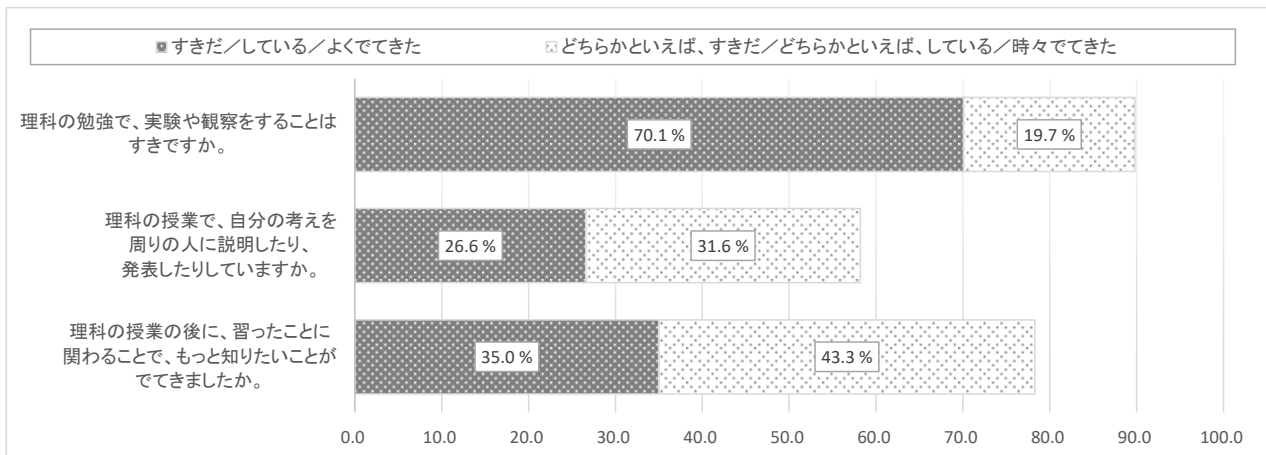
- 学習課題（学習問題）について、調べたり話し合ったり考えたりすることが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると 70.7%である。
- 授業で地図帳を使用している児童は、「どちらかといえば」を含めると 70.1%である。
- 社会の出来事やニュースに関心がある児童は、「どちらかといえば」を含めると、78.0%である。

(3) 算数【問 63～65】



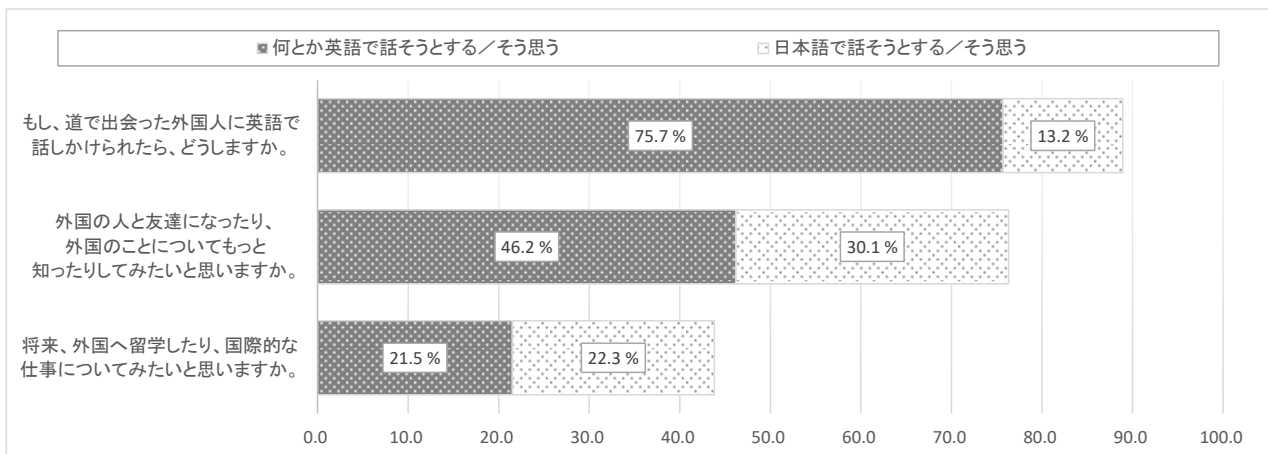
- 新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと考える児童は、「どちらかといえば」を含めると 80.6%である。
- 解き方がわからないとき、あきらめずに解いてみたいと考える児童は、「どちらかといえば」を含めると 85.3%である。
- もっと簡単に解く方法がないかを考える児童は、「どちらかといえば」を含めると、80.7%である。

(4) 理科【問 66～68】



- 実験や観察をすることが好きな児童は、「どちらかといえば」を含めると 89.8%である。
- 授業で自分の考えを周りの人に説明したり、発表したりしている児童は、「どちらかといえば」を含めると 58.2%である。
- 授業の後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができた児童は、「どちらかといえば」を含めると、78.3%である。

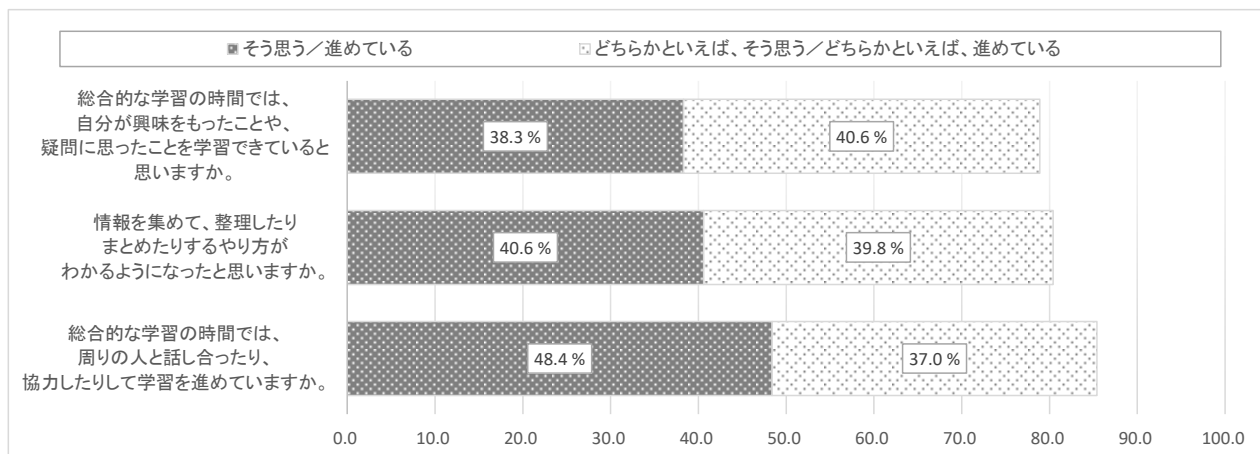
(5) 外国語活動、外国語【問 69～71】



- 外国人に話しかけられたら、「何とか英語で話そうとする」児童は 75.7%、「日本語で話そうとする」児童は 13.2%で、外国人と話そうとする児童は合わせて 88.9%である。
- 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいという児童は、「どちらかといえば」を含めると 76.3%である。
- 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事についてみたいと思う児童は、「どちらかといえば」を含めると、43.8%である。

II 調査結果の概要

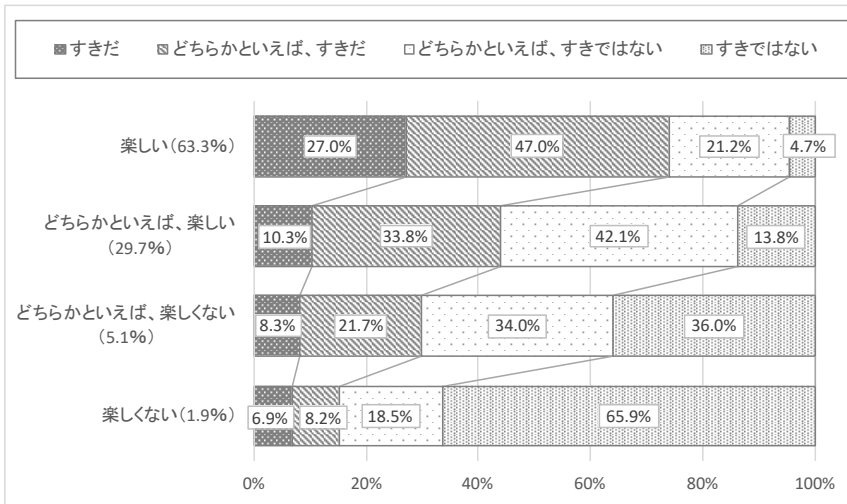
(6) 総合的な学習の時間【問 72～74】



- 自分の興味や疑問を持ったことを自分のやり方で学習できていると思う児童は、「どちらかといえば」を含めると 78.9%である。
- 情報の集め方や調べ方がわかるようになったと思う児童は、「どちらかといえば」を含めると 80.4%である。
- 周りの人と話し合ったり、協力して学習を進めている児童は、「どちらかといえば」を含めると、85.4%である。

クロス集計

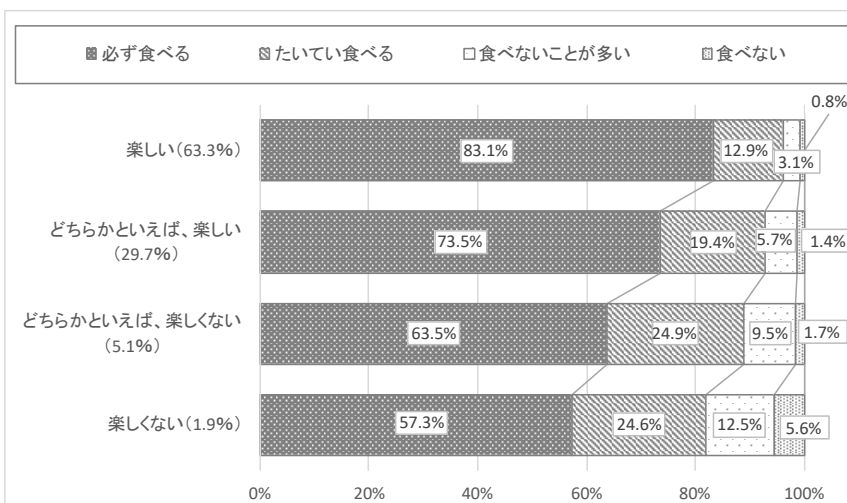
1 学校生活の楽しさ【問1】×学習に対する好感度【問2】



○学校生活が楽しい児童ほど、学習に対する好感度が高い傾向がある。

○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の84.4%、「どちらかといえば、楽しくない」と回答した児童の70.0%が勉強は「すきではない」、「どちらかといえば、すきではない」と答えている。

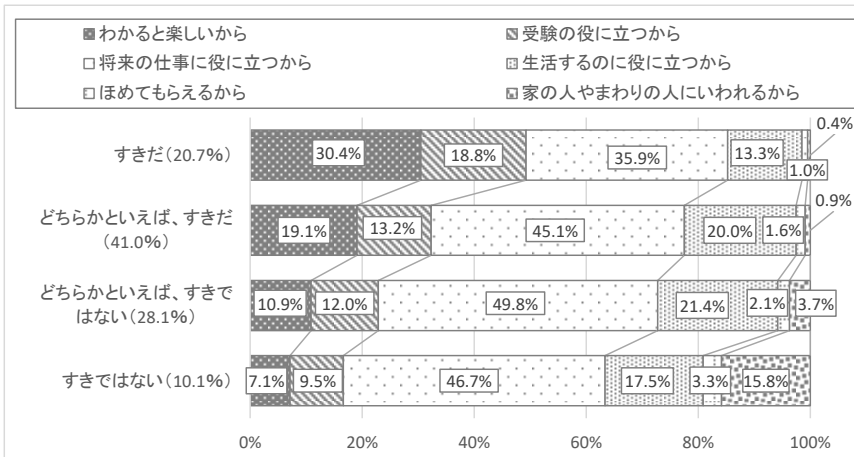
2 学校生活の楽しさ【問1】×朝食の摂取【問39】



○学校生活が楽しい児童は、朝食の摂取状況が良好な状況にある。

○学校生活は「楽しくない」と回答した児童の朝食を必ず食べる割合は、「楽しい」と答えた児童の朝食を必ず食べる割合とでは25.8ポイントの差がある。

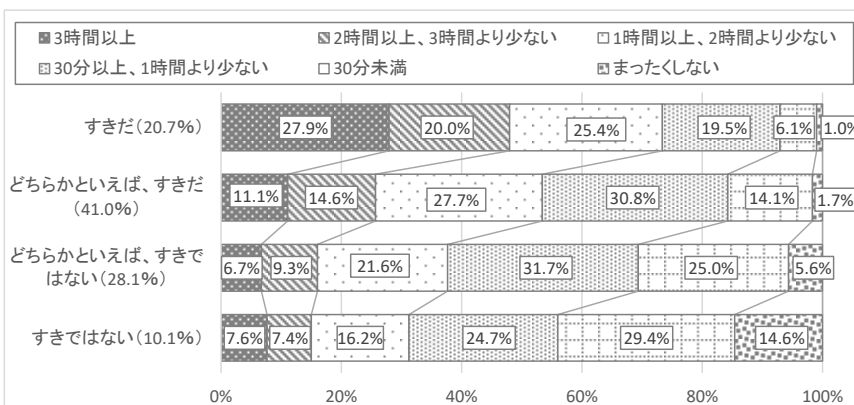
3 学習に対する好感度【問2】×勉強する理由【問4】



○好感度が高い児童ほど「わかると楽しいから」と回答する割合が多い。「好きだ」と回答した児童と「好きではない」と回答した児童とでは23.3ポイントの差がある。

○「好きではない」と回答した児童の15.8%が勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んでおり、他に比べて多い。

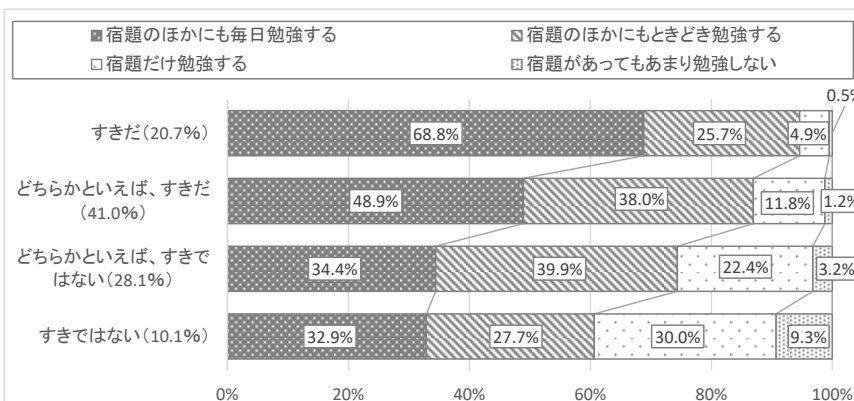
4 学習に対する好感度【問2】×家庭学習時間（平日）【問34】



○好感度が高い児童ほど平日の家庭学習時間が長い傾向にある。

○勉強が「好きではない」と回答した児童で30分以上の家庭学習を行っているのは55.9%である。

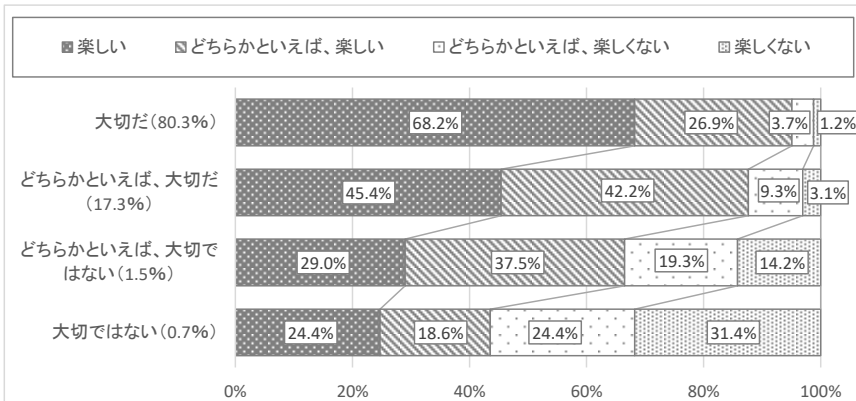
5 学習に対する好感度【問2】×家庭学習の内容【問36】



○勉強が「好きだ」と回答した児童の68.8%は「宿題のほかに毎日勉強する」と回答している。

○「好きではない」と回答した児童の60.6%が宿題のほかに勉強をしている。

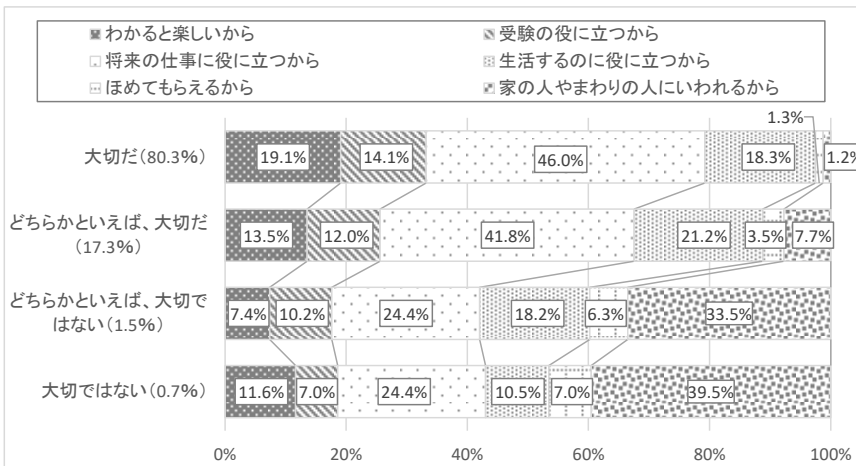
6 学習の必要性【問3】 × 学校生活の楽しさ【問1】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、学校生活を楽しいと感じている傾向がある。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうち、55.8%は学校生活が「楽しくない」、「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

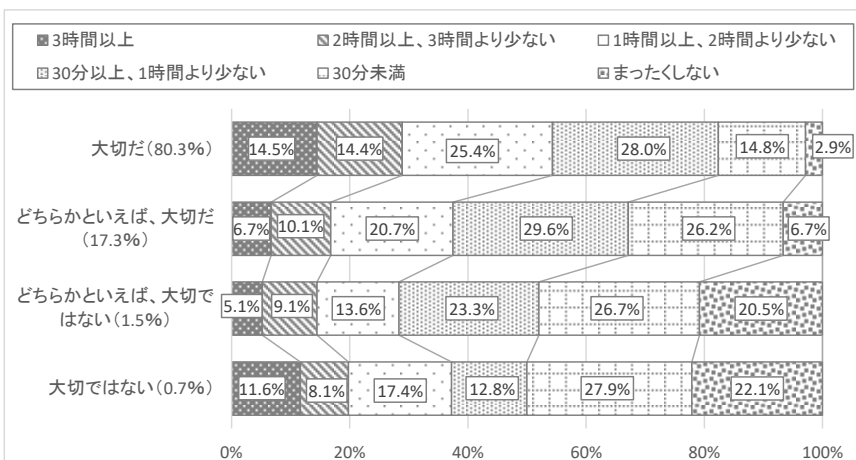
7 学習の必要性【問3】 × 勉強する理由【問4】



○学習が「大切だ」と考えている児童のうち、「家の人やまわりの人にいわれるから」「ほめてもらえるから」を選んでいるのはわずか2.5%である。

○学習が「大切だ」と感じるにつれ、「将来の仕事に役に立つから」が占める割合が増加している。

8 学習の必要性【問3】 × 家庭学習時間(平日)【問34】

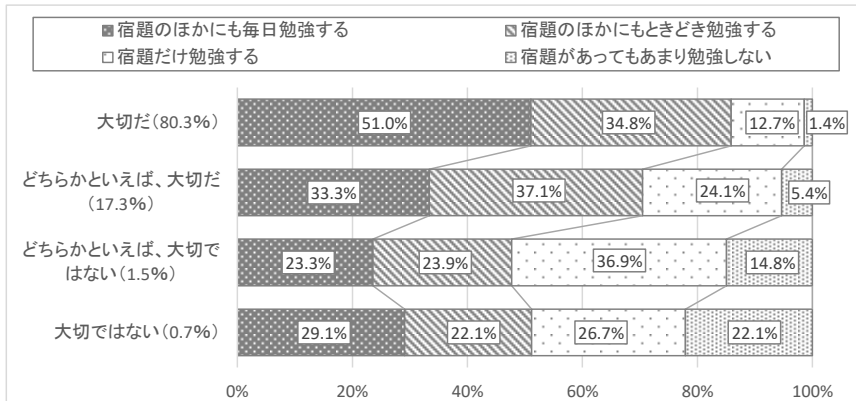


○学習が「大切だ」、「どちらかといえば、大切だ」と回答した児童の家庭学習時間で一番多いのは、「30分以上、1時間より少ない」である。

○「どちらかといえば、大切ではない」「大切ではない」と回答した約2割の児童が平日は「まったく勉強しない」と回答している。

II 調査結果の概要

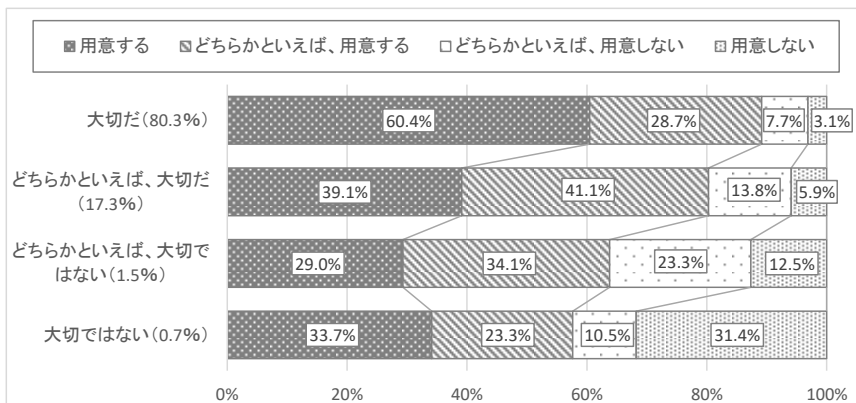
9 学習の必要性【問3】×家庭学習の内容【問36】



○勉強が「大切だ」と回答した児童のうち、85.8%が、宿題のほかに毎日またはときどき勉強すると回答している。

○勉強が「大切ではない」と回答した児童のうちの22.1%は「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

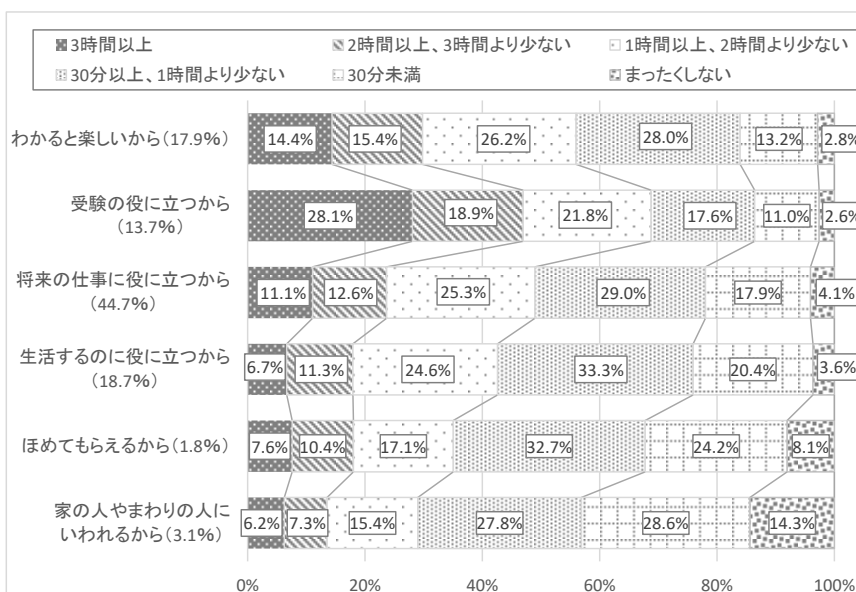
10 学習の必要性【問3】×学習の準備【問40】



○学習に対する必要性を感じている児童ほど、前日に学校の持ち物を準備する傾向が見られる。

○勉強が「大切だ」と回答した児童のうちの89.1%が、前日に学校の持ち物を「用意する」、「どちらかといえば、用意する」と回答している。

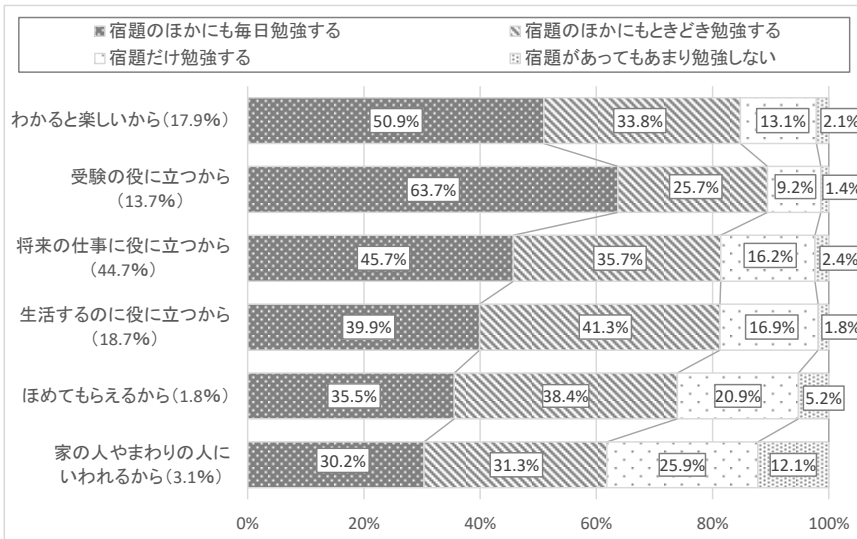
11 勉強する理由【問4】×家庭学習時間(平日)【問34】



○勉強する理由として「受験の役に立つから」を選んだ児童は勉強時間が長い傾向がある。

○勉強する理由として「家の人やまわりの人にいわれるから」を選んだ児童の42.9%が、勉強を「30分未満」「まったくしない」と回答している。

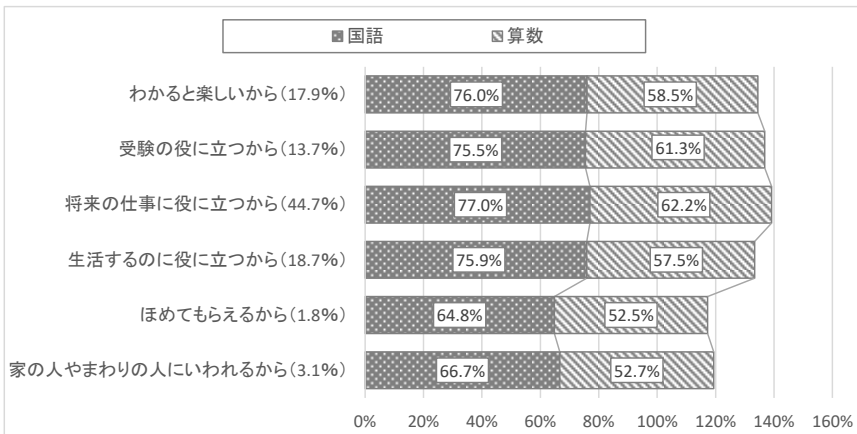
12 勉強する理由【問4】×家庭学習の内容【問36】



○「将来の仕事に役に立つから」、「生活するのに役に立つから」と回答した児童のうち、「宿題のほかに毎日勉強する」、「宿題のほかにもときどき勉強する」と回答した児童はそれぞれ 81.4%、81.2%である。

○「家の人やまわりの人に いわれるから」と回答した児童では、12.1%が「宿題があってもあまり勉強しない」と回答している。

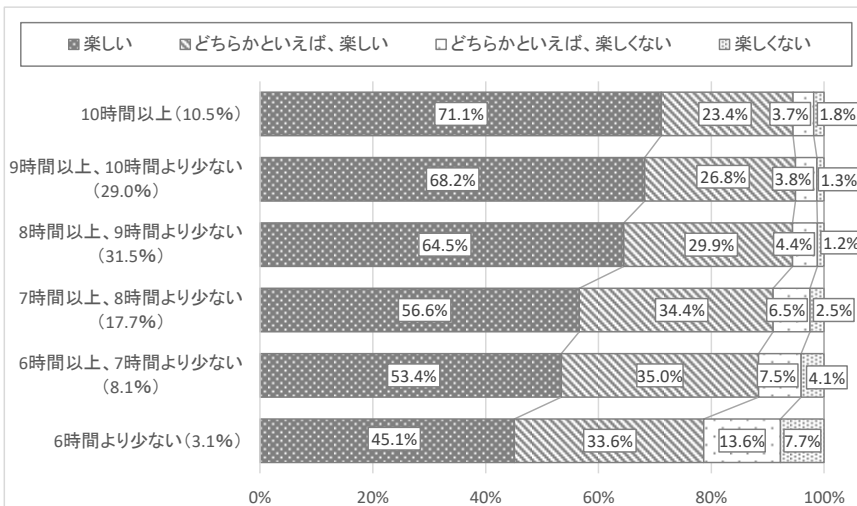
13 勉強する理由【問4】×国語・算数の正答率



○「わかると楽しいから」「～の役に立つから」と回答した児童の正答率は国語 75%を超え、算数は60%程度である。

○「ほめてもらえるから」「家の人やまわりの人に いわれるから」と回答した児童の国語と算数の正答率の合計はほぼ同値であり、他の理由に比べて15ポイント程度低くなっている。

14 睡眠時間【問38】×学校生活の楽しさ【問1】

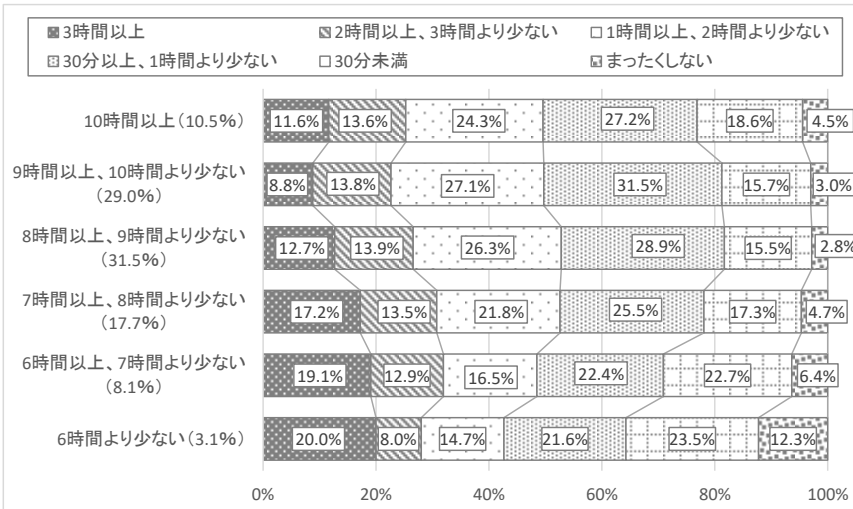


○睡眠時間が長い児童ほど、学校生活が「楽しい」と回答している。

○睡眠時間が「6時間より少ない」と回答した児童の21.3%が、学校生活は「楽しくない」「どちらかといえば、楽しくない」と回答している。

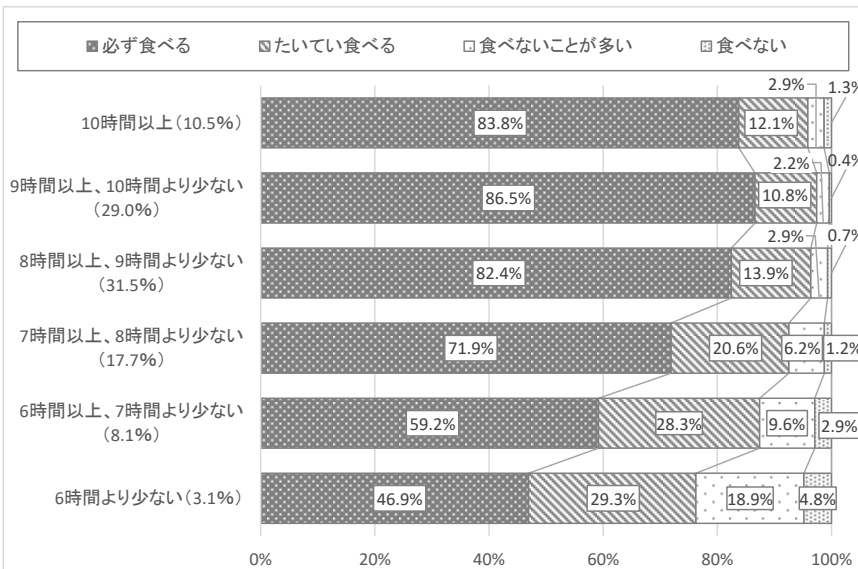
II 調査結果の概要

15 睡眠時間【問38】×家庭学習時間（平日）【問34】



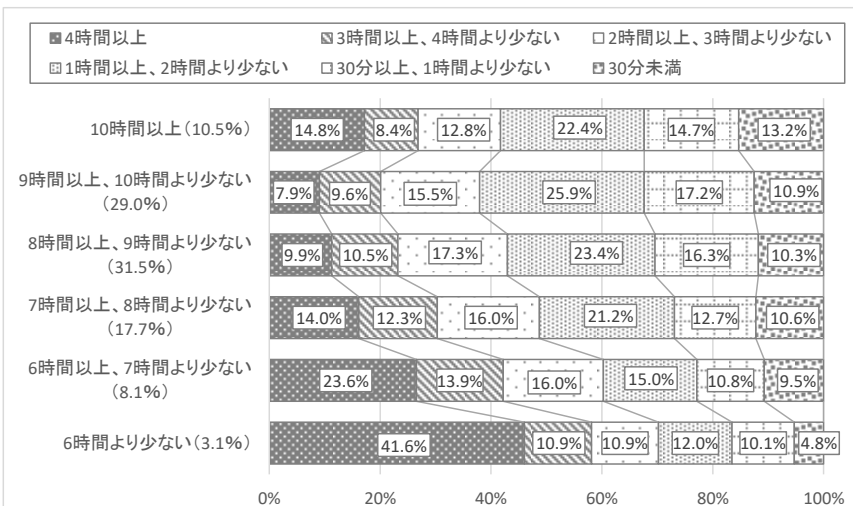
○睡眠時間が「7 時間より少ない」と回答した児童の約 2 割が家庭での学習を「3 時間以上」していると回答している。
○一方、睡眠時間が「6 時間より少ない」と回答した児童の 35.8%が家庭での学習を「30 分未満」「まったくしない」と回答している。

16 睡眠時間【問38】×朝食の摂取【問39】



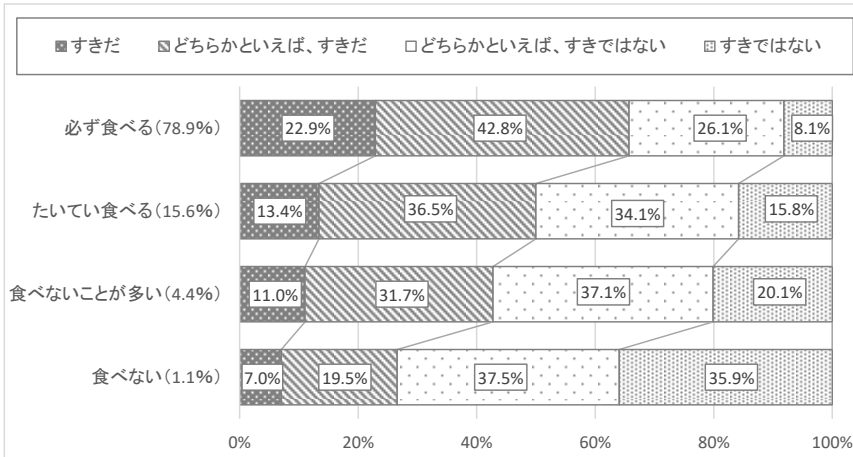
○睡眠時間が 8 時間以上で、朝食を「必ず食べる」と回答した児童の割合は 80%を超えており、朝食の摂取の状況が良好な傾向にある。
○睡眠時間が「6 時間より少ない」と回答した児童のうち、朝食を「必ず食べる」と回答した児童は 46.9%である。

17 睡眠時間【問38】×テレビゲームの実施時間【問41】



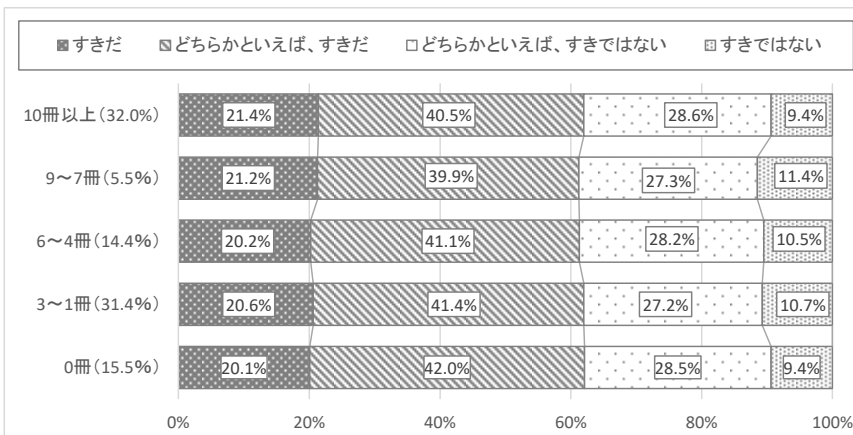
○睡眠時間が短いほど、テレビゲームの実施時間が「4 時間以上」「3 時間以上、4 時間より少ない」と回答した児童の割合が増え、「30 分以上、1 時間より少ない」「30 分未満」と回答した児童の割合は減る傾向にある。

18 朝食の摂取【問39】×学習に対する好感度【問2】



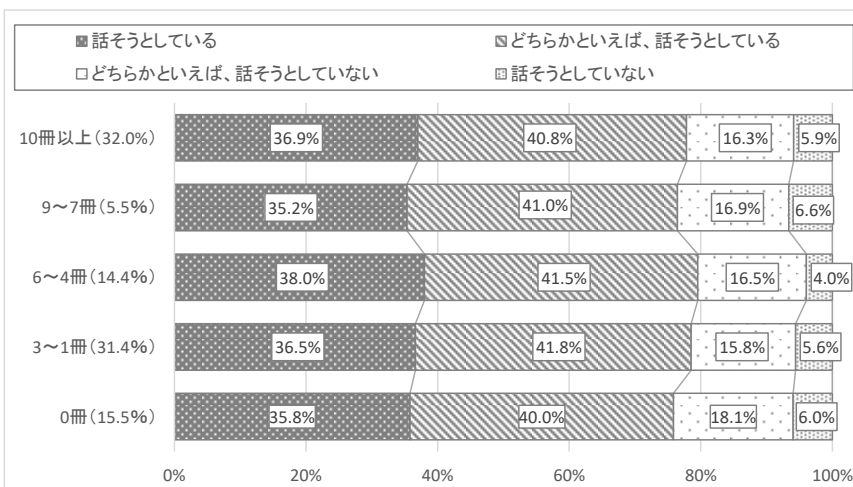
○朝食を「必ず食べる」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は65.7%であるのに対して、「食べない」と回答した児童のうち、勉強が「すきだ」、「どちらかといえば、すきだ」と回答した児童の割合は26.5%である。

19 1ヶ月の読書量【問45】×学習に対する好感度【問2】



○1ヶ月の読書量がいずれの場合も勉強が「すきだ」と回答している児童は約2割である。
○1ヶ月の読書量がいずれの場合も勉強が「すきではない」、「どちらかといえば、すきではない」と回答した児童は、38%程度である。

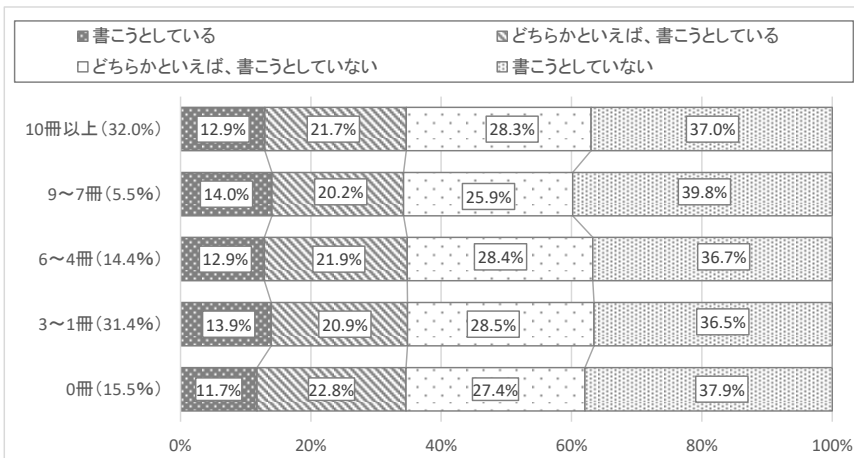
20 1ヶ月の読書量【問45】×思いや考えを積極的に話そうとする【問46】



○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、24.1%が、自分の思いや考えを「話そうとしていない」、「どちらかといえば、話そうとしていない」と回答している。

II 調査結果の概要

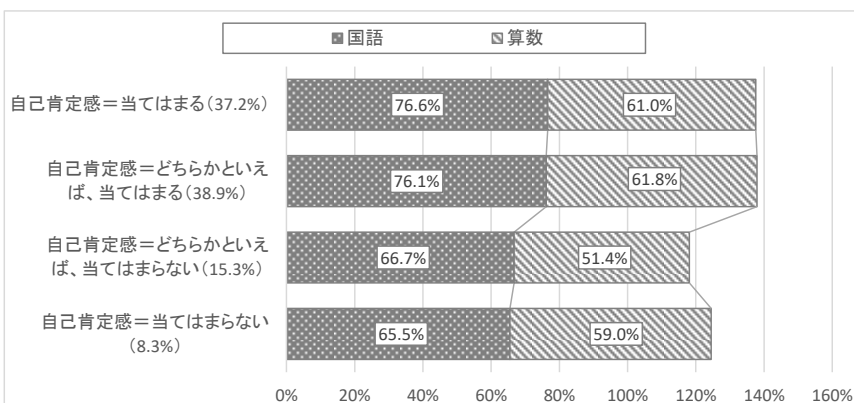
2.1 1ヶ月の読書量【問45】×思いや考えを文章に書こうとする【問43】



○1ヶ月の読書量がいずれの場合も約34%の児童が、自分の思いや考えを文章に「書こうとしている」、「どちらかといえば、書こうとしている」と回答している。

○1ヶ月に1冊も本を読まない児童のうち、65.3%が自分の思いや考えを「書こうとしていない」、「どちらかといえば、書こうとしていない」と回答している。

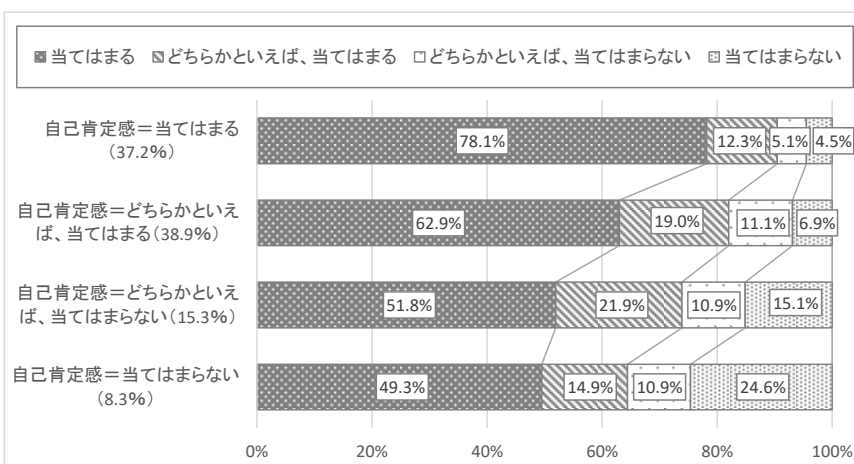
2.2 自己肯定感【問48】×国語・算数の正答率



○「自分にはよいところがあると思う（当てはまる）」と回答している児童ほど国語・算数の正答率が高い。

○「当てはまらない」と回答した児童の国語の正答率は、65.5%で、「当てはまる」と回答した児童と11ポイントほどの開きがある。

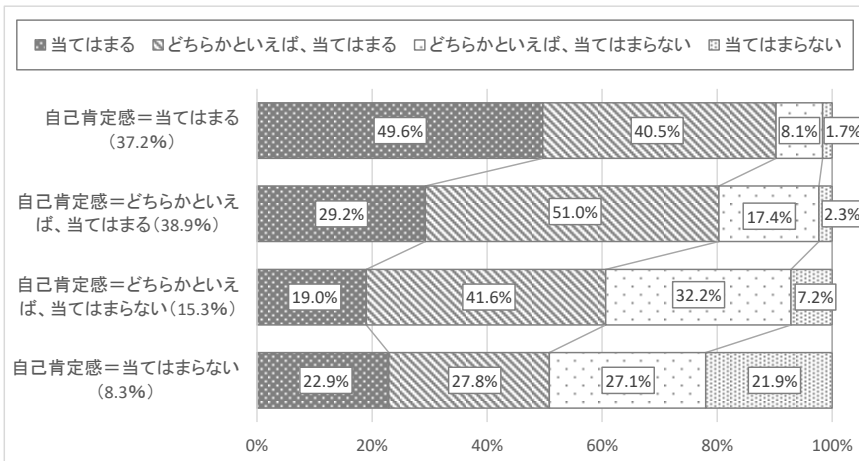
2.3 自己肯定感【問48】×将来の夢や目標【問49】



○自己肯定感が比較的高い児童ほど、将来の夢や目標を持っていると回答している割合が高い。

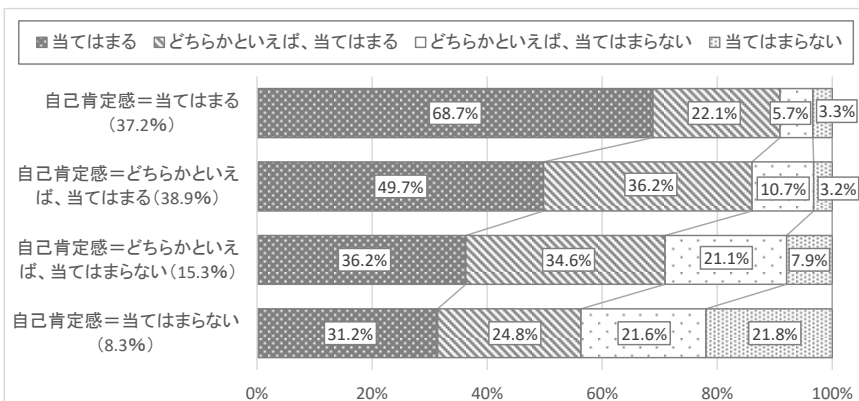
○「自分には、よいところがない（当てはまらない）」と回答した児童のうち、35.5%の児童は、将来の夢や希望を「持っていない」「どちらかといえば、持っていない」と回答している。

24 自己肯定感【問48】×失敗を恐れず挑戦【問51】



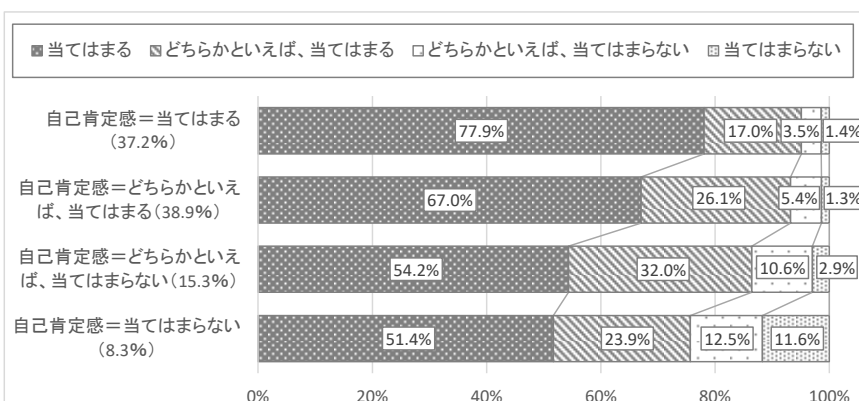
- 「自分にはよいところがあると思う（当てはまる）」と回答した児童のうち、難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますかという問いに「当てはまる、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合は90.1%である。
- 「自分には、よいところがない（当てはまらない）」と回答した児童のうち、難しいことに挑戦する、どちらかといえば挑戦すると回答した児童の割合は50.7%である

25 自己肯定感【問48】×他者との協力・協働【問52】



- 自己肯定感が比較的高い児童ほど、友達と協力しながら、活動したり勉強したりすることが「すきだ」と回答している割合が高い。
- 「当てはまらない」と回答した児童のうち、43.4%が、友達と協力することが「すきではない」「どちらかといえば、すきではない」と回答している

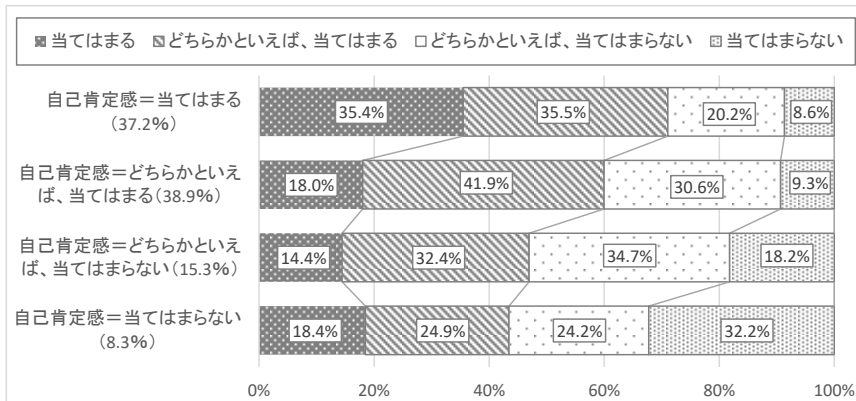
26 自己肯定感【問48】×郷土への愛着【問53】



- 自己肯定感が比較的高い児童ほど、自分の住んでいる町がすきであると回答している割合が高い。
- 「自分には、よいところがない（当てはまらない）」と回答した児童のうち、「自分の住んでいる町がすきではない」児童の割合は11.6%である。

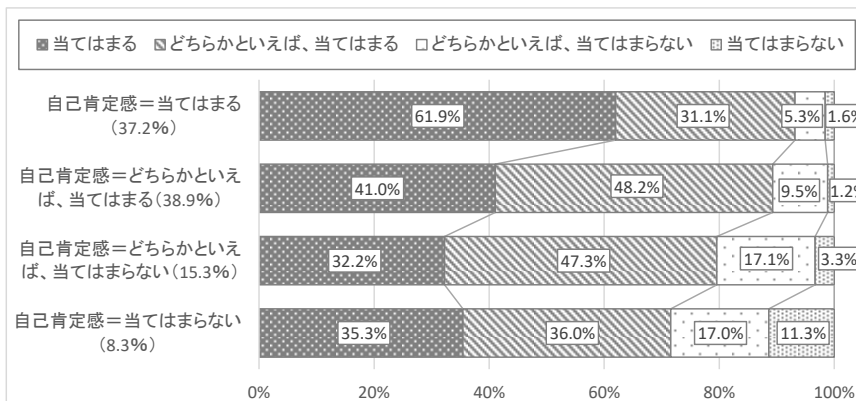
II 調査結果の概要

27 自己肯定感【問48】×地域への貢献【問55】



- 自己肯定感が比較的高い児童ほど、地域や社会に対して貢献しようとしている割合が高い。
- 「自分には、よいところがあると思わない（当てはまらない）」と回答した児童のうち、「地域をよりよくしようとは思わない」児童の割合は32.2%である。

28 自己肯定感【問48】×周囲の人への援助【問56】



- 自己肯定感が比較的高い児童ほど、人が困っているときに助けようとしている割合が高い。
- 「自分には、よいところがあると思わない（当てはまらない）」と回答した児童のうち、「進んで助けよう」とは思わない児童の割合は11.3%である。

資料 調査結果集計表

【共通】

問1 学校生活は、楽しいですか。

	楽しい	どちらかといえば、 楽しい	どちらかといえば、 楽しくない	楽しくない	無回答
H30	65.1%	28.1%	4.9%	1.9%	0.0%
H31	65.7%	28.7%	3.9%	1.6%	0.1%
R2	63.3%	29.7%	5.1%	1.9%	0.0%

問2 勉強は、好きですか。

	好きだ	どちらかといえば、 好きだ	どちらかといえば、 好きではない	好きではない	無回答
H30	24.9%	42.2%	24.7%	8.1%	0.1%
H31	25.4%	43.1%	23.5%	7.9%	0.1%
R2	20.7%	41.0%	28.1%	10.1%	0.1%

問3 勉強をすることは、大切なことだと思いますか。

	大切だ	どちらかといえば、 大切だ	どちらかといえば、 大切ではない	大切ではない	無回答
H30	82.2%	15.7%	1.3%	0.6%	0.2%
H31	83.9%	14.1%	1.2%	0.5%	0.3%
R2	80.3%	17.3%	1.5%	0.7%	0.2%

問4 勉強をする一番の理由は何ですか。

	わかると楽しいから	受験の役に立つから	将来の仕事に役に立つから	生活するのに役に立つから	ほめてもらえるから	家の人やまわりの人にいわれるから	無回答
H30	18.6%	12.2%	45.1%	19.7%	1.4%	2.6%	0.4%
H31	19.0%	13.2%	43.8%	19.8%	1.3%	2.6%	0.4%
R2	17.9%	13.7%	44.7%	18.7%	1.8%	3.1%	0.1%

II 調査結果の概要

問 5～10 次の学習は好きですか。

		すきだ	どちらかといえ ば、すきだ	どちらかといえ ば、すきではない	すきではない	無回答
国語	H30	32.6%	38.6%	20.0%	8.5%	0.3%
	H31	32.7%	40.0%	19.4%	7.6%	0.3%
	R2	27.4%	39.0%	23.7%	9.7%	0.2%
社会	H30	34.3%	33.9%	21.7%	9.8%	0.3%
	H31	36.2%	35.3%	19.7%	8.5%	0.4%
	R2	33.8%	33.3%	22.4%	10.4%	0.1%
算数	H30	43.6%	27.9%	17.3%	11.0%	0.3%
	H31	44.2%	28.0%	16.7%	10.7%	0.4%
	R2	39.9%	28.6%	18.6%	12.7%	0.1%
理科	H30	55.9%	30.3%	9.6%	3.8%	0.3%
	H31	58.1%	29.5%	8.6%	3.4%	0.3%
	R2	53.7%	31.1%	10.5%	4.4%	0.2%
英語	H30
	H31
	R2	40.7%	31.8%	16.9%	10.4%	0.2%
総合	H30	50.3%	33.4%	11.5%	4.5%	0.3%
	H31	49.6%	35.1%	10.8%	4.2%	0.2%
	R2	49.2%	33.7%	12.3%	4.7%	0.2%

問 11～15 次の授業は、よくわかりますか。

		わかる	どちらかといえ ば、わかる	どちらかといえ ば、わからない	わからない	無回答
国語	H30	60.0%	32.6%	5.5%	1.7%	0.2%
	H31	62.5%	31.6%	4.6%	1.3%	0.3%
	R2	56.9%	34.9%	6.2%	1.8%	0.2%
社会	H30	53.3%	33.3%	10.5%	2.6%	0.3%
	H31	58.2%	31.6%	8.0%	1.9%	0.3%
	R2	56.3%	31.8%	9.2%	2.6%	0.1%
算数	H30	57.3%	28.2%	10.3%	3.8%	0.3%
	H31	59.8%	27.5%	9.3%	3.1%	0.4%
	R2	58.2%	28.5%	9.6%	3.5%	0.1%
理科	H30	68.1%	25.3%	5.1%	1.4%	0.2%
	H31	70.4%	24.5%	3.8%	1.0%	0.3%
	R2	68.7%	25.1%	4.7%	1.3%	0.2%
英語	H30
	H31
	R2	51.3%	29.0%	13.2%	6.4%	0.1%

問 16～21 授業で学んだことが、生活の中で役に立っていると思いますか。

		役に立つ	どちらかといえ ば、役に立つ	どちらかといえ ば、役に立たない	役に立たない	無回答
国語	H30	58.5%	31.6%	7.4%	2.0%	0.4%
	H31	56.8%	33.8%	7.2%	1.9%	0.3%
	R2	56.3%	34.1%	7.3%	2.1%	0.2%
社会	H30	61.2%	28.2%	7.9%	2.4%	0.3%
	H31	62.5%	28.1%	7.2%	1.9%	0.3%
	R2	58.8%	29.5%	9.0%	2.6%	0.2%
算数	H30	77.0%	17.3%	3.8%	1.3%	0.6%
	H31	76.5%	18.4%	3.5%	1.3%	0.3%
	R2	73.0%	20.7%	4.4%	1.6%	0.2%
理科	H30	52.6%	33.0%	10.9%	3.0%	0.5%
	H31	54.8%	32.6%	10.0%	2.2%	0.3%
	R2	51.5%	34.1%	11.0%	3.3%	0.1%
英語	H30	…	…	…	…	…
	H31	…	…	…	…	…
	R2	51.5%	27.0%	14.8%	6.5%	0.2%
総合	H30	53.3%	31.7%	10.7%	3.9%	0.5%
	H31	54.4%	31.8%	10.1%	3.2%	0.5%
	R2	50.4%	32.6%	12.5%	4.3%	0.3%

問 22～27 授業で学んだことは、将来、社会に出たときに、役に立つと思いますか。

		役に立つ	どちらかといえ ば、役に立つ	どちらかといえ ば、役に立たない	役に立たない	無回答
国語	H30	74.1%	20.0%	3.9%	1.6%	0.4%
	H31	73.3%	20.9%	4.0%	1.3%	0.4%
	R2	73.2%	20.7%	4.3%	1.5%	0.2%
社会	H30	75.8%	18.4%	4.1%	1.3%	0.4%
	H31	76.3%	18.5%	3.8%	1.1%	0.3%
	R2	73.7%	20.2%	4.3%	1.6%	0.1%
算数	H30	82.1%	13.9%	2.5%	1.1%	0.3%
	H31	82.1%	13.8%	2.5%	1.1%	0.4%
	R2	80.0%	15.7%	3.0%	1.2%	0.1%
理科	H30	54.4%	31.5%	10.6%	3.0%	0.4%
	H31	56.5%	31.0%	9.4%	2.7%	0.4%
	R2	49.4%	34.4%	12.7%	3.3%	0.1%
英語	H30	…	…	…	…	…
	H31	…	…	…	…	…
	R2	77.0%	16.7%	4.1%	2.1%	0.1%
総合	H30	62.4%	26.1%	8.2%	2.8%	0.5%
	H31	62.3%	26.8%	7.8%	2.7%	0.3%
	R2	57.3%	30.0%	9.5%	3.1%	0.1%

II 調査結果の概要

問 28～33 授業の中で、わからないことがあったら、どうすることが多いですか。

	先生にたずねる	友だちにたずねる	家の人にたずねる	じゅくや家庭教師の先生にたずねる	自分で調べる	そのままにしておく
H30	61.0%	74.8%	79.7%	25.3%	56.5%	13.1%
H31	65.3%	76.4%	80.3%	26.6%	56.6%	12.6%
R2	68.1%	78.7%	78.8%	28.0%	63.6%	12.8%

問 34 学校のある日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分未満	まったくしない	無回答
H30	11.1%	13.1%	23.3%	29.7%	18.5%	4.2%	0.2%
H31	11.3%	12.3%	23.9%	30.0%	17.8%	4.6%	0.2%
R2	13.0%	13.4%	24.4%	28.0%	17.1%	3.9%	0.1%

問 35 学校が休みの日、家で1日どのくらい勉強しますか。

	3時間以上	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分未満	まったくしない	無回答
H30	16.1%	12.5%	18.7%	22.5%	19.0%	10.9%	0.3%
H31	16.6%	11.8%	18.9%	22.0%	19.3%	11.1%	0.3%
R2	19.2%	15.2%	20.6%	20.2%	15.8%	8.9%	0.1%

問 36 ふだん、家でしている勉強は、どれに近いですか。

	宿題のほかにも毎日勉強する	宿題のほかにもときどき勉強する	宿題だけ勉強する	宿題があってもあまり勉強しない	無回答
H30	46.5%	36.9%	14.1%	2.3%	0.2%
H31	47.1%	37.2%	13.7%	1.7%	0.2%
R2	47.4%	35.0%	15.1%	2.4%	0.1%

問 37 学習じゅくに、通っていますか。

	通っている	通っていない	無回答
H30	55.7%	44.0%	0.2%
H31	56.6%	43.2%	0.2%
R2	58.2%	41.6%	0.2%

問 38 学校がある日の睡眠時間はどのくらいですか。

	10時間以上	9時間以上、10時間より少ない	8時間以上、9時間より少ない	7時間以上、8時間より少ない	6時間以上、7時間より少ない	6時間少ない	無回答
H30	11.9%	31.7%	31.6%	16.9%	6.3%	2.7%	0.2%
H31	11.2%	31.1%	32.3%	16.0%	6.4%	2.7%	0.2%
R2	10.5%	29.0%	31.5%	17.7%	8.1%	3.1%	0.1%

問 39 毎日、朝食を食べますか。

	必ず食べる	たいてい食べる	食べないことが多い	食べない	無回答
H30	80.1%	14.4%	4.2%	1.1%	0.2%
H31	79.8%	15.1%	3.9%	1.1%	0.2%
R2	78.9%	15.6%	4.4%	1.1%	0.1%

問 40 学校に持っていくものは、前日にきちんと用意しますか。

	用意する	どちらかといえば、 用意する	どちらかといえば、 用意しない	用意しない	無回答
H30	57.4%	30.1%	8.5%	3.8%	0.3%
H31	57.9%	29.8%	8.7%	3.5%	0.1%
R2	56.1%	30.8%	9.0%	3.9%	0.1%

問 41 学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

	4時間以上	3時間以上、4時間 より少ない	2時間以上、3時間 より少ない	1時間以上、2時間 より少ない	30分以上、 1時間より 少ない	30分未満	まったくし ない	無回答
H30	9.3%	7.3%	11.7%	20.0%	17.8%	15.7%	17.9%	0.3%
H31	10.3%	8.3%	12.6%	20.3%	17.7%	14.7%	15.9%	0.3%
R2	12.6%	10.6%	15.8%	22.6%	15.2%	10.6%	12.5%	0.2%

問 42 学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD を見たり聞いたりしますか。

	4時間以上	3時間以上、4時間 より少ない	2時間以上、3時間 より少ない	1時間以上、2時間 より少ない	30分以上、 1時間より 少ない	30分未満	まったくし ない	無回答
H30	12.8%	11.7%	17.7%	23.0%	17.0%	10.8%	6.8%	0.3%
H31	11.8%	11.3%	17.2%	23.7%	17.8%	11.2%	6.8%	0.2%
R2	12.3%	11.7%	18.7%	23.3%	16.2%	10.4%	7.1%	0.2%

問 43 学校がある日、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。

	4時間以上	3時間以上、4時間 より少ない	2時間以上、3時間 より少ない	1時間以上、2時間 より少ない	30分以上、 1時間より 少ない	30分未満	まったくし ない	無回答
H30	3.8%	3.1%	4.6%	6.9%	11.4%	33.2%	36.8%	0.3%
H31	4.0%	3.0%	4.4%	7.6%	11.4%	34.1%	35.3%	0.3%
R2	5.1%	4.2%	6.6%	9.8%	12.2%	29.4%	32.4%	0.3%

問 44 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

	きちんと守っている	だいたい守っている	あまり守っていない	守っていない、ま たは、約束はない	携帯電話やスマ ートフォンを持っ ていない	無回答
H30	47.4%	17.0%	2.4%	7.2%	25.0%	0.9%
H31	45.4%	18.7%	2.2%	7.4%	25.0%	1.3%
R2	45.7%	21.7%	2.6%	7.0%	22.0%	1.0%

問 45 月に何さつぐらい本（マンガ・雑誌をのぞく）を読みますか。

	10冊以上	9～7冊	6～4冊	3～1冊	0冊	無回答	平均冊数
H30	31.2%	6.1%	14.7%	33.3%	13.0%	1.6%	6.3冊
H31	30.7%	6.0%	15.1%	32.2%	16.1%	0.0%	6.0冊
R2	32.0%	5.5%	14.4%	31.4%	15.5%	1.1%	6.4冊

II 調査結果の概要

問 46 日常生活（学校生活をふくめて）の中で、自分の思いや考えを積極的に話そうとしていますか。

	話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしている	どちらかといえば、話そうとしていない	話そうとしていない	無回答
H30	36.9%	39.1%	17.5%	6.3%	0.3%
H31	38.9%	41.5%	14.7%	4.7%	0.1%
R2	36.7%	41.1%	16.5%	5.6%	0.2%

問 47 日常生活（学校生活をふくめて）の中で、日記を書くなど、自分の思いや考えを文章に書くようしていますか。

	書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしている	どちらかといえば、書こうとしていない	書こうとしていない	無回答
H30	19.1%	24.1%	27.6%	28.9%	0.3%
H31	14.9%	22.9%	27.9%	33.9%	0.4%
R2	13.1%	21.5%	28.1%	37.0%	0.2%

問 48 自分にはよいところがあると思いますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	41.4%	40.0%	12.3%	6.2%	0.2%
H31	43.7%	37.5%	11.9%	6.3%	0.7%
R2	37.2%	38.9%	15.3%	8.3%	0.3%

問 49 将来の夢や目標を持っていますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	74.1%	13.1%	6.3%	6.3%	0.3%
H31	74.3%	13.3%	6.4%	5.7%	0.3%
R2	65.7%	16.5%	8.8%	8.7%	0.3%

問 50 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30
H31	74.5%	21.0%	2.9%	1.2%	0.4%
R2	73.2%	21.2%	3.8%	1.6%	0.2%

問 51 難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	35.8%	42.8%	17.1%	4.2%	0.1%
H31	37.7%	43.9%	14.6%	3.3%	0.4%
R2	34.7%	43.8%	16.9%	4.5%	0.2%

問 52 学級みんなで協力して何かをやりとげ、うれしかったことがありますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	…	…	…	…	…
H31	58.4%	27.6%	9.4%	4.0%	0.7%
R2	53.2%	29.7%	11.3%	5.6%	0.3%

※ 友達と協力しながら、活動したり勉強したりすることは好きですか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	59.2%	29.1%	7.8%	3.5%	0.3%
H31	…	…	…	…	…
R2	…	…	…	…	…

問 53 あなたは、自分の住んでいる町がすきですか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	69.6%	22.2%	5.3%	2.5%	0.3%
H31	70.7%	21.4%	5.4%	2.0%	0.5%
R2	67.7%	23.4%	6.1%	2.5%	0.3%

問 54 今、住んでいる地域の行事に参加していますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	…	…	…	…	…
H31	…	…	…	…	…
R2	25.7%	31.8%	23.2%	18.9%	0.3%

問 55 地域や社会をよりよくするために、何をすべきか考えることがありますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	…	…	…	…	…
H31	27.3%	40.7%	22.8%	8.7%	0.5%
R2	24.0%	36.6%	26.8%	12.3%	0.3%

問 56 人が困っているときは、進んで助けていますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	…	…	…	…	…
H31	49.9%	39.3%	8.7%	1.7%	0.4%
R2	46.9%	40.6%	9.7%	2.4%	0.3%

II 調査結果の概要

【国語】

問 57 わからない言葉があるときは国語辞典（電子辞書をふくむ）を使用しますか。

	よく使う	どちらかといえば、よく使う	どちらかといえば、あまり使わない	あまり使わない	無回答
H30	28.3%	31.1%	23.1%	17.2%	0.3%
H31	30.0%	31.9%	22.6%	15.3%	0.3%
R2	33.6%	31.6%	20.6%	13.9%	0.3%

問 58 国語の授業で伝えたいことに合わせて事ごらを集め、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	…	…	…	…	…
H31	30.0%	41.6%	21.9%	6.1%	0.3%
R2	29.5%	41.0%	22.3%	6.8%	0.4%

問 59 国語の授業で意見などを伝えるとき、うまく伝わるように話の組み立てや表し方を工夫していますか。

	あてはまる	どちらかといえば、あてはまる	どちらかといえば、あてはまらない	あてはまらない	無回答
H30	…	…	…	…	…
H31	28.8%	44.8%	19.6%	6.4%	0.3%
R2	26.9%	44.0%	21.4%	7.3%	0.4%

【社会】

問 60 社会の授業で、学習課題（学習問題）について、調べたり話し合ったり考えたりすることは好きですか。

	すきだ	どちらかといえば、すきだ	どちらかといえば、すきではない	すきではない	無回答
H30	…	…	…	…	…
H31	41.1%	32.6%	18.7%	7.2%	0.4%
R2	37.0%	33.7%	20.3%	8.6%	0.4%

問 61 社会の授業で、地図帳を使用していますか。

	よく使用している	使用している	どちらかといえば、使用している	あまり使用していない	無回答
H30	…	…	…	…	…
H31	34.5%	34.7%	18.5%	11.7%	0.6%
R2	35.9%	34.2%	18.2%	11.3%	0.4%

問 62 社会のできごとやニュースに関心がありますか。

	関心がある	どちらかといえば、 関心がある	どちらかといえば、 関心がない	関心がない	無回答
H30	41.9%	36.0%	14.5%	7.2%	0.4%
H31	42.3%	35.9%	14.4%	6.6%	0.5%
R2	41.2%	36.8%	14.7%	6.8%	0.5%

【算数】

問 63 算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか。

	思う	どちらかといえば、 思う	どちらかといえば、 思わない	思わない	無回答
H30
H31	59.1%	24.9%	9.9%	5.7%	0.4%
R2	53.0%	27.6%	12.3%	6.6%	0.5%

問 64 算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずに色々な方法を考えますか。

	考える	どちらかといえば、 考えいる	どちらかといえば、 考えない	考えない	無回答
H30
H31	53.5%	33.7%	9.2%	3.3%	0.4%
R2	50.0%	35.3%	10.5%	3.7%	0.5%

問 65 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。

	考える	どちらかといえば、 考えいる	どちらかといえば、 考えない	考えない	無回答
H30
H31	51.1%	31.3%	12.2%	4.8%	0.5%
R2	49.5%	31.2%	13.4%	0.6%	0.5%

【理科】

問 66 理科の勉強で、実験や観察をすることは好きですか。

	すきだ	どちらかといえば、 すきだ	どちらかといえば、 すきではない	すきではない	無回答
H30	69.5%	19.9%	6.5%	3.5%	0.6%
H31	72.6%	18.0%	6.0%	2.7%	0.7%
R2	70.1%	19.7%	6.5%	3.2%	0.5%

問 67 理科の授業で、自分の考えを周りの人に説明したり、発表したりしていますか。

	している	どちらかといえば、 している	どちらかといえば、 していない	していない	無回答
H30
H31	28.3%	34.2%	26.8%	10.2%	0.6%
R2	26.6%	31.6%	28.3%	13.0%	0.5%

II 調査結果の概要

問 68 理科の授業の後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができませんでしたか。

	よくできた	時々できた	あまりでてこなかった	全くでてこなかった	無回答
H30
H31	38.6%	42.5%	14.5%	3.9%	0.5%
R2	35.0%	43.3%	16.1%	5.1%	0.5%

【外国語活動、外国語】

問 69 もし、道で出会った外国人に英語で話しかけられたら、どうしますか。

	何とか英語で話そうとする	日本語で話そうとする	だまっている	その場からにげる	無回答
H30	75.0%	13.5%	4.9%	5.9%	0.7%
H31	76.0%	13.7%	4.6%	5.1%	0.7%
R2	75.7%	13.2%	4.8%	5.7%	0.6%

問 70 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思っていますか。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
H30	52.3%	26.7%	11.7%	8.5%	0.8%
H31	51.8%	28.3%	11.7%	7.5%	0.7%
R2	46.2%	30.1%	13.8%	9.2%	0.6%

問 71 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事についてみたいと思っていますか。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
H30	27.5%	22.8%	25.2%	23.9%	0.6%
H31	24.5%	23.4%	26.5%	24.9%	0.6%
R2	21.5%	22.3%	28.4%	27.1%	0.6%

【総合的な学習の時間】

問 72 総合的な学習の時間では、自分が興味をもったことや、疑問に思ったことを学習できていると思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
H30	34.6%	40.7%	17.3%	6.9%	0.7%
H31	42.3%	39.1%	13.1%	4.8%	0.6%
R2	38.3%	40.6%	15.0%	5.5%	0.6%

3.生活や学習についてのアンケート

問 73 情報を集めて、整理したりまとめたりするやり方がわかるようになったと思いますか。

	そう思う	どちらかといえば、 そう思う	どちらかといえば、 そう思わない	そう思わない	無回答
H30	45.7%	36.8%	12.0%	4.8%	0.6%
H31	42.4%	40.2%	12.8%	4.0%	0.6%
R2	40.6%	39.8%	13.9%	5.0%	0.6%

問 74 総合的な学習の時間では、周りの人と話し合ったり、協力したりして学習を進めていますか。

	進めている	どちらかといえば、 進めている	どちらかといえば、 進めていない	進めていない	無回答
H30	…	…	…	…	…
H31	49.2%	37.0%	10.2%	2.9%	0.6%
R2	48.4%	37.0%	10.2%	3.7%	0.6%